

V 自然科学の分析・調査

大館野遺跡出土須恵器の胎土分析¹⁾

奈良教育大学（当時） 三 辻 利 一

東北地方北部における平安時代末期の最大の須恵器生産地は青森県五所川原市の窯跡群である。最近、胎土分析によって五所川原窯跡群産の須恵器が五所川原市周辺は勿論、青森県東部の八戸市周辺の遺跡、さらには、秋田、岩手両県の北部、北海道南部の遺跡からも検出されており、相当大きな移動力をもっていたことが立証されつつある。したがって、青森県、秋田・岩手県北部の平安時代末と推定される遺跡から出土する須恵器の産地推定をする場合には、胎土分析によって一応、地元、五所川原窯跡群産須恵器に対比してみる必要がある。五所川原産の須恵器はK、R b量が比較的多いことで東北地方太平洋側地域産の須恵器とは容易に識別される。また、C a、F e量が多いことで秋田県、山形県産の須恵器とも相互識別される。さらに、F e量が多いことで、石川県能登半島産の須恵器とも容易に識別される。したがって、蛍光X線分析によって五所川原窯跡群産須恵器を検出することは容易である。

今回は大館野遺跡、竪穴住居跡から出土した7点の須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。データ解析は作図法によって五所川原領域に対応させる方法をとった。全因子で五所川原領域に対応した場合、五所川原産と判定した。

第145図にはR b - S r分布図を示す。この図には、これまでに多数分析した五所川原窯跡群産須恵器の全分析値を包含するようにして五所川原領域を設定してある。五所川原産の須恵器であるためには、少なくとも五所川原領域に入らなければならない。そうすると、7点の須恵器はすべて五所川原領域内に分布し、五所川原産の可能性を示した。

第146図にはK因子を対比してある。K因子でも7点の須恵器は地元、五所川原領域に対応している。

第147図にはC a因子を対比してある。C a因子でも7点の須恵器は五所川原領域に対応している。

第148図にはF e因子を対比してある。7点ともF eの含有量は多く、五所川原領域に対応した。

この結果、7点とも、全因子で五所川原領域に対応しており、これら7点の須恵器は五所川原窯跡群産とみられる。

このように、秋田県北部の遺跡に五所川原窯跡群産の須恵器が移動していたことが明らかになった。目下のところ、五所川原産須恵器の移動の南限は秋田県北部までである。秋田県南部の遺跡には未だ検出されていない。²⁾

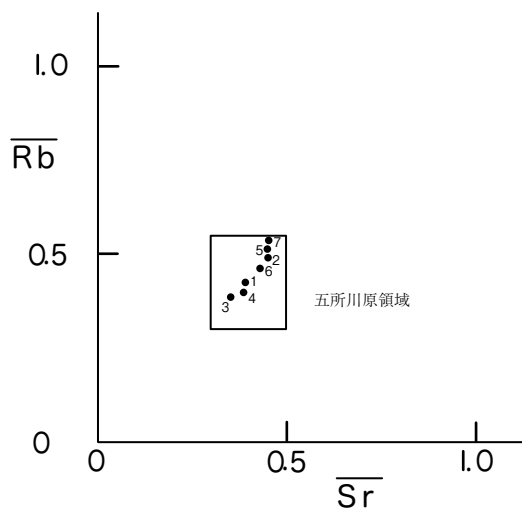
このようにして、五所川原窯跡群の須恵器の移動分布が次第に明らかにされて来ており、その移動の原動力は政治的なものであったのか、それとも、交易という商業的なものであったのかを考える時期が近づいて来ていると言えよう。

1) 本稿は昭和62年頃、秋田県埋蔵文化財センターを通じ、当時奈良教育大学に在籍されていた三辻利一氏により、分析していただき、寄稿されていたものである。掲載にあたり、三辻氏に快諾頂いた。

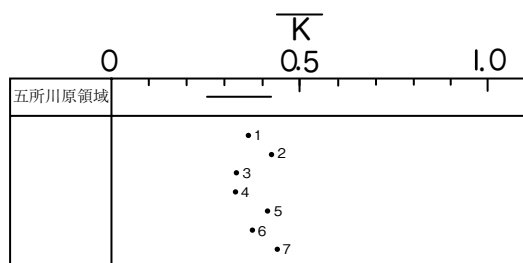
2) 現在は、横手市大鳥井山遺跡で、五所川原産の可能性のある須恵器が出土していることが確認されている（横手市教育委員会2009）。

第1表 大館野遺跡出土須恵器分析試料 (表は嶋影作成)

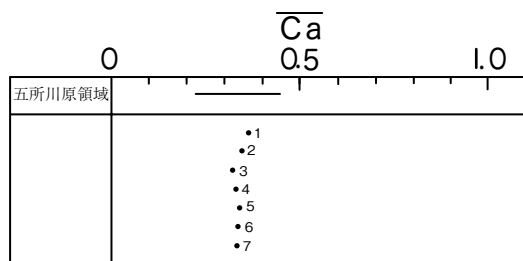
資料番号	挿図番号	種別	器種	出土地	推定産地
1	第72図	須恵器	甕	SI33	五所川原
2	第73図	〃	〃	〃	〃
3	第33図	〃	〃	SI11	〃
4	第76図	〃	〃	SI34	〃
5	第75図	〃	長頸瓶	〃	〃
6		〃		SI?	〃
7		〃		SI?	〃



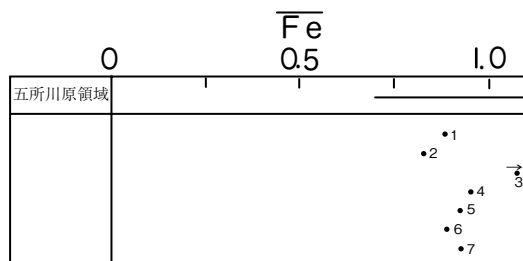
第145図 大館野遺跡竪穴住居跡出土須恵器のRb-Sr分布図



第146図 大館野遺跡竪穴住居跡出土須恵器のK量



第147図 大館野遺跡竪穴住居跡出土須恵器のCa量



第148図 大館野遺跡竪穴住居跡出土須恵器Fe量

VI 総 括

三ヶ年にわたる大館市立矢立小学校・同中学校改築建設工事に係る発掘調査の結果、若干の縄文・弥生時代及び中世の遺構と遺物を除いては、平安時代の竪穴住居跡56軒、竪穴掘立柱建物跡3棟、竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡3棟（内、有溝掘立柱建物跡2棟）、掘立柱倉庫跡10棟などの建造物や製鉄炉跡3基、炭窯跡1基、区画施設・集排水用の溝遺構10数条、垣根跡、数基の土坑や焼土遺構などが調査区全域で検出された。出土遺物はわずかの縄文土器片・石器片・陶磁器片のほかは、平安時代の土師器・須恵器、鉄器・炭化した木製品がおもなものである。以下、検出遺構と出土遺物について、その整理と問題点について述べてみたい。

1. 遺構の構成と変遷

(1) 平安時代

1) 検出遺構の先後関係について

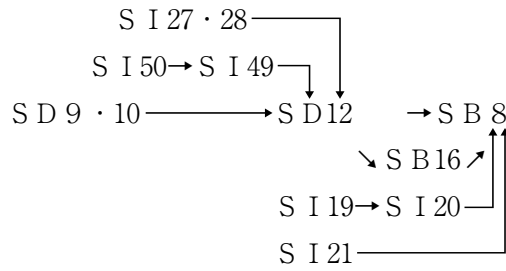
検出された各遺構の重複切り合い関係をそれぞれ列挙してその先後関係を示してみよう。

〔Ⅰ区〕調査区中央部のS I 1・3・7・9・S X 2の重複先後関係は、S X 2の炉廃滓がS I 9の埋積土を掘り込んだ不整形土坑（S X 1）に廃棄されている。S X 2を切り込んでS I 3を構築、S I 3のカマド構築粘土がS I 7の埋積土上に流れ推積、S I 1がS I 3を切り込んで構築している。以上の重複切り合い関係から次の先後関係が成り立つ。ただし、S X 1の炉廃滓はS X 2を切り込んでS I 3を構築した際のものとも考えられ、S I 9→S X 2の先後関係は若干不確定の要素もある。

S I 7、
S I 9→S X 2→S I 3→S I 1

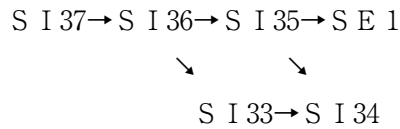
また、Ⅰ区内の他の重複切り合い関係から、S I 2→S B 2、S I 6→S B 4（旧）→S B 4（新）が確認されている。S I 10とS B 5は竪穴住居跡と掘立柱建物が一体となる建造物でこれを「竪穴掘立柱建物跡」（詳細考察は後述）と呼び、S I B 1と仮称するとS I B 1→S I 12→S D 5の先後関係を確認できる。

〔Ⅱ区〕Ⅱ区ではS D 8・9・10・12の溝遺構と各遺構の切り合い関係が、Ⅱ区内の広い範囲での先後関係を把握し得る。S D 9とS D 10はともに並行する一体の溝遺構で、溝に挟まれた内側には竪穴や掘立柱の遺構が見られないことから、溝内側は集落が存続したかなり長期間にわたって、集落内の公共性の強い使われ方が継続された、すなわち端的に言うところ集落内通路であったと考えるのが妥当であろう。S D 9・10を切り込んでS D 12が掘られ、S D 12を切り込んでS D 8が掘られている。そこからS D 9・10→S D 12→S D 8の先後関係が確認できる。S D 12はS I 49・27・28を切り込み、S B 16に切り込まれている。S D 8はS B 16・S I 19・20・21を切り込む最も新しい時期のものであり、また、S I 50をS I 49が切り込み、S I 19のカマドがS I 20の埋積土上にある。これを先後関係図に表すと



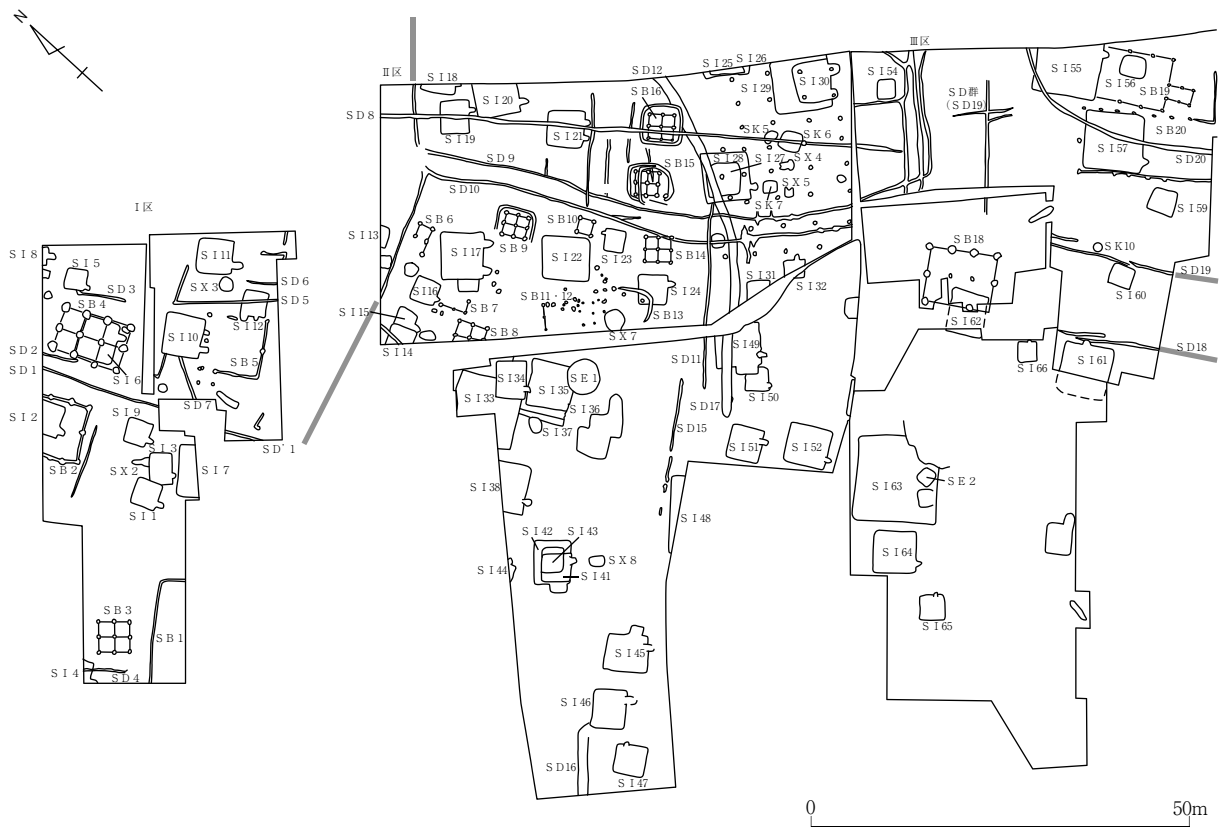
となって、S I 27・28・49・50がS D 9・10と同期である可能性が高く、S I 19・20・21も、その方向性・区画関連性から見てS D 12よりもS D 9・10に関連が強いと考えられる。S B 16はS D 12とS D 8の中間期にあることは確実で、S B 14がS D 10を切り込んで構築していることから、S D 9・10→S B 14の先後関係があつて、S B 16とS B 14の存立時期は近い時期と見てよいと考えられる。

Ⅱ区中央部のS I 33・34・35・36・37・S E 1の重複切り合い関係から、S I 37をS I 36が切り込み、S I 36をS I 33とS I 35が切り込み、S I 34がS I 33とS I 35の上位に構築され、S E 1がS I 35を切り込んでいる。これを先後関係図で表すと



となって、S I 33とS I 35の先後関係、S I 34とS E 1の先後関係は不明瞭であるが、志野焼皿が出していることから、S E 1は近世以降の井戸であると考えられる。

S I 41・42・43の重複遺構は、切り合い関係からS I 43→S I 42→S I 41の先後順序が確認できる。S I 14・15の重複遺構はS I 15→S I 14の先後順序が、S I 24とS B 13の重複遺構はS I 24→S I 13



第149図 建物群の遺構配置

の先後順序が、S I 29・30の重複遺構はS I 29→S I 30の先後順序が確認される。

〔Ⅲ区〕Ⅲ区東側のS I 55とS B 19、S I 57とS B 20はそれぞれ竪穴住居跡と掘立柱建物が一体となる「竪穴掘立柱建物跡」で、S I 55とS B 19の竪穴掘立柱建物跡をS I B 2、S I 57とS B 20の竪穴掘立柱建物跡をS I B 3と仮称する。これらは建物が接近していて同時期には建ち得ない。S I B 2の掘立柱建物南西隅柱が、S I B 3の掘立柱建物東壁溝を切り込んでいることから、S I B 3→S I B 2の先後関係が確認できる。

Ⅲ区中央部、S I 62とS B 18の先後順序が、S I 63とS E 2の重複遺構はS I 63→S E 2先後順序が、S I 61のカマドをS D 18が切り込んでいることからS I 61→S D 18の先後順序が確認されている。

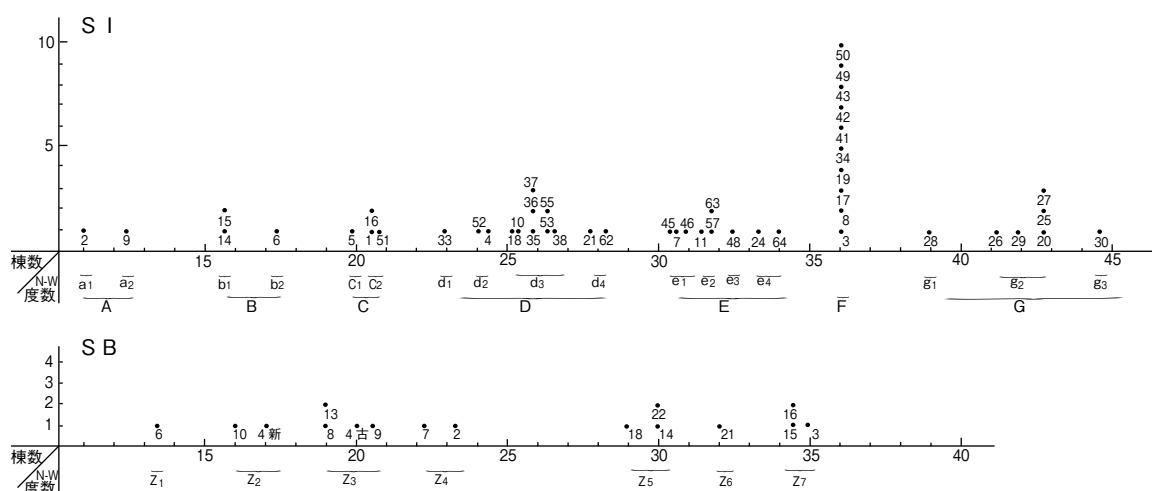
以上が各遺構の重複切り合い関係の先後関係である。しかし、それぞれの先後関係が全体でどのように結び付き、調査区に検出された各遺構が全体でどのような相関関係にあり、先後順序がどのようになるのかはこのままでは知ることができない。ここで見た先後順序を基礎に据えて、次に全体的な相関関係、先後順序を見てみたい。

2) 南側壁カマド竪穴住居跡の相関関係

前項の先後関係では、Ⅰ区中央部のS I 1・3・7・9・S X 1・2から4～5期の存立時期を確認、Ⅱ区のS D 8・9・10・12の溝遺構の切り合い関係から5～6期の存立時期を確認、S I 33・34・35・36・37から4～5期の存立時期を確認し得た。これらの重複切り合い事実から得られた4～6期の先後関係が、それぞれ相関的にどのように関係し合い、他の遺構がそれぞれの先後関係遺構のどの単位と相関関係にあるのかは不明である。ここではそれらの相関関係を追求してみよう。

第2表は上段が竪穴住居跡、下段が掘立柱建物跡のそれぞれの建物中心軸方向を示したものである。竪穴住居跡についてはその多くが南壁側にカマドがとり付けられていることから、カマド中心軸線と東西壁の方向を勘案調整して南北方向に竪穴中軸線をとった。第3表の竪穴住居一覧では南壁側にカマドがあるため、S方向から何度、EもしくはWに振れているかを表したが、折り返すことによってN方向から何度、WもしくはEに振れているかを知り得るのはもちろんである。掘立柱建物についても竪穴住居跡と比較しやすいように、南北同様に中軸線をとったし、S B 4・18の長軸線が南方向軸線上にあってこれも好都合であった。

第2表 大館野遺跡検出建物跡の方向



竪穴住居跡の方向性、その基本には南側壁にカマドがとり付く例が中心であるが、細かく見ると16～17ブロック、大きくは7～9ブロックにグルーピングできることが明瞭であるが、ここでは大きなブロックを7つにグルーピングし、それらについて細かなグルーピングも合わせて見ていながら、先に見た先後順序との整合性、矛盾点などを追求してみよう。

第2表を見て特に目につくのが36度10分にあつまる10棟のFグループであろう。中でS I 3はS I 1に切り込まれているもののI区内では新しい時期の竪穴であり、S I 34はⅡ区中央部の切り合い関係では最も新しい時期のもので、ともに先後関係では新しい時期に属する。S I 41・42・43はまったく同位置に構築された竪穴で、これは同一住人もしくは同系住人による建て替えと考えてよいだろう。S I 49はS D 12に切り込まれていて、S I 19がS D 8に切り込まれていることから、先に見たS D 12→S D 8の先後関係から、S I 49とS I 19が同時期に存在しても矛盾はない。S I 50→S I 49の関係はS I 41・42・43の時間の経過の中で存在したと考えてよいのではなかろうか。Fグループは調査区全体で見ると、中央部から北側地区に分布があつて、これらがある時期の集落を構成していたと見てよいだろう。

次は30度30分から34度10分の間にあつまる9棟のEグループについて見てみよう。これらは調査区全体に分布していて他遺構との先後関係がわかるものはS I 7とS I 24及びS I 57とS B 20からなるS I B 3である。S I 7はS I 3より古く、S I 24はS B 13より古く、S I B 3はS I B 2より古くなることは先に見た通りである。中でS I 63とS I 64は建物壁（軒先）が接近しすぎていて同時期には存在しえないが、S I 63は32度00分、S I 64は34度10分と、Eグループ内の小グループではe 2とe 4グループにあつて、Eグループ内での時間差を考えてよいだろう。

次は23度10分から28度20分の間にあつまる13棟のDグループについて見てみよう。これらはEグループ同様に調査区全域に分布している。中でⅡ区中央部のS I 37・36・35・33は切り合い関係にあつて、しかもFグループのS I 34より以前の竪穴住居跡である。またS I 55とS B 19から構成されるS I B 2がEグループのS I B 3を切り込んでいることは前述した。調査区南東端に検出された調査区内最大規模のS I 58については床面から白磁が出土していることから、中世のものと考えたい。しかし、S I 33・63と柱穴から見た構造上では類型性、系統性が見られるし、S I 63と同グループであるS I B 3の掘立柱建物南東端から東に延びる区画溝遺構とも重複していないことからS I 58をDグループに組み入れてよいのかもしれないがここでは除外した。

次は39度00分から44度30分の間に7棟が散在するGグループで、他のグループのあり方から見ると、g 1とg 2とg 3はそれぞれが大きく3つのグループに分けてよいほどの間隔をもっている。しかし、ここに組み入れられた7棟は、すべて調査区中央部東縁側、遺構上からみるとS D 9に区画された区画内にすべて集中していて、しかもS I 25→S I 26、S I 27→S I 28、S I 29→S I 30が同一地点における重複で、同一住人、同系住人による建て替えと考えられ、Gグループは大館野集落遺跡跡の中ではS D 9・10の集落内通路と密接な係り合いのあつた時期に構築された集落を構成する竪穴住居跡グループと見てよいであろう。

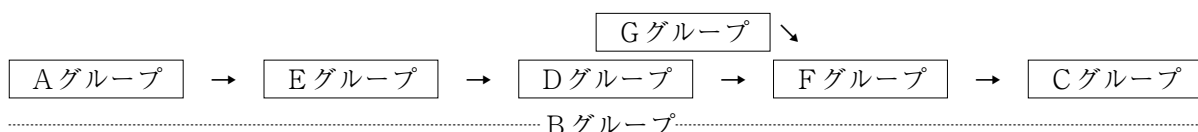
次に19度50分から20度40分の間に位置する4棟のCグループであるが、S I 1がI区中央部で最も新しい時期の竪穴住居跡であることがわかっている以外は、他の3戸は他遺構との切り合いもなく先後順序を知ることはできない。しかし、S I 5がS I 8と、S I 16がS I 17と、S I 51がS I 50・49のというようにS I 1がS I 3と同様Fグループとの先後関係が密接と考えられることから、CグループはFグループに後続するものと見てよいだろう。

次に15度40分に2棟、17度20分に1棟のBグループであるがb 1グループはS I 15→S I 14への建

て替えであり、S I 6はS B 4（旧・新）より先行することがわかっているほかは、他遺構との先後関係は不明である。

次に11度00分のS I 2と12度30分のS I 9の2棟のAグループであるが、I区中央部の先後順序ではS I 9が最も古い時期のものであり、両竪穴住居跡ともI区中央部にあって密接な関連があると考えられることから、Aグループが今次調査で検出した遺構の中ではEグループとともに古い時期にあたるものであろうと考えられる。S I 9埋積土はS X 1に切り込まれているものの、S X 1に影響を受けていない埋積土層の観察からは、まったく軽石粒が含まれない黒褐色土層からなっていることが確認されているし、S I 2の場合は下位推積層上の中位面に壁沿いに鍋底状に軽石粒を多量に含む混合土が推積していることから、Aグループは軽石推積以前と直前そしてS I 2は軽石降下期直後の埋積で、Eグループの竪穴全体の埋積土層中に軽石粒が混入しているのとは埋積状況（時期）の先後順序をはっきり読みとれる。

以上見てきたAからGグループの各グループ内では、DグループのS I 37・36・35・33やFグループのS I 43・42・41のように同一グループ内での建て替えなどはあるものの、存立関係に矛盾は見られないことがわかった。またGグループやAグループのような面的なまとまりを確認することができ、CグループがFグループと密接な係りをもちながら後続するものであることもわかった。そこで各グループの先後関係を前項で見た遺構の切り合い関係と矛盾なく整理すると次のような模式図が成立すると考えられる。

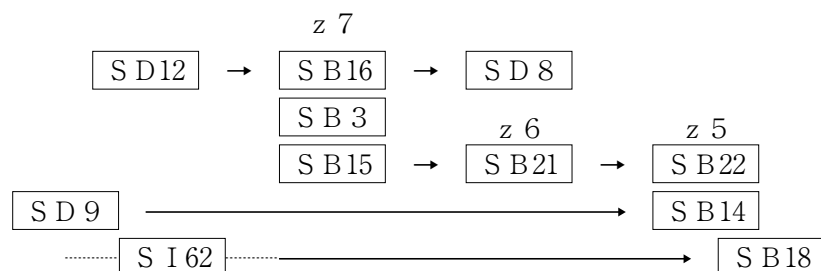


これらの中でBグループの先後関係が不明である。唯一S I 6がS B 4（旧・新）より先行することがわかるだけで他グループとの切り合い関係はない。第2表のBグループの位置から見ても、両隣はAとCグループで、模式図では両極に位置していてBグループの位置を推測することもできない。Bグループは模式図のAからCグループまでの間のどこかに存立したと見ておくこととする。

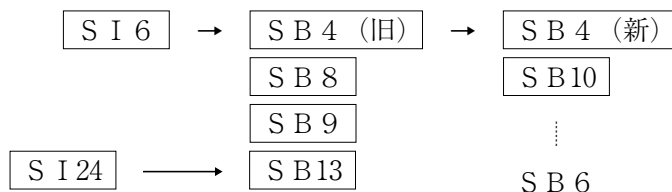
3) 掘立柱建物跡の相関関係

第2表下段の掘立柱建物跡のN - W偏度数表と、上段の竪穴住居跡のグループとの関係を見てみよう。掘立柱建物跡の偏度数はかなりのバラツキがみられるが、それらをz 1からz 7のグルーピングしてみた。竪穴住居跡の偏度数と対比してみると、竪穴住居跡各グループ間の空白部に掘立柱建物が位置しているように見掛け上では見えるが、それがどのような意味をもつかは判断できない。それぞれの切り合い関係を追求してみよう。

z 2グループのS B 4（新）は、z 3グループのS B 4（旧）を切り込んでいて、S B 4（旧・新）はともにS I 6を切り込んでいる。z 3グループのS B 13はS I 24を切り込んでいる。z 4グループのS B 2はS I 2より新しい。z 7グループのS B 15をz 6グループのS B 21が切り込み、S B 21をz 5グループのS B 22が切り込んでいる。また、z 5グループのS B 13はS I 24を切り込み、S B 18はS I 62を切り込んでいる。そしてz 7グループのS B 16は先に見たようにS D 12→S B 16→S Dの先後順序が、z 5グループのS B 14がS D 9を切り込んでいるのが確認されている。それらは

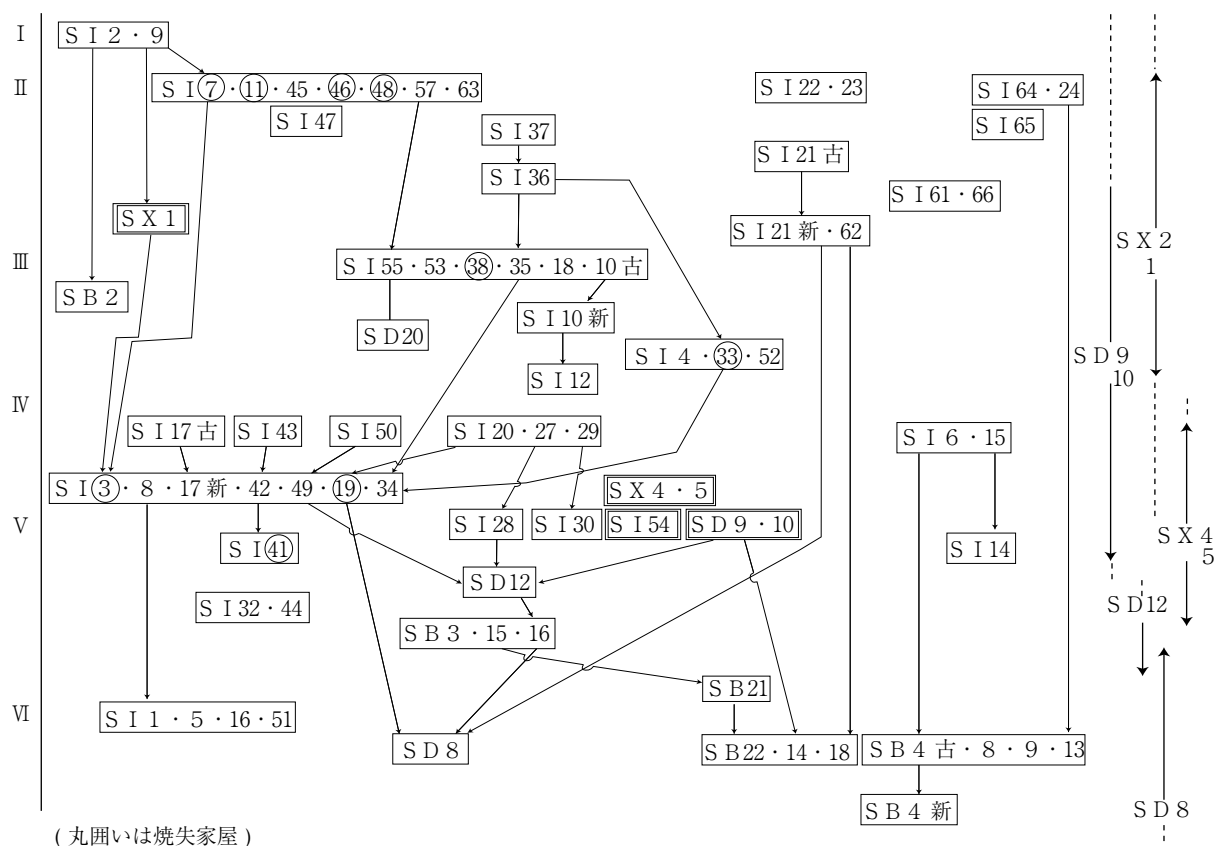


上記のような先後関係模式図となるであろうし、 z_2 と z_3 の先後関係は次のようになるであろう。



掘立柱建物跡の先後順序については以上のことより知り得ないし、これらのグループがどの竪穴住居跡グループと組み合わせるのか、あるいは第2表の見掛け上 z 1 から z 4 と z 5 から z 7 との二つのグループに分かれているような存在を示すのか、あるいはこれらが全体で一時期を構成するのか判然としない。ただし、数期にわたる集落の中であって、相当長期間にわたって通路としての使命をはたしたと考えられる S D 9・10を切り込んでいる S B 14は、古代大館野集落の終末期の構築と考えてよいのではなかろうか。

これまで前項で追求してきた竪穴住居跡、掘立柱建物跡のそれぞれの先後関係に、製鉄炉跡なども勘案すると、第150図のようになる。



第150図 大館野遺跡検出遺構相関図

(2) 中世以降

中世以降の遺構はⅡ区とⅢ区に分布している。遺構は竪穴建物跡・井戸跡・組石土坑などである。建物跡は約5棟、井戸跡は2基である。中世以降と考えられる掘立柱建物はS B 17のみであるが、この他にも当期に位置づけられる掘立柱建物跡は存在すると見られる。また、建物跡として復原しえなかったものもあろうかと思われる。これについては第8～11図（18～21頁）にその分布を示した。

集落構成 居住区を構成する建物跡と井戸跡の分布は3地点に分けられる。1つ目はⅡ区中央、グリッド19列付近のものであり、重複する竪穴建物跡2棟・井戸1基である。建物跡は比較的小規模であり、その方向は北東・南西方向である。2つ目はグリッドの30列付近であり、竪穴建物跡1棟・井戸跡1基を数える。さらに調査区外南側へ延びるものと考えられ、復原しえなかった柱穴群も多数存在する。建物跡の方向は北東・南西方向で、1地点の建物跡と平行する。3つ目はグリッド40列付近にある竪穴住居跡1棟のみである。建物の方向は北西・南東方向である。

溝の中ではS D 15が東偏約63度で、建物と一致する。土地を区画する溝と推定される。これらの遺構は出土遺物から見て、12世紀から17世紀頃と考えられ、時期に幅がある。

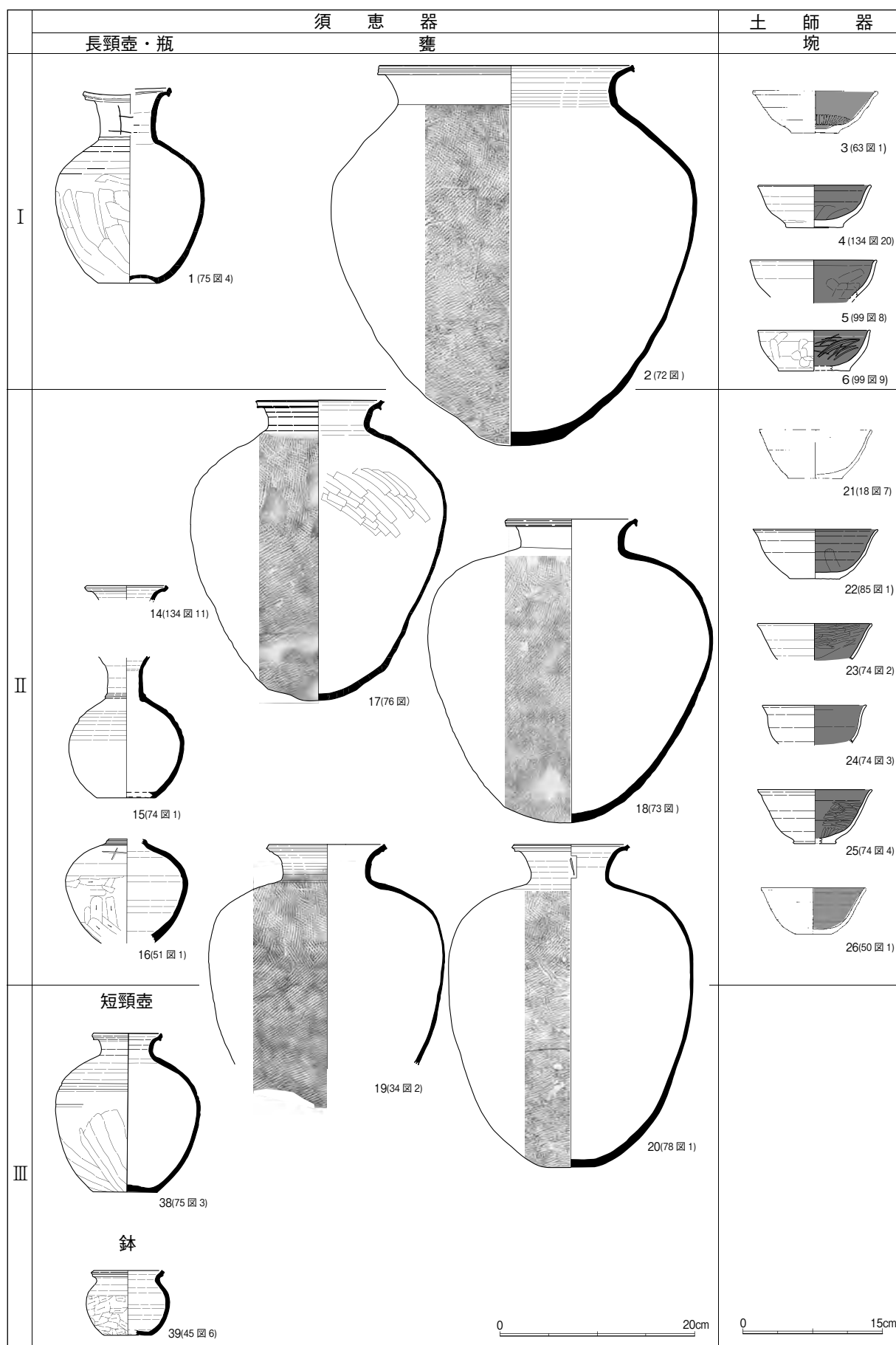
建物 中世の建物跡は、近年、県内でも調査例が増え、判明してきている。中世の竪穴建物跡は奈良・平安時代のものと比較して、いくつかの相違点がある。まず、竪穴の一部に張り出し部をもつものが多い。また柱穴の平面が四角く、壁際に等間隔に並ぶ。次に、周溝（壁溝）をもたないことがあげられる。奈良・平安時代にも竪穴建物跡はあるが、これは一般に居住を目的とした建物と見られる。ところが、中世の竪穴建物跡は住居と見るよりも倉庫などとして考えたほうがよいものが多い。本遺跡では、平安時代の竪穴建物跡の床構造は板敷きのものが見られるが、中世は床板をもっていなかったものと推察される。

井戸 本遺跡では井戸跡が2基検出された。いずれも井戸枠をもつ円形ないしは方形の井戸跡である。規模は長径2.1から2.3m前後・短径2.1m前後、深さは1.9から3m前後を測る。これらの井戸は建物と有機的関連をもっていたものと思われる。しかし、井戸内出土の遺物は相対的に少ないため、個々の井戸の時間差や建物との相関関係を把握することはできなかった。

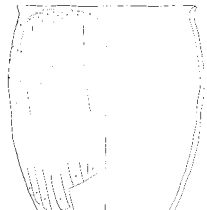
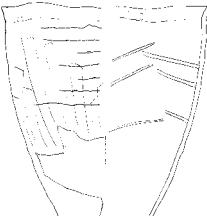
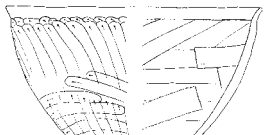
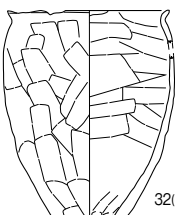
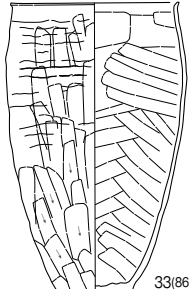
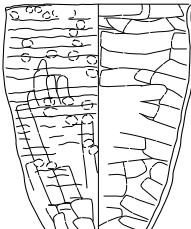
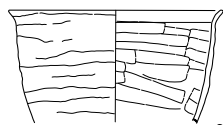
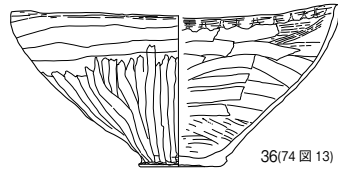
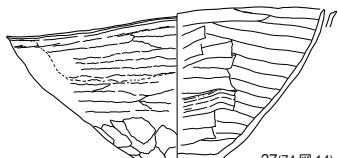
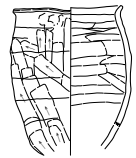
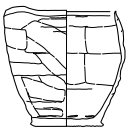
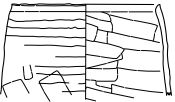
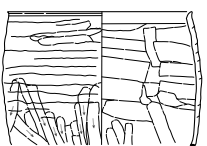
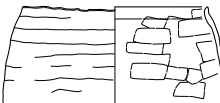
2. 大館野遺跡における平安時代の土器

今回の調査では豊富な土器が出土した。本遺跡では10世紀の良好な一括土器がいくつかあり、当期の土器様相はかなり明確に把握された。この時期は平安時代中期にあたり、律令国家体制の崩壊から王朝国家体制の成立という過程にある。

これまで、出羽の北東部の大館地方における平安時代の土器は、9世紀後半から10世紀前半代を中心とする池内遺跡出土例、9世後葉から10世紀初頭の山王台遺跡出土例、10世紀代を中心とする釈迦内中台Ⅰ遺跡出土例など徐々に明らかになりつつある状況であった。しかし、10世紀中葉以降、土器様相がどのように展開するののかという問題はかならずしも明らかとはいえない。したがって、大館野遺跡出土の土器によって、大館地方の平安時代中期の土器の概略が把握されることは意義深いものである。ただ、この土器様相がそのまま出羽北部米代川全域の様相と理解することは妥当ではないであろう。米代川流域のなかでも地域によって隣接する地方の影響などによる地域色が存在するようである。なお、当地方にもたらされた須恵器の主な産地である津軽地方五所川原の須恵器窯の実態はかなり明らかにされつつある（五所川原市教育委員会2003、2005）が、五所川原須恵器窯跡群と能代市



第151図 大館野遺跡における平安時代の土器

土 師 器			備 考	年代
				915
甕  7 (30 図 2)  8 (30 図 3)  9 (30 図 1)  10 (30 図 4)  11 (30 図 5) 鍋  12 (30 図 9)  13 (30 図 10)			1・2 S I 33 出土 3 S I 28 出土 4 II 区包含層出土 5・6 S I 53 出土 7～13 S I 10 出土	
II  29 (85 図 4)  27 (74 図 5)  28 (74 図 6)  30 (85 図 2)  31 (85 図 3)  32 (85 図 6)  33 (86 図 2)  34 (86 図 4)  35 (86 図 5)  36 (74 図 13)  37 (74 図 14)			14 II 区包含層出土 15・18・23～25・27・28 36・37 S I 33 出土 16・26 S I 19 出土 17 S I 34 出土 19 S I 11 出土 20 S I 35 出土 21 S I 2 出土 22・29～35 S I 45 出土	
III  40 (80 図 3)  42 (77 図 1)  41 (80 図 1)  43 (81 図 2)  44 (80 図 2)  45 (81 図 5)  46 (81 図 6)  47 (81 図 7)			38・42・45 S I 34 出土 39 S I 16 出土 40・41・43・44 ・46・47 S I 38 出土	1000

十二林遺跡の間をつなぐ窯跡が発見されておらず、かならずしも明確ではない。

(1) I 期からⅢ期の区分と暦年代

大館野遺跡における一括土器とその推定年代は10世紀前葉から10世紀末までの約80年をI期からⅢ期に分けた(第151図)。この区分はあくまでも一括土器を主体として設定したものであり、それぞれの間で変化が大きいものと小さいものがあると思われる。また消費遺跡での一括土器という性格上、個々の土器の示す時間相には一定の幅があり、それぞれの一括土器から任意に土器を抽出すれば、ほとんど変化のないもの、あるいは新旧関係が逆転するものがある。しかし、一括土器総体として個々を把握すれば、一定の傾向や様相差をとらえることは可能であり、ここにI期からⅢ期までの時期設定がなされるのである。

暦年代はこれを直接示す根拠はまったくないが、次の点によりおよその年代が推定される。まず、当遺跡の竪穴住居及び建物跡堆積土中からは915年頃降下とされるTo-a火山灰堆積はごく一部をのぞき見られず、遺跡の開始年代はおおむねそれ以降と推定される。I期のS I 53出土土器は山王台遺跡S I 01一括土器と類似性が指摘されるが、山王台遺跡は竪穴住居内からTo-a降下火山灰が検出され、10世紀初頭に廃絶した集落であり、これを介して土器年代が比定される。次に津軽地方からの搬入品と考えられるS I 33カマド出土の長頸瓶や甕は10世紀第2～第3四半期の前田野目窯(五所川原市教育委員会2003)で焼かれたものとみられ、これによってS I 33出土土器の年代が比定される。また、S I 34出土の壺が同前田野目窯跡群のうち、MD 3号窯の須恵器と考えられることが注目される。MD 3期は10世紀第3四半期に比定されており(五所川原市教育委員会2003)、これより先行するS I 33出土土器は10世紀中葉を中心とする時期と考えられる。以上の3点をおおよその根拠として、それぞれの年代を推定した。

(2) 諸段階の設定とその様相

10世紀の土器はいうまでもなく須恵器と土師器を主体とする。本遺跡では須恵器が相対的に少なく、土師器の器種も大半を壺と甕類が占め、これらの土器のあり方は、比較的単純である。しかし、これらの消長・展開や技法上の変化をみると、ほぼ3つの段階に分けて考えることができる。以下、各段階ごとに概観する。

I 期 10世紀前葉の時期である。須恵器は少ないが、五所川原須恵器窯の持子沢期の長頸瓶や大甕が存在する。土師器壺は内面黒色が多い。底部は糸切りの平底であり、1点のみであるが小型甕も底部糸切りのものが存在し、壺と甕が互いに関連した製作技法によっていることが知られる。壺は無台で、底径が口径の1/2前後(底径指数50)で、「坏」というより「壺」というべき形態である。壺は内面黒色処理を行うもの(第151図3～6)が通有である。底部は回転糸切の後、ヘラケズリで消されているものが若干例あるが、Ⅱ期以降ほとんどみられない。

Ⅱ 期 10世紀中葉を中心とした時期である。土師器壺は底部糸切りの平底であり、I期のものとは形態も異なる。内面黒色処理した黒色土師器がほとんどを占める。土師器の甕・鍋はすべてロクロ不使用のもので、口縁部が「く」の字状に外反するものが多い。器壁は厚く、器表面は丁寧なヘラケズリする。

貯蔵形態の須恵器甕類に変化がみられる。肩が張る器形となり、タタキ目が細くなる。五所川原の前田野目窯跡群の前半期にあたる。

Ⅲ期 10世紀後葉にあたる。須恵器は少ないが、五所川原須恵器窯の終末期である。貯蔵形態は短頸壺と甕がほとんどで、器種は少ないようである。甕のタタキ目は前段階より細かい平行タタキ目が目立つ。土師器碗は相対的に少なく明確ではないが、内面黒色処理をしないものが増加するようである。甕は大小ともに口縁部が屈曲せず、内湾しつつも単純なつくりとなる。器壁が薄く、調整が粗雑になり、粘土紐の巻上げ跡を残すものが多い。

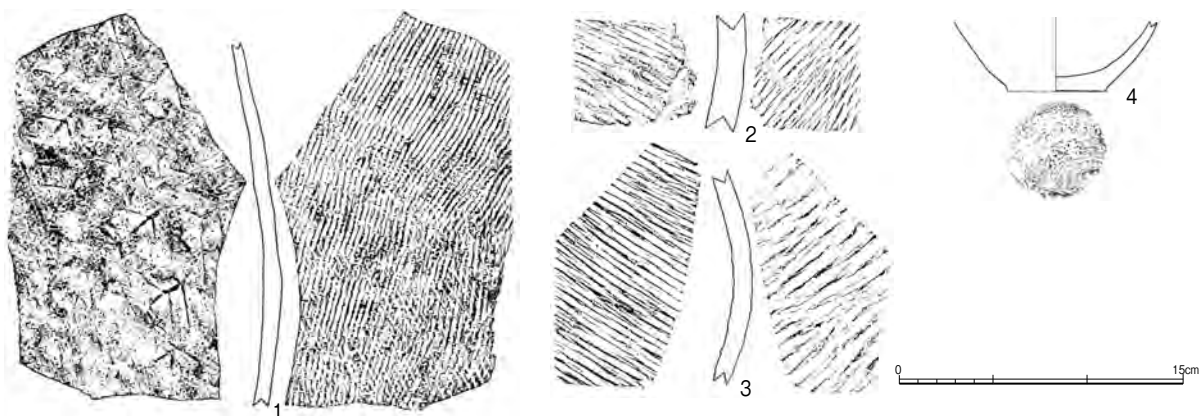
(3) 若干の問題点

10世紀における土器の変遷を、以上のように理解すると、これから多くの問題が派生してくる。いまここでは多くを論じる用意はなく、須恵器窯との関係などについて若干述べるに止めたい。

津軽五所川原地方の須恵器窯は津軽山地の南西端の丘陵・台地上に東西に分かれて分布している。南西側に高野窯跡・持子沢窯跡群が存在し、北東側に前田野目窯跡群がある。このうち高野窯跡は壺（瓶）の口縁部にかえりを有する段階で、現状では津軽でもっとも古い時期、すなわち須恵器生産の開始期とみられる。この型式の須恵器は大館野遺跡には全くない。持子沢窯跡の製品は青森県内の拠点遺跡に流通しているが、大館野遺跡の須恵器にも当窯の製品があるとみられる。

いま持子沢窯跡と大館野遺跡の須恵器を対比するとⅠ期に類似するものがみられる。一方、北東側の前田野目窯跡群の須恵器は報告書により、その内容を知ることができる。これらからみると、前田野目窯跡の須恵器は大館野遺跡出土のS I 16や33～35の土器とまったく同じものを多く見い出すことができる。

ところで、S B 17出土の甕やⅡ区包含層出土の甕（第135図17）は現在のところ、生産地が不明である。この須恵器は器面などに特徴があり、他のものとよく識別される。大館盆地北部でも付近に位置する粕田遺跡（大館市教育委員会1974）出土の土器（第152図）はこれとほぼ同じで10世紀代に位置づけられるとみられる。このうち、第152図2・3の土器は色調・胎土などが類似している。また従来の大館地方のいくつかの調査例でも、10世紀の時期のものについては、これと類似した特徴をそなえている須恵器が多く出土している。しかしながら、この須恵器を生産した窯については確認されていない。今後、この生産地を究明する必要がある。



第152図 粕田遺跡出土土器

3. 大館野遺跡出土の鉄関連遺物について

大館地方において、これまで発掘調査された古代鉄関連遺物出土遺跡は上野遺跡（秋田県埋蔵文化財センター編1992）、扇田道下遺跡（未報告）、粕田遺跡（大館市教育委員会1974）、釈迦内中台Ⅰ遺跡（秋田県埋蔵文化財センター編2008a）、土飛山館跡（大館郷土博物館編2008）、根下戸Ⅲ遺跡（秋田県埋蔵文化センター編2001）などいくつかの遺跡があるが、今回の報告によって新たに本遺跡が追加された。

本遺跡出土の鉄関連遺物は、今回は遺構内出土のものに限り、穴澤義功氏にほぼ全て実見していただき、分類、構成図の作成、遺物の方向付けを行っていただいた。代表的なものを図化（第19～136図）し、構成図として示した（第153～158図）¹⁾。個々の遺物の内容については、鉄関連遺物一覧表としてあげた（第5表）。遺物の詳細な分析については、時間の都合上、不十分なものとなってしまった。また、今回報告分は遺構出土遺物に焦点を絞ったが、2基の炉跡については前述のとおり、完掘していないため、炉の構造の解明には至っていない。よって、本稿では遺物からみた考察に止めたい。

なお、調査時にS X 1より出土した多量の鉄滓は現地にまとめて置かれたままになっていた。この鉄滓を2011年10月21日に回収し、水洗及び磁着度・メタル度の計測を行ったが、分類までは至らなかった。これについては、改めて報告の機会を設けたいと思っている。

(1) 遺構出土鉄関連遺物の重量

大館野遺跡の遺構から検出された鉄関連遺物の総重量は75,074g(約75kg)であり、羽口（製錬）約18,550g、椀形鍛冶滓が約19,920gであり、総重量の50%を占める。出土位置別では、Ⅰ区全体では16,463g、Ⅱ区全体では62,833g、Ⅲ区全体では6,965gである。このうち、Ⅰ区には製鉄炉1基と排滓場1ヶ所が存在し、Ⅱ区には製鉄炉2基が確認されているため、出土量が最も多く69%を占める。

(2) 製鉄関連遺物について

製鉄炉はⅠ区S X 2・Ⅱ区S X 4・S X 5の3基である。さらにS X 1はS X 2の廃滓場と考えられ、S X 2の性質を知る遺構となるため、製鉄関連遺構に含めることにする。

S X 2からは約306gの鉄関連遺物が出土した。このうち、最も多かったのは流動滓で170gであり、羽口、流出孔滓、炉内滓はその1/4程度であった。S X 2はS I 3に切られているため、遺物の出土が少ない。そのため、排滓場であるS X 1を考察することにより、明確に判断されるであろう。しかし、S X 1の重要な遺物である炉壁や滓類の大半は、2011年回収分に含まれるため、今回の報告には反映されない。羽口（製錬）は約7,080g検出された。外形はカマボコ型を呈し、ケズリ調整がなされ、内径の平均は約3.8cmである。いずれもスサが混入し、被熱している（第157図164～170）。

S X 4の総重量は13,214gである。出土遺物の内訳は第四章において、詳しく説明している。そのうち93%が製錬炉関係の遺物であった。中でも、流出孔滓・流出溝滓・流動滓の出土量が突出している。

1) その後の整理作業において、遺構番号振り替えに伴う多くの誤りが発覚した。そのため、構成図が当初作成していただいたものと、大幅に変わってしまった。若干お見苦しい点があるかと思われるが、ご寛容願いたい。

S X 5は総重量4,337 gである。炉壁（製錬）が最も多く、1,859 gである。その他の滓類が約1,300 gと遺構の53%を占める（詳細 P 143・146）。また少量ではあるが、砂鉄が検出された（第158図 238）。これらのことから本は製錬炉としての遺物を備えているため、製錬炉と言えよう。一方、S X 4については鍛冶にも関係している可能性があるため、後述したい。

炉体については、S X 2は堅穴に切られており断定できないが、青森県岩木山麓に分布する半地下式小型堅形炉と考えられる。一方、S X 5は横置きの製鉄炉（以下横置き炉と呼ぶ）で半地下式の可能性がある。このような構造をもつ炉は、近隣の釈迦内中台 I 遺跡などには見られず、異質である。

(3) 鍛冶関連遺構・遺物について

古代の製鉄方法は、製錬後不純物を取り除くとともに炭素量を調整（脱炭）して、鋼を製造する（精錬鍛冶法）。そのため、炉の温度などが関係し、金属分析により詳細が明らかにされる。しかし、今回は分析を実施していないため、遺物と遺構から考察したい。

製鉄炉以外の遺構は、S I（堅穴住居）・S K（土坑）・S E（井戸）・S X（性格不明遺構）がある。S Iと鉄関連遺物の関係として考えられるのは、鍛冶遺構と少数の遺物を廃棄された遺構である。ここでは、鍛冶工房としての可能性を持つ堅穴住居をあげる。考察にあたって、穴澤氏が作成した「製鉄遺跡の諸要素」(穴澤1994)を参考にする。

鍛冶工房としての要素は、堅穴住居跡・溶解炉や鍛錬鍛冶炉などがあるが、本遺跡ではわずかに見られる程度である。よって、鍛冶遺構と考えられる堅穴住居跡と、そこから検出された鍛冶遺構関連の遺物を検証してみる。鍛冶関連遺物として多数の遺物があるが、粒状滓などの工程でも発生する遺物もあるため、これらを除外し、この中から確定的な遺物のみ選別し検討していく。検討にあたり、次の対象遺物を挙げる。鉄製品（未造品を含む）・椀形鍛冶滓・鍛冶滓・鍛造剥片である。先に、本遺構で多く出土している椀形鍛冶滓について触れておく。本遺跡から出土した椀形鍛冶滓は、径20cm前後の特大のものが多数存在し²⁾、重量は3,000 g～4,000 gである。2011年回収分はこの規模の椀形鍛冶滓が多いことが特筆される。椀形鍛冶滓は鍛冶の工程において、鍛冶炉の炉底や木炭層中において対象物から溶解した滓分などの鉄が重層して形成された遺物である。しかし、精錬鍛冶・鍛錬鍛冶で出土することから、その形態や木炭痕によって分類する。大ぶりで厚みのあるものが精錬鍛冶、小ぶりで厚みのないものが鍛錬鍛冶である。

以下、対象遺物を次のように分類する。

分類：A＝鉄製品 B＝椀形鍛冶滓（精錬鍛冶） C＝椀形治鍛滓（鍛錬鍛冶）

I区においてA類を検出した遺構はS I 2・4・7・10・11である。とくにS I 7・11は鉄製品の点数が多く、ヤス等が出土している。B類は検出されず、C類はS I 4・10から出土している。ただし、S I 1・3はS X 2よりも時代が新しく、S X 2を破壊後に建てられた堅穴住居である。よって、除外する。次に、S I 4に関してはほとんどが調査区域外のため、実態は不明であるが、C類が出土していることから、鍛錬鍛冶の操業の可能性が考えられる。このほか、I区においてはS I 10・11が鍛冶遺構である可能性が指摘できる。

2) 2011年回収分を含む。

Ⅱ区は出土量・検出遺構数ともに本遺跡最大である。A類が単独で検出された遺構は、S I 14・45・52である。他はA類＋B類がS I 29・30。A類＋C類がS I 27・28・29・30・47である。S I 28・29・30に関しては鉄製品の点数が多く、種類も多彩である。Ⅱ区にはS X 4・5の2基の製鉄炉が存在する。S I 27・28は2つの製鉄炉から北西に4 mという近さに所在する。さらにS I 29・30はS X 5から北東に8 mの距離に位置し、鍛冶系羽口も出土しているため、鍛冶炉として操業していた可能性は考えられる。S I 33は確認調査時に紡錘車（第155図89）が完全な形で検出され、本遺跡の鉄製品の中でも代表的な遺物である。S I 47では長さ25.2cm、幅20.8cm、厚さ4.9cmを測る砥石が検出された。そのほか微量ながら鍛造剥片や特大の椀形鍛冶滓が検出され、遺物の総重量は9,816 gを量る（第154図107～109）。B類と鍛造剥片や砥石が混在するということは、内鍛冶の可能性も考えられる。つぎに前述したⅡ区2基の製鉄炉であるが、S X 4からB類が出土しているため精錬鍛冶遺構であり、S X 5が製鉄炉と言えよう。

Ⅲ区ではS I 63では、詳細は不明であるが羽口を伴う作業場が検出され、S I 64からは金床石（5,260g）が検出され（第156図137）、鍛冶遺構と判断した。Ⅲ区において、鉄製品が最も多いのは中世のS I 58である。種類としては、帯金具やマレク様（第156図131）の鉄製品などが確認され注目される。これらの鉄製品は、当時の鍛冶技術や生活様式などをうかがえる遺物である。

(4) まとめ

大館野遺跡において鉄生産の一連の工程を備えているのは、Ⅰ区である。「製鉄遺跡の諸要素」によれば、工程は大きく4段階に分けられる。第1段階採鉱→第2段階・製錬→第3段階・精錬→第4段階・鑄、鍛冶である。Ⅰ区はS X 3が炭窯であり、S X 2の木炭供給のための炭窯であることが分かっている。それらを元に、下図のように提示する。

	第1段階	第2段階		第3段階	第4段階	廃滓場
工程	採鉱	炭窯	製錬	精錬・鍛冶	鍛錬鍛冶（鑄）	
Ⅰ区	米代川水系	S X 3	S X 2	不明	SI 10	S X 1
Ⅱ区		不明	S X 4・5	SX5・SI28-30・47	SI 47	不明
Ⅲ区		不明		SX15・SI57・63	SI 64	

第153図 大館野遺跡鉄生産対応図

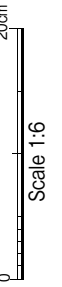
このように、Ⅰ区では、第2段階と廃滓場は確定しているため、工程が分かりやすい。Ⅱ区では炭窯、廃滓場は遺構外に存在すると考えられる。Ⅲ区では鍛冶遺構のみが存在する。S I 57の南東にS X 15が隣接し、鍛冶系の羽口や被熱石（砥石）が出土している。S I 63・64に関して考えられるのは、S I 63は精錬鍛冶か鍛錬鍛冶が行われ、S I 64が仕上げとして使用されていたのであろう。

これらのことから次の4点が考察される。

1. 大館地方で10世紀中頃に、砂鉄を原料とする鉄生産が行われていた。
2. 鉄滓の特徴から大館野遺跡出土の製鉄関連遺物は北東北における鉄生産の技術と共通する要素があるが、横置き炉は東日本ではこれまでのところ本遺構のみである。
3. 鍛冶工房の堅穴住居が3棟検出され、集落内での鉄器生産が行われていた。
4. 集落内で製炭・製錬・鍛冶の一連の作業を行っていた。

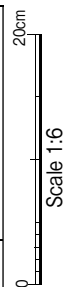
S I 1		S I 3		S I 4		S I 6		S I 7		S I 10		S I 15		S I 19	
羽口 (製錬、先端)	1	羽口 (製錬、先端)	6	梃形鍛冶滓 (大、含鉄)	11	羽口 (鍛冶) (体部)	16	鉄製品 (鍛造品) (ヤス)	21	梃形鍛冶滓 (大、含鉄)	32	含鉄鉄滓	羽口 (製錬) (体部)	梃形鍛冶滓 (小)	47
	2		流出溝滓		20 図 3		22 図 6		25 図 2		31 図 3				
羽口 (製錬) 体部	3	梃形鍛冶滓 (大)	7	M(○)	12	鉄塊系遺物 (含鉄)	17	羽口 (製錬、体部)	22	31 図 4	33	38	43	砥石	48
			梃形鍛冶滓 (大)		20 図 4		28		S I 10						50 図 5
梃形鍛冶滓 (小、含鉄)	4	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)	8	M(○)	13	特 L (☆)	25 図 1	羽口 (製錬、体部)	29	31 図 3	34	39	44	51 図 3	49
			錆化 (△)				18		31 図 3						
錆化 (△)	5	9	S I 4	鉄製品 (鍛造品)	14	流出孔滓	23	鉄製品 (鍛造品) (刀子)	35	33 図 5	S I 14	S I 19	羽口 (製錬) (体部)	51 図 4	50
					20 図 1		24		31 図 2						
S I 2	鉄製品 (鍛造品) (手鎌)	梃形鍛冶滓 (特大、含鉄)	錆化 (△)	S I 5	羽口 (製錬) (体部～基部)	20 図 3	25 図 4	流出孔滓	25	31 図 2	30	40	45	S I 20	51
									26						
19 図 3	5	20 図 2	10	22 図 1	15	20 図 4	25 図 4	鉄製品 (鍛造品)	31	45 図 4	36	41	46	54 図 6	51
									31						

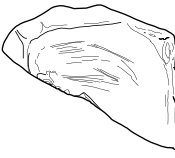
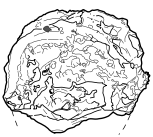
第154図 鉄関連遺物構成図①(S I)



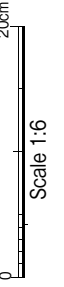
S I 21	S I 25・26	S I 27	S I 27・28	S I 28	S I 29・30			S I 35	S I 41
羽口(製錬、体部)	羽口(製錬、体部)	羽口(製錬、体部)	炉内滓(含鉄)	鉄製品(鍛造品)	羽口(製錬)(先端~体部)	梃形鍛冶滓(大、含鉄)(粘土質溶解物付き)	鉄製品(鍛造品)	鍛冶滓(含鉄)	羽口(製錬、体部)
52	57	62 63 図 11 0 10cm	67 63 図 9	72	77 67 図 1	78 図 4	87 66 図 10	92 78 図 4	97 83 図 5 0 10cm
鉄製品(鍛造品)	流出溝滓	梃形鍛冶滓(中、ガラス質)	梃形鍛冶滓(特大、含鉄)	S I 29	羽口(製錬)(体部~基部)	82 67 図 4	S I 33	含鉄鉄滓	梃形鍛冶滓(極小、含鉄)
53 56 図 7	58	63	68 0 2cm	73	78	梃形鍛冶滓(中、含鉄)	88 75 図 2	93 0 2cm	98 0 2cm
S I 22	炉内滓	S I 27・28		69	羽口(鍛冶)(先端~体部)	83 67 図 5	鉄製品(鍛造品)(紡錘車、軸付)	鉄塊系遺物(含鉄)	
鉄塊系遺物(含鉄)		炉壁(製錬)	梃形鍛冶滓(大、含鉄)	74	79 67 図 2	梃形鍛冶滓(小、含鉄)	89 75 図 1	94 78 図 5	鉄塊系遺物(含鉄)
H(○)	59	64	梃形鍛冶滓(大、含鉄)	鉄製品(鍛造品)刀子(木柄付き)		M(○)		99 0 2cm	100 83 図 6
54 57 図 1	S I 27		69 66 図 8	74		84	S I 34	鉄製品(鍛造品)	
S I 24	炉壁(製錬)	マグネタイト系遺物	含鉄鉄滓	鉄製品(鍛造品)(不明)	流出孔滓	梃形鍛冶滓(極小、含鉄)	90 77 図 6	95	鉄製品(鍛造品)
鉄製品(鍛造品)(手錬)	60	65 0 2cm	H(○)	75 66 図 9	80	90 0 2cm	S I 35	96 78 図 2	101
60 図 5	炉壁(製錬)(指頭痕付き)	炉内滓	S I 28	S I 29・30	梃形鍛冶滓(特大、含鉄)	鉄製品(鍛造品)	梃形鍛冶滓(小)(含鉄、粘土質溶解物)	96 78 図 2	102 83 図 7
55	61	66	71 63 図 10	76	67 図 3	86 0 2cm	81 67 図 3	96 78 図 2	102 83 図 7
60 図 6	61	66	71 63 図 10	76	67 図 3	86 0 2cm	81 67 図 3	96 78 図 2	102 83 図 7

第155図 鉄関連遺物構成図②(S I)



S I 43	S I 47	S I 49	S I 53	S I 57	S I 58	S I 64	S I 66	S K 6
流動滓	梃形鍛冶滓 (特大、含鉄)	梃形鍛冶滓 (中)	梃形鍛冶滓 (特大、含鉄)	羽口 (製鍊、体部)	流動滓	金床石	炉内滓	梃形鍛冶滓 (特大、含鉄)
	H (○)		錆化 (△)					錆化 (△)
鉄塊系遺物(含鉄)	 0 10cm	再結合滓			梃形鍛冶滓(中、含鉄)	129 図 2	S K 5	
錆化 (△)			梃形鍛冶滓 (大、含鉄)	羽口 (鍛冶、先端)	錆化 (△)	137	流出孔滓	梃形鍛冶滓(大、含鉄)
	83 図 8	S I 52	H (○)			S I 65		錆化 (△)
S I 45	被熱石 (砥石)	鉄製品 (鍛造品)				炉内滓	梃形鍛冶滓 (中、含鉄)	
鉄製品 (鍛造品) (刀子)			鉄製品 (鍛造品)	鉄製品 (鍛造品)			錆化 (△)	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)
	87 図 5	0 2cm			S I 59			錆化 (△)
鉄製品 (鍛造品)	 0 10cm	0 2cm			鉄製品 (鍛造品)	S I 66		
	90 図 8	S I 53	S I 55	梃形鍛冶滓 (極小、含鉄)		流出孔滓	S K 6	
S I 47	S I 49	流出孔滓	羽口 (鍛冶) (先端～体部)	錆化 (△)	鉄製品 (鍛造品) (帶金具)		流動滓	
梃形鍛冶滓 (特大、含鉄)	梃形鍛冶滓 (特大、含鉄、二段)							
錆化 (△)	M (◎)	0 10cm	0 10cm		S I 63	流動滓		鉄塊系遺物 (含鉄)
 0 10cm	 0 10cm		鉄製品 (鍛造品)		錆化 (△)			H (○)
91 図 1	95 図 4	0 2cm						

第156図 鉄関連遺物構成図③(S I)



S E 1		S X 2		S X 1		S X 4			
椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	流出孔滓	炉内滓 (含鉄) (砂鉄焼結塊付き)	羽口 (製錬) (先端～体部)	羽口 (製錬、体部)	炉壁 (製錬) (砂鉄焼結塊付き)	流出孔滓	流出孔滓	流出孔滓	流出溝滓
銹化(△)		銹化(△)			107 図 2 174	179	185	191	197
151	155	38 図 4 159	0 10cm 164	169	107 図 2 174	107 図 3 179	107 図 6 185	0 2cm 191	
S E 2	流動滓	炉内滓		170	炉壁 (製錬) (槽方向接合部付き)	180	186	192	流動滓 (鳥の足状)
椀形鍛冶滓 (大)		銹化(△)	0 20cm 165	40 図 1 165	175	107 図 4 180	107 図 7 186	107 図 11 192	108 図 1 198
152	156	160					187	193	
椀形鍛冶滓 (中)		S X 1	羽口 (製錬、体部)	羽口 (製錬) (体部～基部)	176	181	孔～溝滓		流動滓
153	157	羽口 (製錬、先端)	0 10cm 166	171		107 図 5 181	188	194	
		161	40 図 3 166	40 図 4 172	炉壁 (製錬) (滓付き)	182	189	195	
鎮塊系遺物 (含鉄)		162	167	0 10cm 172			107 図 10 189		
H (○)	炉内流動滓	羽口 (製錬) (先端～体部)		砂鉄焼結塊	砂鉄焼結塊 (炉内流動滓付き)	183	流出溝滓		
154	158	40 図 2 163	0 2cm 158	173	178	184	190	196	
0 2cm 154									

0 20cm
Scale 1:6

第157図 鉄関連遺物構成図④(S I)

S X 4						S X 5			
流動滓	炉内流動滓	炉内滓 (砂鉄塊塊結付き)	炉内滓	炉内滓 (含鉄)	再結合滓 (砂鉄付き)	炉壁 (砂鉄塊塊結付き)	流出孔滓	炉内滓	
203	209	214	219	225	230	234	239	246	
204	炉底塊	炉内滓 (炉内流動滓付き)	220	226	再結合滓	炉壁	240	炉内滓 (含鉄)	
205	108 図 4	215	221	鉄塊系遺物 (含鉄)	231	235	241	247	
108 図 2	108 図 5	216	222	M(◎)	108 図 10		109 図 2	242	S X 8
206	211	217	223	108 図 8	232	236	流出溝滓		羽口 (製錬) (鍛冶? 先端~基部)
108 図 3	212	炉内滓	炉内滓 (含鉄、炉内流動滓付き)	108 図 9	108 図 11	炉壁 (滓付き)	243	244	112 図 7
炉内流動滓	炉底塊 (または梃形鍛冶滓)	218	224	梃形鍛冶滓 (特大)	鉄製品 (鍛造品)	109 図 1	109 図 3	249	梃形鍛冶滓 (含鉄、極小)
207	213	217	229	108 図 14	108 図 12	砂鉄	流動滓	250	錆化 (△)
208	108 図 10	218	224	108 図 14	108 図 12		245	250	鉄製品 (鍛造品)

第158図 鉄関連遺物構成図⑤(S I)

Scale 1:6

S X 10	S X 14	S X 15
鉄製品(鍛造品) (刀子)	流出溝滓	羽口 (鍛冶、体部)
 113 図 14 251	 115 図 7 257	 0 10cm 262
 113 図 15 252	炉内滓 (炉内流動滓、炉壁付き)	被熱石
S X 12	 258	 132 図 3 263
羽口 (鍛冶、体部)	鉄製品 (鍛造品)	SD 12
 114 図 6 253 0 10cm	 115 図 5 259	鉄製品 (鍛造品)
S X 14		 0 2cm 264
炉壁 (製錬) (横方向接合痕付き)	S X 15	包含層
 115 図 6 254	羽口 (鍛冶、体部)	鉄製品 (鍛造品) (棒状鉄製品)
 255	 132 図 1 260 0 10cm	 136 図 1 265
砂鉄塊焼結	 132 図 2 261 0 10cm	鉄製品 (鍛造品) (刀子)
 256		 136 図 2 266

第159図 鉄関連遺物構成図⑥(S X)

0

20cm

Scale 1:6



写真 1 代表遺物選別作業 1



写真 2 代表遺物選別作業 2

4. 結 語

これまで、大館野遺跡の調査成果と遺物についての若干の考察を述べてきた。最後に、大館野遺跡の性格などを考えるために、調査成果を総合しておきたい。

遺跡の消長 遺跡の消長は第160図のとおりである。これらの時期は今回の一部の調査範囲のなかでの所見にもとづいており、遺跡全体の状況は不明な部分が多いが、ひとまずこれをもとに考えよう。大館野遺跡は南北約1 kmもあり、平安時代中期の時期に大きく2つの建物群が形成される。これらは一辺8 m以上の大型の建物を含んでおり、10世紀前半から中葉には成立していると考えられる。建物群は密集しており、広い範囲にほとんど同時に分布していることが注目される。11世紀に入ると、大館野遺跡の建物は廃絶したようである。

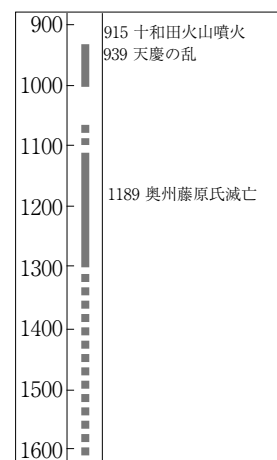
遺跡の特徴と性格 以上のように10世紀の大館野遺跡の動態を把握したうえで、この遺跡の特徴を列挙すれば、次の諸点があげられる。

- 1 堅穴建物で構成された建物群が存在する。堅穴建物群は一辺8 m以上の建物をいくつか含み、周囲にこれらを区画する溝をもつものがある。
- 2 建物群は何回か建て替えがあり、明瞭に同一方位をとる建物があり、一定の計画性がうかがえる。
- 3 井戸はごく少数であり、大規模な建物群と併存する井戸は検出されていない。
- 4 掘立柱建物は総柱の倉庫様のものがいくつかあり、Ⅱ区北東部では群をなしている。
- 5 製鉄炉が3基、鍛冶工房3棟があり、集落内で鉄器生産が行われていた。
- 6 土師器焼成遺構とみなされる遺構があり、集落内で土器生産が行われていた可能性がある。
- 7 出土遺物のなかでは、須恵器大甕・多量の製鉄関連遺物が注目される。

以上の点に加えて、10世紀にきわめて大きな規模で建物群が成立したということを勘案する必要がある。これに類する遺跡は大館盆地では釈迦内中台Ⅰ遺跡がある。釈迦内中台Ⅰ遺跡は10世紀前葉に成立する遺跡で、「玠」の墨書土器を出土しており、大規模な製鉄遺構が検出されている遺跡である。遺構は大館野遺跡の建物群と同じく、前半期は堅穴建物跡をほぼ南北に配置している。遺跡の存続期間は本遺跡よりやや長い、10世紀後半から11世紀初頭には廃絶したと考えられる。

大館野遺跡は土器からみるかぎり、釈迦内中台Ⅰ遺跡よりもわずかに遅れて成立するとみられる。釈迦内中台Ⅰ遺跡の土師器にはロクロ成形の甕が存在し、前半期の建物群の時期を示す出土土器は10世紀前半でも相対的に古様を呈する。歴史的背景との関連でいうならば、延喜15年(915)頃の十和田火山噴火に伴う災害の復興にともなって成立した可能性が考えられる。

このような土器の年代観からすると、大館野遺跡は10世紀前半でも第Ⅰ四半期のうち、西暦でいえば920年頃にはその成立をみていたと考えられる。さて、この時期に大規模な建物がある程度の規格性をもって造営されたとすると、やはり律令体制の崩壊にともなうなんらかの背景を想定することができる。具体的にいえば、地方の有力者の台頭といったものがあげられる。天慶2年(939)に起きた天慶の乱に関係し



第160図 大館野遺跡の動態

た可能性も指摘できる。しかし、これ以上のことは、現状では不分明といわざるをえない。ただ、大館野遺跡のなかで、その特性をある程度示唆するのは大館野遺跡の北方に位置する矢立廃寺である。いまそれについて述べ、大館野遺跡の性格を考える一助としよう（第2図）。

矢立廃寺は、江戸時代後期の随筆家二階堂道形の「竹陰随筆慶録」などに記述のある遺跡で、そのなかで現在の秋田市に所在する松原補陀寺は月泉良印が矢立廃寺を遷し建てたものであることが記されている。遺跡には建物の礎石らしき大きな石が存在することから、中世寺院の存在が推定され、地元には無等良雄隠遁地としての伝承が残されていた。昭和39年以降、7回にわたって発掘調査がなされており、5棟の礎石建物跡と2棟の掘立柱建物跡が確認されている。礎石が所在する平場の南側はすべて水田ないし休耕田であり、水田の面より一段高い部分には、なんらかの構造物を想起させる。北西部にある建物が塔らしき建物で、そのほかは塔以外の建物、すなわち本堂・講堂とみることでもできる。付近には寺ノ沢という地名もあるが、当廃寺から寺院関係の遺物が出土していない現状では、可能性を指摘するに止めざるを得ない。当廃寺は発掘調査の結果、上記の寺院に関係する根拠は得られず、秋田県内では唯一12世紀後半の白磁四耳壺や椀、かわらけなど、奥州藤原氏との強い関係がうかがえる遺物が出土しており、もっとも注目すべき遺跡といえる。前述したように（第2章2）、奥大道が大館野遺跡と矢立廃寺を通っていた可能性が高く、古代末期の大館野遺跡は比内（大館）地方北部の拠点遺跡であったことが想定される。地理的な条件をあげるならば、下内川に面するという点では河川交通に至便であることは注目され、段丘上の高燥の地であることも有利な点である。

以上、大館野遺跡が古代末期の拠点遺跡である可能性を示唆したが、これまで述べた諸点はいずれも決定的な根拠とはなりえず、現在のところではこれを積極的に肯定することも否定することもできない。しかしながら、ここで、ひとつの重要な遺跡に接したことは事実であり、今後、大館野遺跡を学術的に究明する必要性が痛感される。今回の調査契機は学校建設に伴うものであるが、遺跡周辺の開発は今後も進むことが十分に予測される。これをも含めて、大館野遺跡の今後をおおいに注視したい。

引用参考文献

- 秋田県埋蔵文化財センター編 1983 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅵ-猿ヶ平Ⅱ・室田・一本杉・案内Ⅲ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第99集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1990 『諏訪台C遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第196集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1992 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ-上野遺跡-』 秋田県文化財調査報告書第222集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 1997 『池内遺跡』 秋田県文化財調査報告書第268集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2001 『根下戸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第330集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2004 『堂の下遺跡 中世篇』 秋田県文化財調査報告書第377集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2005 『狼穴Ⅳ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第391集 秋田県教育委員会

- 秋田県埋蔵文化財センター編 2008a『釈迦内中台Ⅰ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第426集 秋田県教育委員会
- 秋田県埋蔵文化財センター編 2008b『狼穴Ⅲ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第427集 秋田県教育委員会
- 穴澤義功 1994 「製鉄遺跡の諸要素」『国立歴史博物館研究報告』第58集
- 板橋範芳 2000 「道目木遺跡埋没家屋調査概報」『大館郷土博物館研究紀要 火内』創刊号 大館郷土博物館
- 大館郷土博物館編 2011 『大館市内遺跡詳細分布調査報告書(2)』 大館市文化財調査報告書第4集 大館市教育委員会
- 大館市教育委員会 1974 『粕田遺跡発掘調査報告書』
- 大館市教育委員会 1986 『玉林寺跡発掘調査報告書』
- 大館市教育委員会 1987 『矢立廃寺発掘調査報告書』
- 大館市史編さん委員会 1972 『郷村史略 秋田郡之内両比内』 大館市史編さん調査資料第4集
- 大館市史編さん委員会 1973a『大館市片山「館コ」発掘調査報告書』 大館市史編さん調査資料第5集
- 大館市史編さん委員会 1973b『秋田県北秋田郡比内町谷地中「館」中野円墳状遺構発掘調査報告書』 大館市史編さん調査資料第6集
- 五所川原市教育委員会 2003 『五所川原須恵器窯跡群』 五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 五所川原市教育委員会 2005 『K Y 1号窯 - 五所川原須恵器窯跡における初現期窯跡の発掘調査報告書』 五所川原市埋蔵文化財調査報告書第26集
- 坂井秀弥 1994 「古代北日本の土器と生産」『北陸古代土器研究』4 (『古代地域社会の考古学』同成社再収)
- 太宰府市教育委員会 2000 『太宰府条房跡X V - 陶磁器分類編 - 』
- 新潟県教育委員会編 2006 『一般国道49号安田バイパス関係発掘報告書Ⅰ 大坪遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集
- 比内の歴史を記録する会 2008 『比内の歴史』 大館市
- 比内町教育委員会 1973 『真館緊急調査報告書』
- 比内町教育委員会 1976 『北秋田郡比内町細越遺跡緊急発掘調査概報』
- 比内町教育委員会 1982 『大日堂前遺跡発掘調査報告書』
- 横手市教育委員会 2009 『大鳥井山遺跡 - 第9次・第10次・第11次調査 - 』 横手市文化財調査報告書第12集

第3表 主要遺構一覧

竪穴住居跡・建物跡

遺構名 No.	位 置	規 模 (東西)m× (南北)m	面 積 (壁溝内) ㎡	方 向 (カマド 長軸方向)	カマド位置		柱 穴	壁 溝	その他
					(壁)	(分割点)			
(古代)									
SI1	5・6-o・p	3.4×3.2	9.92	S-20° 30′ -E	南	1/4西第1		全体	SI3を切る
SI2	2-m・n	4.1×-		S-11° 00′ -E	南	1/4西第1	四隅・壁央	無	
SI3	5・6-n・o	4.1×3.1	9.99	S-36° 10′ -E	南	1/4西第1	四隅・西壁中央	全体	焼失、SX2を切る
SI4	3-u・v			S-24° 30′ -E	南	(1/4西第1)	(四隅)	(全体)	
SI5	3-i	2.6×2.7	6.00	S-19° 50′ -E	南	1/3西第1	四隅・壁央	無	
SI6	3・4-j・k・l	5.2×4.8	24.96	S-17° 20′ -E	南	1/5東第1	四隅・壁央	全体 (南東除く)	
SI7	6・7-n・o・p	6.5×-		S-30° 50′ -E			(四隅)		
SI8	2-h			S-36° 10′ -E	南				
SI9	4・5-m・n	3.2×3.1	9.00	S-12° 30′ -E	南	1/4西第1	四隅	無	SX2廃材を廃棄している(SX1)
SI10	6・7-j・k	5.0×4.8	18.92	S-25° 30′ -E	南	(旧)1/3東第1			
						(新)1/4西第1	四隅	全体	
SI11	7・8-h・i	4.4×4.3	15.99	S-31° 40′ -E	南	1/4西第1	四隅	全体	焼失家屋
SI12	8・9-i・j	3.1×3.0	7.02	W-35° 30′ -S	西	1/3南第1	四隅	全体	北西隅に緩傾斜する出入口
SI13	13-g・h	2.4×-							
SI14	13・14-j・k	3.0×3.1	8.99	S-15° 40′ -E	南		四隅	無	SI15を切る
SI15	13・14-j・k	-×2.7		S-15° 40′ -E	南		四隅	無	
SI16	14-i・j	3.0×3.0	8.12	S-20° 30′ -E	南	1/4西第1	四隅・壁央	南壁下	
SI17	14・15・16-g・h・i	5.8×5.8	24.99	S-36° 10′ -E	南	(旧)1/5東第1			
						(新)1/4西第1	四隅・辺3本	全体	南西部に1.6m×2.7mの張出部
SI18	14・15-c	-×4.6		(S-25° 20′ -E)	南		四隅		
SI19	14・15-c・d	4.4×3.4	13.12	S-36° 10′ -E	南	1/5東第1		全体	焼失
SI20	15・16・17-c・d	-×5.9		S-42° 30′ -E	南	1/5西第1		全体	
SI21	18・19-d・e	4.1×3.8	13.65	S-27° 50′ -E	南	(旧)1/4東第1			
						(新)1/4西第1	四隅	全体	
SI22	18・19-h・i	5.6×5.7	30.80	(N-30° 30′ -W)			6本	無	カマド無し
SI23	20-g・h	2.7×2.6	7.02	N-27° 10′ -W	北	1/4東第1	四隅・壁央	無	
SI24	21・22-i・j	3.8×3.6	12.95	S-33° 30′ -E	南	1/4東第1	四隅・辺3本	無	
SI25	23・24-b・c						(四隅・壁央)	西壁	
SI26	23・24-b						(四隅・壁央)	西壁	SI25を切る
SI27	23・24-e・f	4.6×4.0	15.91	S-42° 30′ -E				全体	
SI28	23・24-e・f	6.0×5.5	27.54	S-39° 00′ -E	南	(旧)1/3東第1	四隅	全体	SI27→SI28
						(新)1/3西第1	四隅	全体	
SI29	25・26・27-b・c・d	7.4×7.2	44.22	S-41° 40′ -E	南	1/5西第1	四主柱・壁溝内	全体	SI29→SI30
SI30	26・27-b・c	5.0×5.0	19.32	S-44° 30′ -E	南	1/4東第1	四隅	全体	

遺構名 No.	位 置	規 模 (東西)m× (南北)m	面 積 (壁溝内) ㎡	方 向 (カマド 長軸方向)	カマド位置		柱 穴	壁 溝	その他
					(壁)	(分割点)			
SI31	24・25-i・j	－×3.0		N-36° 10' -W			(四隅・壁央)	(無)	カマド無
SI32	25・26-h・iと 26-i	－×2.7		E-36° 20' -N	東	1/3南第1	四隅・壁2柱	無	
SI33	15・16・17-l・ m・n	8.4×8.6	68.88	S-23° 10' -E	南	1/5東第1	四主柱・四隅・辺 5本	全体	SI36・37を切る
SI34	16・17-l・m	4.6×4.2	15.99	S-36° 10' -E	南	1/4西第1	四隅・辺2本	全体	SI33・35より新
SI35	17・18・19-l・m	5.8×5.5	26.46	S-26° 00' -E	南	1/4東第1	四隅・壁央	全体	SI36を切る
SI36	17・18-m	(7.8)×8.0	(57.00)	S-26° 00' -E	南	1/4西第1	四主柱・四隅・辺 6本	全体	SI37を切る
SI37	17・18-m・n			(S-26° 00' -E)					
SI38	16・17-o・p	6.2×－		S-26° 40' -E	南	1/4西第1	四隅・(壁溝)	全体	
SI41	18・19-r	4.2×4.0	13.68	S-36° 10' -E	南	1/4東第1	四隅・壁央	全体	SI43→SI42→SI41
SI42	17・18・19-q・ r・s	5.5×4.6	19.20	S-36° 10' -E	南	1/5西第1	四隅・辺2本	全体	
SI43	18-q・r	3.3×3.2	8.12	S-36° 10' -E	南	1/3西第1	四隅	全体	
SI44	17-r			E- -N	東				
SI45	20・21-t・u	4.8×5.2	19.35	S-30° 40' -E	南	1/4東第1	四隅	全体	東壁南寄りに1m× 1.7mの張り出し
SI46	19・20・21-v・ w	4.8×4.4	17.60	S-31° 10' -E	南	1/4東第1	壁溝	全体	焼失
SI47	20・21-x・y	3.7×3.8	12.24	E-30° 30' -N	東	1/4北第1	四隅・壁央	一部 (全体)	
SI48	22-o・p・q・r	7.3×－		(S-32° 40' -E)			壁溝	(全体)	
SI49	23・24・25-j・ k・l	5.6×5.9	25.48	S-36° 10' -E	南	1/4西第1	四隅・壁溝	全体	西壁寄りに1.1m× 2.8mの張り出し SI50を切る
SI50	24・25-l	3.0×2.9	6.78	S-36° 10' -E	南	1/3西第1	四隅・壁央	一部	
SI51	23・24・25-n・o	4.3×4.1	14.44	S-20° 40' -E	南	1/4東第1	四隅・壁溝	全体	
SI52	25・26・27-n・o	5.0×4.9	20.24	S-24° 00' -E	南	1/4西第1	四隅・壁溝	全体	
SI53	27-l・m	4.5×－		(S-26° 30' -E)			(四隅・壁溝)	(全体)	
SI54	28・29-c	2.5×2.4	5.52	N-39° 00' -W	北	1/3東第1	四主柱	無	
SI55	33・34・35・ 36-b・c	(7.0)×8.0	(46.4)	S-26° 30' -E	南	1/4東第1	四主柱・壁溝	全体	SI57を切る
SI56	36・37-b・c	2.7×3.0	7.87	N-26° 40' -W		無		無	
SI57	35・36・37-d・ e・f	7.2×7.6	49.68	S-32° 00' -E	南	1/4西第1	四主柱・壁溝	全体	
SI59	37・38-f・g	3.2×3.1	7.56	N-21° 30' -W		無	四隅	全体	
SI60	36-h・i	2.5×2.9	5.06	N-13° 40' -W		無	四隅・壁央	無	
SI61	34・35・36-k・l	(6.0)×6.1	(34.22)	E-26° 20' -N	東	1/7北第3	四主柱	無	カマド前庭部 間仕 切り柱痕
SI62	31・32-i・jと 30・31-k	4.9×4.9	19.8	S-28° 20' -E	南	(1/4西第1)	四隅・壁央	全体	
SI63	27・28・29・ 30-n・o・p・q	10.6×10.2	108.12	S-32° 00' -E	南	1/5東第1	四主柱・壁柱	無	南壁西寄り火気作業 場
SI64	28・29-q・r	5.5×5.5	30.4	S-34° 10' -E	南	1/4西第1	四隅	全体	北東1.5m×1.5mの貯 蔵穴
SI65	30-s・t	2.8×3.2	8.06	E-33° 20' -N	東	1/3南第1	四隅	全体	
SI66	33-k・l	2.4×2.4	4.95	E-33° 40' -N	東	1/3南第1	四隅	全体	

遺構名 No.	位 置	規 模 (東西)m× (南北)m	面 積 (壁溝内) ㎡	方 向 (長軸方向)	カマド位置		柱 穴	壁 溝	その他
					(壁)	(分割点)			
(中世)									
SI39	20-m・n・o	2.9×4.3	10.8			無	壁下22本	無	南東隅出入口
SI40	19-m・n・o	3.6×4.1	12.54			無	壁下29本	無	東壁中央出入口
SI58	39・40・41・42・ 43-a・b・c・d	11.1×11.8	139.44	E-25° 40' -N		無	七主柱・壁柱	無	南東隅に張り出し、 北壁中央出入口
SI67	34-p・q・r	3.8×3.4	12.92	E-28° 10' -N		無	四隅・壁央・壁柱	無	南東隅出入口

掘立柱建物跡

遺構名	位置	柱間	桁行	梁間	建物軸方向	備 考
		桁行×梁間	(m)	(m)		
SB1	5・6-s・t・u・v				N-61° -E	板塀遺構か
SB2	2・3-m・n・o	(3間)×2間		7.2	N-23° 10' -W	有溝掘立柱建物遺構
SB3	4・5-t・u	2間×2間	3.7	3.6	N-35° 00' -W	
SB4 古	2・3・4・5-j・k・l	3間×2間	8.4	5.4	N-20° 00' -W	SI6を切る
SB4 新		3間×2間	8.4	5.4	N-17° 00' -W	
SB5	7・8・9-j・k・l				N-27° -W	SI10との竪穴掘立柱建物
SB6	14-g・h	(2間)×(2間)	3.5	(3.0)	N-13° 30' -W	
SB7	14・15-j	(2間)×(2間)	3.2	(3.2)	N-22° 10' -W	
SB8	15・16-j・k	2間×2間	3.7	3.0	N-19° 00' -W	
SB9	16・17-g・h	2間×2間	3.0	3.0	N-20° 30' -W	雨落ち溝
SB10	19-g・h	1間×1間	1.7	1.7	N-16° 00' -W	
SB11	18-j・k				N-50° -E	柱列遺構
SB12	19-j				N-40° -E	柱列遺構
SB13	20・21-i・j	1間×1間	2.7	2.7	N-19° 00' -W	雨落ち溝
SB14	21・22-h	2間×2間	3.4	3.4	N-30° 00' -W	SD10を切る
SB15		2間×2間	2.8	2.8	N-34° 30' -W	SB15→SB21→SB22 雨落ち溝
SB16		2間×2間	2.8	2.8	N-34° 30' -W	SD12→SB16→SD8 雨落ち溝
SB17	23・24・25・26・ 27-b・c・d・e・ f・g・h				N-57° -E	柱穴群・全遺構中最新期
SB18	30・31・32-h・ i・j	3間×2間	8.7	7.8	N-29° 00' -W	SI62を切る
SB19	36・37・38-b・ c・d					SI55との竪穴掘立柱建物
SB20	34・35・36・37・ 38・39-c・d・e・ f					SI57との竪立掘立柱建物 SB2と同様に溝を有する
SB21		2間×2間	3.4	3.0	N-32° 00' -W	SB15→SB21→SB22 雨落ち溝
SB22	20・21-e・f	2間×2間	2.8	2.8	N-30° 00' -W	SB15→SB21→SB22

第4表 遺物観察表

凡例

1. 土師器・須恵器・鉄製品・鉄関連遺物・石器・石製品についての観察表である。
2. 胎土の項目は主に胎土中に含まれる鉱物・岩石について記述した。なお、胎土中に含まれる鉱物・岩石については下記のように略した。
石英→英 長石→長 雲母→雲 海面骨針→海針
3. 土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所監修「新版 標準土色帳」の名称を用いた。ただし、色相 (Hue)、明度 (Value)、彩度 (Chrome) による段階表示は行っていない。
4. 遺存で示した数値は、図示した部分における残存状況を表す。
5. 土器における調整については、手法の欄に記した。なお、土器の法量、部位、調整については下記のように略した。
口縁部→口 頸部→頸 肩部→肩 体部→体 底→底 内面→内 外面→外 体部上半→上 体部下半→下
横位→横 縦位→縦 斜位→斜 ヘラケズリ→ケズリ ヘラナデ→ナデ 内面黒色→内黒
6. 法量の単位は cm である。

土器

S I 1 (第18図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
1		土師	甕	口23.6 底 8.5 高27.5	英、長、雲、小礫、粗砂、細砂	橙	普通	5/36	口横ナデ、体外縦・斜ケズリ、内横ナデ	
2		土師		口 8.7 底 6.7 高 7.8	英、長、小礫	(内)橙 (外)にぶい黄橙	普通	口5/36 底部全存	体外縦ケズリ	
3		土師	小型甕	口13.1 底 6.6 高12.5	英、長、雲、小礫、粗砂	(内)橙 (外)明褐	普通	5/9	口横ナデ、体外縦ケズリ、内横ナデ	
4	カマド	土師	甕	口13.1 高12.6	英、長、小礫		普通	(口～体) 一部	体外ケズリ、内ナデ	
5		土師	甕	底 8.5	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)明黄褐	普通	底部全存	体外ケズリ、内ナデ	二次焼成を受ける
6		土師	甕	口11.7 底 8.7 高12.2	英、長、小礫 (多)	(内)黄橙 (外)橙	普通	3/4	外上縦ケズリ、横ケズリ、ナデ、内横ナデ、砂底	口内スス付着

S I 2 (第18, 19図)

18 図7		土師	埴	口12.0 底 5.7 高 5.2					ロクロ	
8	カマド	土師	甕	口13.4	英、長、雲、小礫、鉄滓、細砂	(内)橙 (外)浅黄橙	堅	(口～体) 一部	体外縦ナデ	
9	カマド	土師	甕	口16.3	英、長、礫、小礫、粗砂	橙	普通	(口～体) 一部	口横ナデ、下縦ナデ、内横ナデ	
19 図1	カマド床	土師	甕	口21.0	英、長、礫、小礫、鉄滓	(内)灰黄褐 (外)にぶい黄橙	普通	(口～体) 一部	下ケズリ、内横ナデ、口指ナデ、指頭圧痕	
2		土師	甕	口20.0 底 8.0 高30.0		(内)橙 (外)浅黄橙				

S I 3 (第19図)

4	カマド	土師	鍋	口30.0 底10.5 高16.0	英、長、雲、礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	5/9	口指ナデ、底内指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕、砂底	
5		土師	甕	口17.5 高 6.5	長、礫、鉄滓、粗砂	橙	普通	(口～体) 一部	縦ナデ、口指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	
6	カマド床	土師	甕	底11.1	英、長、雲、小礫	(内)褐灰 (外)橙	普通	1/4	外ヘラ調整、底ヘラ調整、底内ナデ	

S I 6 (第22図)

2		土師	埴	底 6.9	雲、細砂	にぶい黄橙	堅		内放射状ミガキ、ロクロ、回転糸切り	
3		土師	小型甕		英、長、雲、小礫	(内)橙 (外)にぶい黄橙	軟	口縁部小破片	上方向ケズリ、内横ナデ	
4	カマド	土師			英、長、小礫	(内)橙 (外)にぶい黄橙	堅	口縁部小破片	上方向ケズリ、内横ナデ	
5		土師			英、長、小礫、鉄滓、粗砂	にぶい褐	軟	(口～体) 一部	口横ナデ→体横ナデ、上方向ケズリ	

S I 9 (第27図)

1	カマド	土師	小型甕	口13.2 底 7.4 高12.5	英、長、粗砂	(内)にぶい橙 (外)にぶい黄橙	普通			
2	床	土師			英、長、小礫	橙		7/36	横ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	
3	床	土師	甕	口24.0 高13.0	英、長、鉄滓、粗砂	(内)灰褐 (外)橙	普通	(口～体) 一部	口横ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	
4	カマド	土師	甕	底 7.0 高12.2	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	橙	堅	2/3	下方向ケズリ、底内ナデ、内横ナデ、砂底	

S I 10 (第30図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
1	カマド構築材	土師	甕	口13.2	英、長、礫、小礫、鉄滓	(内) 橙 (外) にぶい黄橙	普通	(口～体) 一部	口横ナデ、上方向縦ナデ、内横ナデ	
2	床及び方形pit	土師	小型甕	口13.8	英、長、小礫、細砂	橙		(口～体) 一部	口指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	
3	床及び方形pit内	土師	小型甕	口 9.6 底 7.8 高13.4	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	2/9	口指ナデ、指頭圧痕、砂底	
4	カマド構築材	土師		口21.4 高25.2	英、長、雲、小礫、粗砂	灰白	普通	2/3	上方向ケズリ、口指ナデ、内横ナデ	
5		土師	甕	口24.8 高26.0	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	橙	普通	3/4	指ナデ、指頭圧痕、体縦ナデ、口横ナデ、内横ナデ	口縁ゆがみは比較的大
6	カマド構築材	土師	甕	底 7.3	英、長、雲、礫、粗砂	橙	普通	全存	下方向ケズリ、底指ナデ、体内ナデ、砂底	
7	カマド	土師	不明	底 5.4	英、長、小礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	全存	下方向ケズリ、内ナデ、砂底	一部被熱
8		土師	甕	底10.0	英、長、小礫、粗砂	(内) 明赤褐 (外) 橙	普通		体上方向ケズリ、体下方向ケズリ、内横ナデ、指頭圧痕	
9		土師	鍋	口30.0 高16.0	英、長、小礫、粗砂	(内) にぶい黄橙 (外) 橙	普通		上方向ケズリまたはナデ、口指ナデ、体横ナデ、内口指ナデ	
10		土師	鍋	口40.0 高18.0	英、長、礫、小礫、粗砂		普通		上方向ナデ、口指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	いびつ、被熱

S B 5 (第31図)

5	北西隅柱	土師	甕	底11.0	英、長、小礫、粗砂	(内) 橙 (外) 褐灰	普通	1/3	上方向ケズリ、底ヘラ調整	
---	------	----	---	-------	-----------	-----------------	----	-----	--------------	--

S I 11 (第33, 34図)

33 図1		土師	小型甕	口12.0	英、長、粗砂	(内) にぶい橙 (外) 橙	堅	11/36	口指ナデ、上縦ナデ、口横ナデ、体横ナデ	
2	カマド構築材	土師	小型甕	底 6.9	英、長、礫、粗砂	(内) 褐灰 (外) 橙	普通	全存	上方向ケズリ、内ナデ	
3		土師			英、長、鉄滓、細砂	(内) にぶい橙 (外) 橙		1/36	上方向ケズリ、口横ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	
34 図1	カマド	須恵	甕		英、長、細砂	(内) 黄灰 (外) 灰	堅	(体) 破片		
2		須恵	甕	口18.3	英、長、海針	灰	堅	3/4		断面赤褐色。二次焼成を受ける。

S I 12 (第36図)

36 図1		土師	小型甕	口11.5	英、長、雲、細砂	橙	普通	口縁部小破片	口指ナデ、指頭圧痕、体横ナデ→口横ナデ	
2		土師	小型甕	口13.0	英、長、礫、小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部小破片	体縦ナデ、わずかに縦ナデ、口指ナデ、指頭圧痕、体内横ナデ、口横ナデ	被熱
3		土師	甕	口17.8	長、雲、小礫、粗砂		普通	(口～体) 一部	上ナデ、下ヘラケズリ、内ナデ	外炭化物付着
4	カマド構築材	土師	甕	口21.0	長、小礫		普通	5/6	口横ナデ、体ヘラケズリ→ナデ、内ナデ	外内に炭化物付着
5		土師	甕	底 7.2	英、長、雲、小礫、粗砂	(内) 橙 (外) にぶい黄橙	普通	全存	下方向ケズリ、底内指ナデ、体横ナデ、砂底	
6		土師	甕	底 8.0	英、長、小礫、細砂		堅		ナデ、内ナデ、底外ナデ	外スス付着

S X 2 (第38図)

1		土師	小型甕	底12.0	英、長、雲、礫、小礫	橙	堅	1/9	横ナデ、ナデ	
2		土師	甕	底10.0	長、雲、礫、小礫、鉄滓	(内) にぶい褐 (外) 橙	堅	11/18	ナデ	
3	粘土外壁構	土師	甕	底10.0	英、長、雲、礫、粗砂	(内) にぶい赤褐 (外) にぶい褐	普通	5/18	指ナデ？、指頭圧痕、砂底	外スス付着

S X 1 (1) (第39図)

39 図1		土師	埴	底 4.8	英、細砂	橙	堅	5/6	ロクロ→ナデ、指ナデ、回転系切り、内黒	
2		土師	甕	底 8.4	英、長、小礫、粗砂、細砂	橙	普通	5/12	ナデ、横ナデ、指ナデ、底指ナデ、砂底	
3		土師	小型甕	底 6.8	英、長、雲、粗砂、細砂	(内) 橙 (外) にぶい黄橙	堅	5/12	縦ナデ、横ナデ、砂底	
4		土製品？		口12.6	長、礫、鉄滓	(内) 浅黄橙 (外) 灰白	堅	1/12	指ナデ、指頭圧痕＋化粧粘土	
5		土師	小型甕	口11.2	英、長、小礫	橙	堅	2/9	横ナデ	
6		土師	小型甕	口13.6	英、長、雲、小礫、鉄滓	橙	普通	1/6	縦ケズリ(下→上)、横ナデ	
7		土師	小型甕	口15.4	英、長、雲、礫、小礫、鉄滓	橙	堅	2/9	横ナデ、口横ナデ、体横ナデ、指ナデ	

S X 1 (2) (第39図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
8		土師	小型甕	口16.0	英、長、雲、小礫	(内)橙 (外)にぶい橙	堅	1/8	横ナデ、体横ナデ→口横ナデ	
9		土師	甕	口17.6	英、長、礫、小礫、鉄滓、粗砂	にぶい黄褐	堅	1/4	縦ケズリまたはナデ、横ナデ	
10		土師	甕	口19.8	英、長、小礫、粗砂	(内)明黄褐 (外)橙	普通	1/12	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指頭圧痕	
11		土師	甕	口21.0	英、長、雲、小礫、鉄滓	(内)橙 (外)黄橙	普通	7/36	横ナデ、指頭圧痕	被熱、内サビ付着
12		土師	甕	口21.2	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	1/4	横ナデ、指頭圧痕+化粧粘土	
13		土師	甕	口24.0	英、長、鉄滓、粗砂	橙	堅	7/18	横ナデ、指ナデ、口横ナデ→体横ナデ、指頭圧痕	
14		土師	甕	口24.6	英、長、雲、小礫	(内)橙 (外)にぶい黄橙	堅	1/12	ナデ、横ナデ、深いへらの痕、指頭圧痕	
15		土師	甕	口27.6	英、長、雲、礫、小礫、鉄滓、粗砂	橙	普通	1/9	縦ケズリ(上→下)、横ナデ+縦ケズリ、口横ナデ→体横ナデ	

S I 13 (第45図)

1		土師	甕	口15.5				(口～体)一部		
2		土師	甕	口11.2 底 7.3 高13.5						

S I 14 (第45図)

3		須恵	小壺 か鉢	底 7.6	長、細砂、海針	黒	堅	7/36	底外糸切り	
---	--	----	----------	-------	---------	---	---	------	-------	--

S I 16 (第45図)

45 図6	カマド左 壁溝上	須恵	鉢	口12.2 底 8.5 高11.6	英、長、細砂、海針	(内)紫灰 (外)灰				
----------	-------------	----	---	-------------------------	-----------	---------------	--	--	--	--

S I 17 (第48図)

48 図1	カマド	土師	小型甕		英、長、小礫、粗砂	橙	普通	口縁部小破片	口横ナデ、体縦ナデ(下→上)	
2	カマド	土師	小型甕		英、長、小礫	にぶい橙	普通	口縁部小破片	口横ナデ、体縦ナデ、内横ナデ	
3	カマド南 端	土師	小型甕		英、長、小礫	橙	普通	口縁部小破片	縦ナデ(下→上)、内横ナデ	
4	床	土師	甕		英、長、礫、小礫	(内)にぶい橙 (外)浅黄橙	普通	口縁部小破片	体縦ナデ(下→上)、口横ナデ、内横ナデ	
5	カマド南 端	土師	甕		英、長、小礫、粗砂	にぶい橙	堅	口縁部小破片	縦ナデ(下→上)、内横ナデ	
6	カマド	土師	甕	口17.5	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	堅	(口～体)一部	体縦ナデ(下→上)、口横ナデ、内横ナデ	
7		土師	小型甕	底 8.5	英、長、礫、小礫、粗砂	(内)にぶい褐 (外)橙	普通		縦ケズリ(上→下)、砂底	
8		須恵	甕		英、長、細砂、海針	(内)灰 (外)黄灰	堅	(体)破片	格子タタキ目6条	
9		須恵	壺		英、長、細砂、自然釉	(内)灰 (外)暗オリーブ灰	堅	(体)破片	ロクロ	

S I 19 (第50, 51図)

50 図1		土師	埴		英、長、雲、細砂	(内)黒 (外)橙	堅		放射状ヘラミガキ、ロクロ、回転糸切り(右)、内黒	
2	カマド	土師	小型甕	底 8.8	英、長、鉄滓、細砂	にぶい橙	普通	底一部欠	縦ナデ(下→上)、内横ナデ、底内指ナデ、砂底	
3	カマド	土師	甕	口22.0 底 7.3 高32.5	英、長、小礫、粗砂	橙	軟	(口～体)一部	下ケズリ、口指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕、砂底	
4		須恵	壺	底12.0 高20.0	英、長、細砂	灰	堅		ロクロ	
51 図1		須恵	壺		英、長、細砂	灰	堅		ロクロ	「十」ヘラ描き記号、被熱

S I 20(1) (第53, 54図)

53 図1		須恵	甕		英、長、細砂、海針	黄灰	堅	(体)破片	平行タタキ目9～10条	
54 図1		土師	埴	口12.0 底 5.1 高 5.0	英、細砂	(内)黒 (外)橙	堅		内放射状指ナデ、ロクロ、回転糸切り、内黒	
2		土師	小型甕	口12.2	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	口縁部小破片	縦ナデ(下→上)、内ナデ	
3	カマド	土師	甕	口22.8 底 9.0 高28.0	英、長、雲、小礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)浅黄橙	普通		体縦ナデ(下→上)、口指ナデ、内横ナデ、砂底	

S I 20 (2) (第54図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
4		土師	甕	口21.0 底 8.8 高38.0	英、長、礫、小礫、鉄滓、粗砂、細砂	(内) 橙 (外) 浅黄橙	普通		体縦ナデ、内横ナデ、底内指ナデ、指頭圧痕、砂底	一部被熱
5	カマド	土師	甕	底 8.4	英、長、雲、粗砂、細砂	橙	普通		体縦ナデ(下→上)、内横ナデ、底内指ナデ、指頭圧痕、砂底	

S I 21 (第56図)

56 図1	カマド	土師	埴		英、長、鉄滓、細砂	(内) 黒 (外) 黄橙	普通	(口～体) 一部	内指ナデ、ロクロ、内黒	
2	カマド	土師	小型甕		英、長、小礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	口縁部小破片	体縦ナデ(下→上)、口指ナデ、内横ナデ	
3	カマド	土師	小型甕		英、長、細砂	橙	普通	口縁部小破片	体横ナデ、内ナデ	
4	カマド	土師	小型甕		英、長、細砂	橙	普通	口縁部小破片	口指ナデ、体ナデ、内横ナデ	
5	カマド	土師	小型甕	底 7.7	英、長、小礫、細砂	(内) にぶい褐 (外) にぶい橙	普通	1/2	縦ナデ(下→上)、底内指頭圧痕、砂底	
6		土師	甕		英、長、細砂	(内) にぶい橙 (外) 橙	普通	(口～体) 一部	口指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	

S I 23 (第58図)

58 図1	カマド	土師	小型甕	口13.4 高14.5	英、長、小礫、鉄滓、細砂	にぶい橙	普通	(口～体) 一部	縦ナデ、口横ナデ、内横ナデ	
2	カマド	土師	小型甕	底 8.0	英、長、小礫、粗砂	(内) にぶい橙 (外) 橙	普通		縦ナデ(下→上)、内横ナデ、砂底	

S I 24 (第60図)

60 図1	床	土師	小型甕	口12.2 底 8.0 高12.0	長、小礫、細砂	(内) 黒褐 (外) にぶい橙	普通	一部欠	体ナデ(上→下)、口横ナデ、内横ナデ、砂底	
2	床	土師	鍋?		英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	(口～体) 一部	縦ケズリ(下→上)、内横ナデ	いびつ
3		土師	甕	口19.8 底11.0 高23.0	長、小礫	橙	普通			
4		土師	甕	口21.7 底 8.5 高27.5	英、長、小礫	橙	普通			

S I 28 (第63図)

63 図1		土師	埴	口13.4 底 5.0 高 4.5	英、長、細砂	(内) 黒 (外) にぶい橙	堅		ロクロ、放射状ヘラミガキ、回転糸切り(右)、内黒	
2		土師	甕	口11.3				(口～体) 一部		
3	南東柱穴内	土師	甕	口12.7 高 9.3	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	(口～体) 一部	縦ナデ、内横ナデ、口指ナデ	
4		土師	小型甕	口12.6	英、長、小礫、粗砂、細砂	橙	普通	底部全存	体ナデ、内横ナデ、砂底	
5		土師	小型甕	底 5.7	英、長、粗砂、細砂	にぶい橙	普通	5/9	縦ナデ(下→上)、内横ナデ、砂底	
6	埋土	土師	甕	底 8.0	英、長、雲、粗砂、細砂	(内) にぶい橙 (外) 橙	普通	底部全存	縦ナデ(下→上)、内横ナデ、底内ヘラ状工具ナデ、砂底	
7	カマド上部	土師	小型甕	底 6.3	英、長、粗砂、細砂	にぶい橙	普通	底部全存	縦ナデ(下→上)、内横ナデ、砂底	
8		土師	不明	底 6.0	英、長、小礫、粗砂、細砂	(内) にぶい橙 (外) 黒褐	普通		ケズリ(上→下)、内ナデ、砂底	被熱

S I 29・30 (第66図)

66 図1	カマド	土師	小型甕	口12.3 底 6.8 高11.8	英、長、礫、小礫、粗砂	(内) 灰黄褐 (外) 黄橙	普通	一部欠	体ケズリ(下)→口横ナデ、内横ナデ、底内指ナデ、底ヘラ調整	
2	カマド	土師	甕	口15.0	英、長、小礫、粗砂	(内) にぶい橙 (外) 浅黄橙	普通	(口～体) 一部	体縦ナデ→口指ナデ、口横指ナデ→体横指ナデ、指頭圧痕	
3	カマド	土師	甕	口20.0	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	(口～体) 一部	口指ナデ→体ケズリ(下→上)、内横ナデ	
4	カマド	土師	甕		英、長、粗砂	(内) 灰黄褐 (外) 橙	普通	(口～体) 一部	口指ナデ、体縦ナデ、内横ナデ	
5	カマド	土師	甕		英、長、小礫、粗砂	(内) 橙 (外) にぶい橙	普通	(口～体) 一部	体縦ナデ、内横ナデ、口指ナデ	
6	カマド	土師	小型甕	底 7.5	英、長、雲、礫、小礫、粗砂、細砂	にぶい橙	普通	口縁部小破片	内横ナデ	
7	カマド	土師	鍋?		長、英、小礫、粗砂	(内) 橙 (外) にぶい橙	普通	口縁部小破片	縦ナデ、内横ナデ、口指ナデ	

S I 31 (第68図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
68 図1		土師	甕		英、長、細砂	橙	普通	口縁部小破片	口指ナデ、内横ナデ、体ナデ+化粧粘土、指頭圧痕	
2		土師	甕	口10.8	長、小礫、粗砂	(内) 橙 (外) にぶい橙	普通	(口～体) 一部	口指ナデ→体ナデ、内横ナデ	
3		土師	甕		長、英、小礫、鉄滓	橙	普通	(口～体) 一部	口指ナデ、体ナデ、内横ナデ	
4		土師	小型甕		長、英、小礫、粗砂	(内) にぶい褐 (外) にぶい橙	普通		縦ナデ(下→上)、底網代痕、内ナデ	
5		土師	小型甕	底 8.1	英、長、礫、小礫、粗砂、細砂	(内) にぶい褐 (外) にぶい黄橙	普通		縦ナデ(下→上)、内横ナデ、底指頭圧痕	
6		土師	甕		英、長、雲、小礫	橙		口縁部小破片	口指ナデ、体縦ナデ、内横ナデ	

S I 32 (第70図)

70 図1		土師	甕		長、小礫、粗砂	(内) にぶい黄橙 (外) 橙	普通	口縁部小破片	口指ナデ、体縦ナデ、内横ナデ	
2		土師	甕	口13.2	英、長、小礫、細砂	(内) 灰褐 (外) 橙	普通	(口～体) 一部	口指ナデ、体縦ナデ、内横ナデ	
3		土師	甕		英、長、礫、小礫、細砂	(内) 褐灰 (外) 橙	普通	(口～体) 一部	口横ナデ→体縦ナデ(下→上)、内	
4		土師	甕		英、長、鉄滓、粗砂	(内) 橙 (外) 褐灰	普通	(口～体) 一部	口指ナデ、内横ナデ、指頭圧痕	
5	カマド前	土師	鍋		英、長、細砂	橙		口縁部小破片	口指ナデ、体無調整、内横ナデ	
6		土師	甕	口18.5 底 9.0 高34.5						
7		土師	甕	底 7.8		橙	普通		縦ナデ、内横ナデ、砂底	

S I 33 (第72～74図)

72 図		須恵	大甕	口52.0 底 6.8 高61.2	英、長、粗砂、海針	灰	堅			口外薄く自然釉、肩部ヘラ記号「Ⅲ」
73 図		須恵	甕	口21.0 底 8.0 高48.9	英、長、粗砂、海針	灰	堅			
74 図1		須恵	長頸瓶	口23.0 底 9.5	長、小礫、海針	灰	堅		ロクロ、上に沈線、上げ底	外薄く自然釉
2		土師	埴	口12.7	英、長	にぶい黄色	普通	7/36	内縦ハケ→ヘラミガキ	
3	焼失住居	土師	埴	口11.2	英、細砂	(内) 黒 (外) 橙	堅	1/4	ロクロ、無調整、内黒	
4	焼失住居	土師	埴	口12.3 高 5.8	英、長、細砂	(内) 黒 (外) 橙	堅	5/12	放射状ミガキ、横ミガキ、回転糸切り(右)、内黒	
5		土師	小型甕	口11.8	英、小礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	11/36	横ナデ、口斜調整を施し体調整と同一、ロナデは内と同一ではない	
6		土師	小型甕	口12.4	英、長、雲、小礫	(内) 橙 (外) にぶい橙	普通	1/6	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
7		土師	甕	底 9.0	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	2/3	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	
8		土師	甕	底 7.4	長、小礫	(内) にぶい黄橙 (外) 橙	普通	4/9	斜ナデ、指頭圧痕、砂底	
9		土師	甕	底 7.0	英、長、雲、小礫	(内) 黄褐 (外) 橙		1/2	ナデ、指ナデ	
10	焼失住居	土師	甕	底 4.7		(外) 橙 (内) 明黄褐		1/6	ナデ、底外網代痕、上げ底	
11		土師	埴	口12.4	英、細砂	黒	堅	7/36		
12	焼失住居	土師	甕	底 8.0	英、長、礫、小礫、粗砂	橙	普通	7/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	
13	北東隅床面上	土師	鍋	口36.5 底 9.5 高36.5	長、小礫、鉄滓	橙	普通	全存	非ロクロ、砂底	外面炭化物、内面灰付着二次焼成を受ける
14	北東隅床面上	土師	鍋	口34.5 底 8.0 高17.2	長、小礫、鉄滓	(内) 褐灰 (外) 橙	普通	全存	非ロクロ、砂底	外面炭化物、内面灰付着二次焼成を受ける

S I 34 (第75～77図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
75 図3		須恵	壺	口12.5 底12.0 高28.5	英、長、海針	暗灰	堅	1/4		
4		須恵	長頸瓶	口16.0 底11.5 高35.0	英、長、海針	灰	堅	1/2		頸部にヘラ 記号の 「上」
76 図		須恵	甕	口20.7 底 5.4 高48.0	英、長、海針	暗灰	堅			
77 図1		土師	小型甕	口12.4	英、粗砂	(内)黄褐 (外)橙	普通	11/36	ナデに近いケズリ、横・斜ナデ	断面黒色、 一部焦げ
2		土師	甕	口13.0	英、長、雲、粗砂	(内)橙 (外)明赤褐	普通	全存	横ナデ、ロナデ	ロナデは雑 で均一では ない。ナデ の圧力で凹 凸が見られ る。
3		土師	甕	底 8.8	英、長、雲、小礫、粗 砂	(内)灰 (外)にぶい黄橙	軟	5/12	縦ナデに近いケズリ、横ナデ(ハケ 目状)、ケズリ→縦ナデ	
4		土師	甕	口20.0	英、長、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外) 明黄褐	普通	11/36	縦ナデ(下→上)、ケズリ、横ナ デ、横ナデ(ハケ目状)、横ナデ→ 斜ナデ、縦ケズリ→縦ナデ→口横 ナデ	

S I 35 (第78図)

78 図1		須恵	壺	口20.6 底10.0 高58.0	英、長、礫、細砂、海 針	灰	堅			肩部にヘラ 記号の 「上」
----------	--	----	---	-------------------------	-----------------	---	---	--	--	---------------------

S I 38 (第80, 81図)

80 図1		土師	小型甕	底 8.0	英、小礫、細砂	(内)にぶい褐色 (外)灰オリーブ	軟	1/9	ナデ	
2		土師	小型甕	口 9.6 底 6.0 高 8.3	英、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)黄褐	普通	11/18	縦ケズリ、横ナデ、口横ナデ→体 ケズリ→ナデまたは化粧粘土、口 横ナデ→体横ナデ→底から上方向 へ縦指ナデ	
3		土師	小型甕	口13.0 底9.0 高13.9	長、雲、粗砂	橙	普通	全存	横ナデ、ナデ+化粧粘土、口横ナ デ→体横ナデ左上がり横ナデ	全体的にい びつ
4		土師	甕	口18.4 高32.0	長、雲、小礫	(内)浅黄 (外)にぶい黄橙	普通	1/4	縦ケズリ、ナデ(ハケ状)、横ナ デ、口横ナデ→体横ナデ→縦ケズ リ	一部側面に 焦げ(黒)。
81 図1		土師	小型甕	口15.6	英、雲、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい黄褐	普通	1/3	横ナデ、ナデ+化粧粘土、口横ナ デ→体横ナデ	
2		土師	小型甕	口12.0 高13.8	英、長、雲、粗砂	橙	軟	口全存	ケズリ、横ナデ、横ナデ、口横ナ デ→縦ケズリ→指ナデ、指頭圧痕	口が歪んで いる
3		土師	甕	底 7.0	英、小礫、細砂	(内)明黄褐 (外)浅黄	普通	底部全存	横ナデ	
4		土師	甕	底10.0	英、長、雲、細砂	(内)黄褐 (外)にぶい黄褐	堅	1/6	横ナデ、砂底	
5		土師	甕	口19.6	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	軟	1/4	ナデに近いケズリ、横ナデ、縦ナ デ→口横ナデ→体横ナデ	
6		土師	甕	口21.8	英、長、雲、小礫	橙	普通	全存	縦ケズリ、横ナデ、体横ナデ→体 ケズリ→体上化粧粘土またはナデ	
7		土師	甕	口24.6	英、長、小礫、粗砂	(内)明黄褐 (外)橙	普通	13/36	ナデ、横ナデ	

S I 41 (第83図)

83 図1		土師	甕	口 9.0 底 6.4 高 8.0	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	全存	縦ナデ、横ナデ、左上がりナデ、 底内指頭圧痕、砂底	
2		土師	甕	底 6.8	英、長、雲、粗砂	(内)にぶい黄褐 (外)明褐	普通	7/12	縦ケズリ、横ナデ(ハケ目状)、底 指ナデ、指頭圧痕、底周辺ケズリ →上方向にケズリ、砂底	
3		土師	甕	口21.8	英、長、小礫、細砂	(内)明褐 (外)橙	普通	全存	横ナデ、左上方向に指ナデ、指頭 圧痕	
4		土師	小型甕	底 9.0	英、長、雲、粗砂、細 砂	(内)灰褐 (外)にぶい褐	堅	全存	縦ケズリ、横ナデ、ナデ、砂底	

S I 44 (第83図)

83 図9		土師	甕	口13.5 底 5.4 高 5.3	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)明褐	堅	底部全存	ケズリ、指ナデ、指頭圧痕、砂底	
----------	--	----	---	-------------------------	-----------	-------------------	---	------	-----------------	--

S I 45 (第85～87図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
85 図1		土師	埴	口13.5 底 5.4 高 5.3	英、長、雲、粗砂	(内)黒 (外)明褐	堅	7/36	ロクロ、底回転系切り、底内ミガキ、内黒	
2		土師	小型甕	口14.4	英、雲、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	11/36	横ナデ、縦ケズリ→ナデ、左上がりナデ、ロナデ→体ケズリ	
3		土師	甕	口17.4	英、長、雲、粗砂	橙	普通	1/6	縦ナデ、横ナデ、横ナデ→ロ横ナデ→体縦ナデ	
4		土師	小型甕	口17.0	英、長、小礫、鉄滓	(内)にぶい橙 (外)にぶい黄褐	軟	1/4	縦ナデまたはケズリ、横ナデ、横ナデ(ハケ目状)、内ハケ状工具横ナデ→横ナデ→外縦方向にやや強いナデ	断面黒色
5		土師	甕	口20.4	英、長、小礫、粗砂	橙	軟	13/36	横ナデ、横ナデ(ハケ目状)、ナデ+化粧粘土	
6		土師	甕	底 7.4	英、長、雲、礫、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい橙	普通	19/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、指頭圧痕、積み上げ痕、ロ横ナデ→体横ナデ→底指ナデ	
86 図1		土師	甕	口18.5	英、長、雲、小礫、粗砂	にぶい橙	普通	1/2	縦ナデ、横ナデ、ロ横ナデ→体横	
2		土師	甕	口20.1 底8.8 高34.7	長、礫、小礫、鉄滓、粗砂	橙	普通		縦ナデ(上→下)、横ナデ、砂底	
3		土師	甕	口21.0	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)明褐	普通	1/3	縦ナデまたはケズリ、横ナデ、上ケズリ、下横ナデ、上方向へ縦ケズリ→ロ横ナデ→体ナデ	
4		土師	甕	口23.0 高27.0	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい橙	普通	3/4	縦ナデ(下→上)、横ナデ、横指ナデ、横ナデ→ロ横ナデ→下縦ナデ	全体的に歪みがあり、体部もいびつ。
5		土師	甕	口25.8	英、長、雲、粗砂	(内)明赤褐 (外)橙	普通	1/6	横ナデ、ナデ(ハケ状)	
87 図1		土師	甕	口18.5	英、長、雲、小礫、粗砂	にぶい橙	普通	1/2	縦ナデ、横ナデ、ロ横ナデ→体横ナデ	
2		土師	甕底	底 7.4	英、長、雲、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	堅	4/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ、ナデ→化粧粘土?	体部がいびつである。
3		土師	甕	口 7.2	英、雲、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)灰褐	普通	底部全存	縦ナデ、ナデ(上→下)、横ナデ、指頭圧痕、縦ナデ→指ナデ	
4		土師	小型甕底	底 5.8	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい黄褐	普通	底部全存	下方向にケズリ、横ナデ、底内ナデ、砂底	
5		土師	甕	底10.4	英、長、雲、小礫	(内)にぶい橙 (外)灰褐色	軟	7/12	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、指頭圧痕、ヘラ切り体横ナデ	

S I 47 (第90図)

1		土師	甕	口14.0	英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	13/36	縦ケズリ、横ナデ、ナデ、ロ横ナデ→体縦ケズリ	
2		土師	甕	口12.0	英、雲、小礫、細砂	(内)黄橙 (外)橙	普通	5/36	横ナデ	
3		土師	甕底	底10.0	小礫、粗砂	橙	普通	底部全存	縦ケズリ、横ケズリ、ナデ+指ナデ、砂底	
4		土師	甕	口18.4 底 9.0 高26.0	英、長、雲、小礫	(内)橙 (外)にぶい黄褐	普通	口5/36 底7/36	縦ナデ、横ナデ、横ナデ(ハケ目状)、上横ナデ→左上がり縦ナデ→ロ横ナデ	全体的に歪む。
5		土師	甕	底10.0	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい橙	堅	17/36	縦ケズリ、指ナデ、底ケズリ	
6		土師	甕底	底 7.8	英、長、雲、小礫、粗砂	(内)にぶい褐 (外)橙	普通	5/9	縦ケズリ、横ナデ、底内指頭圧	
7		土師	甕	口21.0 底 8.3 高29.3	英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	口11/18 底5/12	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指頭圧痕	大きく歪む。底部は径が不定。

S I 49 (1) (第94図)

1		土師	埴	底 5.3	英、粗砂	(内)黒 (外)橙	堅	全存	上方向ケズリ+ナデ、内ヘラミガキ、回転系切り、内黒	
2	旧23・24k・1	土師	埴	底 4.3	英、雲、粗砂	(内)黒 (外)橙	堅	底部全存	ヘラミガキ、指ミガキ、回転系切り、内黒	
3		土師	小型甕	口 9.2	英、長、粗砂	(内)橙 (外)にぶい褐	普通	7/36	縦ナデ、横ナデ、ロ横ナデ→体縦ナデ、ロ横ナデ→横ナデ	
4	埋土	土師	小型甕	底 5.6	英、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい黄橙	普通	5/9	縦ナデ、横ナデ、砂底	
5		土師	小型甕	底 7.8	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい黄橙	軟	1/2	縦ナデ+ナデ+化粧粘土、横ナデ、横ナデ、ロ横ナデ→体縦ナデ→体ナデ+化粧粘土	
6		土師	甕	底 8.0	英、長、粗砂	橙	普通	1/6	縦ケズリ、砂底	
7		土師	甕	底10.6	英、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	11/72	縦ケズリ、薦編み圧痕、ナデ	
8		土師	小型甕	口13.0	英、雲、小礫、粗砂	橙	普通	1/4	縦ナデ、横ナデ、ロ横ナデ→縦ナデ→体ナデ、化粧粘土	

S I 49 (2) (第94, 95図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
9		土師	甕	口15.0	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	1/9	横ナデ、指ナデ+ナデ+化粧粘土、口横ナデ→体縦指ナデ→体化粧粘土	
10		土師	甕	口24.0	英、長、小礫	(内)明赤褐 (外)橙	普通	1/12	縦ケズリ、横ナデ、横ナデ(ハケ目)	
95 図1		土師	甕	口18.4	英、長、小礫、粗砂	黄橙	軟	11/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、横指ナデ、指ナデ、指頭圧痕+化粧粘土	
2		土師	甕	口22.0	英、長、小礫、粗砂	黄橙	軟	1/2	横ナデ、縦ナデ+ナデ+化粧粘土、口横ナデ→体縦ナデ→体指ナデ+化粧粘土、口横ナデ→体横ナデ	
3		土師	甕	口22.0	英、雲、粗砂	橙	普通	2/9	縦ナデ、横ナデ、口縦ナデ→体指ナデ→体ナデ	

S I 50 (第96図)

1		土師	小型甕	口15.8 底 7.8	長、雲、小礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	11/36	縦ケズリ、横ナデ、底ナデ+指ナデ、体ケズリ→口横ナデ、砂外へラ調整、砂底	
2		土師	甕	底 7.0	英、長、雲、粗砂	(内)橙 (外)明赤褐	堅	4/9	ナデ、横ナデ、ヘラでくびれをつけ粘土がめくれている。砂底	
3		土師	甕	底 8.1	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	2/3	縦ケズリ、横ナデ、底内指頭圧痕、砂底	
4		土師	甕	口22.0	英、長、小礫、鉄滓、	橙	普通	1/9	横ナデ、横ナデ(ハケ目状)、指ナデ	
5		土師	甕	口22.0	英、雲、小礫、粗砂	橙	普通	5/36	ナデに近い縦ケズリ、横ナデ、口横ナデ→体横ナデ→縦ケズリ、口横ナデ→上から下へ横ナデ	スス付着
6		土師	甕	口26.0	長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	13/36	横ナデ、指ナデ、口ナデ→横ナデ、指頭圧痕	
7		土師	甕	口37.2	長、小礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)明黄褐	普通	1/9	縦ケズリ、横ナデ、横ナデ(ハケ目状)、体横ナデ→口横ナデ	

S I 51 (第97図)

1		土師	埴	底 5.0	英、小礫、粗砂	(内)黒 (外)橙	堅	11/18	ロクロ、回転糸切り、内黒	
2		土師	甕	底 8.4	英、長、雲、小礫、粗	(内)褐灰 (外)橙	普通	1/3	縦ケズリ、横ナデ、砂底	

S I 52 (第99図)

1		土師	埴	口14.0 底 5.8	英、粗砂、細砂	(外)明黄褐 (内)青黒	堅	5/9	指ナデ、ロクロ、回転糸切り、内	
2		土師	甕	口 9.0		(外)浅黄橙 (内)黄橙	普通	1/6	縦ナデ(下→上)、横ナデ、口横ナデ→体横ナデ→体縦ナデ	
3	26・27 m・n	土師	甕底	底 7.3	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	底部全存	縦ケズリ、横ナデ、指ナデ、縦ケズリ→底横ナデ、指頭圧痕、砂底	
4		土師	小型甕	口12.8	英、雲、細砂	橙	普通	5/18	横ナデ	
5		土師	小型甕	口13.0 底 6.8 高11.0	英、長、雲、粗砂	にぶい黄橙	普通	1/6	縦ケズリ、横ナデ、底内指頭圧痕、砂底	
6		土師	小型甕	口17.2	英、長、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	2/9	縦ケズリ(下→上)、横ナデ、口横ナデ→体縦ケズリ	
7		土師	小型甕	底 7.4	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい褐	堅	5/9	縦ケズリ、横ナデ、ナデ、口横ナデ→体縦ケズリ	

S I 53 (第99図)

8		土師	埴	口13.8	英、長、細砂	黒	堅	7/36	ナデ、ロクロ、内黒	被熱?
9		土師	埴	口11.4 底 6.0	英、長、粗砂	(内)黒 (外)橙	堅	5/18	ロクロ→ナデ+化粧粘土、ヘラ痕跡、回転糸切り(右)	

S K 4 (第106図)

1		土師	甕	口14.2	英、長、小礫、粗砂	(内)赤褐 (外)明赤褐	普通	2/9	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、横指ナデ	
2		土師	小型甕	口16.0	英、長、小礫	(内)にぶい黄褐 (外)にぶい黄橙	軟	5/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、口横ナデ、体縦ナデ、指頭圧痕	
3		土師	甕	口12.6	粗砂	(内)明赤褐 (外)橙	普通	5/18		
4		土師	小型甕	口14.0	英、長、雲、小礫	にぶい黄橙	堅	1/6	縦ナデ(上→下)、横ナデ、体横ナデ→口横ナデ、指頭圧痕	
5		土師	甕	底 8.4	英、小礫、鉄滓、長石	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	2/9	指ナデ(下→上)、指ナデ+底ナデ	
6		土師	甕	底 7.8	英、雲、小礫、鉄滓	(内)にぶい橙 (外)灰黄褐	軟	7/18	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指頭圧痕	

S K 5 (第106図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
106 図7		土師	甕	底 9.0	英、長、小礫、粗砂	橙	堅	1/2	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、底指ナデ、指頭圧痕、砂底	

S K 6 (第106図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
106 図8		土師	小型甕	口10.4	英、長、小礫	(内)にぶい黄橙 (外)浅黄橙	堅	5/18	横ナデ、口横ナデ→体横ナデ、指頭圧痕	
9		土師	甕	底 7.6	英、長、小礫、粗砂	(内)黒 (外)橙	普通	5/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、指頭圧痕、内黒	
10		土師	甕	口17.4	英、長、小礫	橙	堅	1/6	斜(縦?)ナデ(上→下)、体横ナデ→口横ナデ	
11		土師	甕	口19.0	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)明黄褐	堅	5/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、口横ナデ→体横ナデ	
12		土師	甕	底10.0	英、長、雲、粗砂	(内)明黄褐 (外)橙	堅	8/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ、底ナデ、砂底	

S D 10 (第106図)

13		土師	甕底	底 8.6	英、長、小礫、鉄滓	橙	普通	1/2	縦ケズリまたはナデ、底ヘラ切り	
14		土師	甕底	底 6.9	英、長、礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	全存	横ナデ、指頭圧痕、積み上げ痕、底ドーナツ型	

S D 14 (第106図)

15		土師	甕	底 7.4	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)明褐灰	普通	25/36	指頭圧痕、砂底	
16		土師	甕	底 8.0	英、長、礫、小礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、指ナデ、砂底	

S X 4 (第107図)

1		土師	甕底	底 5.3	英、長、小礫、鉄滓	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	底部全存	縦ナデ(上→下)、指ナデ	
---	--	----	----	-------	-----------	-----------------	----	------	--------------	--

S X 6 (第110図)

1		土師	甕	口13.6	英、長、礫、小礫、鉄	褐	普通	5/36	縦ナデ、横ナデ	
2		土師	甕	口15.4	英、長、雲、小礫	(内)にぶい橙 (外)浅黄橙	普通	1/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指頭圧痕	
3		土師	甕底	底 8.2	英、長、小礫、粗砂	にぶい橙	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、ナデ、横ナデ	
4		土師	甕	口14.0 底 8.4	英、長、小礫、鉄滓	橙	普通	7/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
5		土師	甕	口20.4	英、長、雲、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	1/12	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
6		土師	鍋	口27.4	英、長、小礫、粗砂	にぶい橙	堅	1/9	縦ナデ、横ナデ	

S X 7 (第111図)

1		土師	埴	底 4.4	英、長、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	17/36	回転系切り(右)、内黒	
2		土師	甕	口14.0	英、長、雲、小礫	(内)明褐 (外)橙	普通	1/9	縦ナデ(上→下)、横ナデ	

S X 8 (第112図)

1		土師	小型甕	口10.0	英、長、小礫	浅黄	普通	2/9	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指頭圧痕	歪みがあるため口径は不正確
2		土師	甕	底10.2	英、長、礫、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	2/9	縦ナデ、横ナデ、指ナデ、砂底	砂底
3		土師	甕	口16.0	英、長、雲、粗砂	橙	普通	1/9	縦ナデ(上→下)、横ナデ	
4		土師	甕	口17.6	英、長、雲、小礫	橙	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
5		土師	甕	口18.4	英、長、小礫	橙	普通	2/9	横ナデ	
6		土師	鍋	口26.4	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	2/9	横ナデ	

S X 10(1) (第113図)

1		土師	埴	口12.0	英、長、小礫、細砂	(内)明褐 (外)明黄褐	堅	1/3	回転系切り(右)、内黒	
2		土師	埴	底 4.8	英、長、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	5/6	放射状ミガキ、回転系切り(右)	
3		土師	小型甕	底 4.4	英、長、礫、小礫	橙	堅	底部全存	縦ナデ、指ナデ、指頭圧痕	
4		土師	甕	底 6.2	英、長、礫、小礫、粗砂	(内)浅黄橙 (外)にぶい橙	軟	1/2	横ナデ調整、底指ナデ、指頭圧痕、砂底	
5		土師	小型甕	底 6.4	英、長、礫、小礫	橙	普通	11/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、ヘラ調整	

S X 10(2) (第113図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
6		土師	甕底	底 7.2	英、長、雲、礫、小礫	(内)オリーブ灰 (外)橙	普通	17/36	縦ナデ、底ナデ、砂底	
7		土師	小型甕	底 12.2	英、小礫、粗砂	(内)浅黄橙 (外)橙	普通	1/4	縦ナデ、横ナデ、指ナデ、口横ナデ→体横ナデ	
8		土師	甕	底 15.2	英、長、小礫、細砂	(内)橙 (外)浅黄	普通	5/36	横ナデ、横指ナデ	軽い
9		土師	甕	底 15.0	英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	3/4	縦ナデ(上→下)、横ナデ	口被熱、径はいびつ。
10		土師	甕	底 17.6	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)にぶい黄橙	普通	5/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
11		土師	小型甕	底 9.7	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	底部全存	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指頭圧痕、砂底	
12		土師	甕	底 29.4	英、長、雲、小礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	5/36	横ナデ、指ナデ? (幅が短い)、指頭圧痕	
13		土師 質土器		底 12.6	英、長、海針、小レキ	(内)橙 (外)にぶい黄		5/36		

S X 12 (第114図)

1		土師	甕	底 15.2	英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	5/36	横ナデ、ナデ+化粧粘土	
2		土師	甕	底 6.8	英、長、小礫、粗砂、細砂	(内)明黄褐 (外)橙	普通	13/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指頭圧痕、砂底	
3		土師	甕底	底 7.2	英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	底部全存	縦ナデ、横ナデ、砂底	
4		土師	甕底	底 8.2	英、長、礫、小礫	にぶい黄橙	普通	1/2	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	
5		土師	甕底	底 7.6	英、長、雲、礫、小礫、鉄滓、粗砂	橙	普通	2/9	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、底指ナデ、指頭圧痕、砂底	

S X 14 (第115図)

1		土師	埴	底 4.4	英、長、雲、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	底部全存	ミガキ、回転糸切り、内黒	
2		土師	甕	底 8.0	英、長、小礫、粗砂	(内)黒 (外)橙	普通		底ナデ、内黒、砂底	
3		土師	甕	底 10.0 底 7.2	英、長、礫、小礫、粗砂	(外)明赤褐 (内)にぶい黄褐	普通	5/36	縦ナデ、横ナデ、指ナデ、指頭圧痕	
4		土師		底 16.0	英、長、雲、礫、小礫	(外)にぶい黄橙 (内)明赤褐	普通	11/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ	

S I 54 (第117図)

1		土師	埴	底 4.5	英、長、粗砂、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	底部全存	ロクロ、回転糸切り、内黒	
2		土師	甕	底 10.4	英、長、小礫、粗砂	(内)灰 (外)にぶい黄橙	普通	1/9	縦ナデ(下→上)、口横ナデ→体横ナデ→体縦ナデ、口横ナデ→体縦ナデ→体横ナデ	体縦ナデが消し切れていない部分がある。
3		土師	甕	底 17.0	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	5/9	横ナデ、指ナデ、指頭圧痕、口指ナデ→体横ナデ	
4		土師	甕	底 20.0	英、雲、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	1/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指ナデ、口横ナデ→体横ナデ→体縦ナデ(下→上)、口横ナデ→体横ナデ、指頭圧痕	

S I 55 (第119図)

1		土師	小型甕	底 12.2	英、長、粗砂	にぶい黄橙	普通	1/6	縦ナデ、横ナデ、口指ナデ、口横ナデ→体縦ナデ	
2		土師	小型甕	底 6.6	英、長、小礫、鉄滓	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい橙	普通	1/2	縦ナデ(上→下)、ナデ、指ナデ?、ヘラ調整	
3		土師	甕	底 18.6	英、長、雲、粗砂	にぶい黄橙	普通	1/18	上方縦ケズリ、横ナデ、斜ナデ	
4		土師	甕	底 18.8	英、長、雲、礫、小礫、粗砂	(内)黄橙 (外)浅黄橙	普通	7/18	縦ケズリ、横ナデ、口横ナデ→体縦ケズリ(下→上)	内に被熱によるひび割れあり
5		土師	甕	底 24.8	英、長、雲、小礫	にぶい黄橙	普通	5/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、横指ナデ、口横ナデ→体指ナデ→体中から下縦ナデ(上→下)、口横ナデ→体横ナデ	
6a		土師	甕	底 9.4	長、英、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい褐 (外)にぶい橙	普通	4/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
6b		土師	甕	底 18.4	英、長、雲、鉄滓、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	7/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指頭圧痕	

S I 56 (第119図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
7		土師	甕	口22.2	英、長、細砂	(内)明赤褐 (外)橙	普通	5/36	縦ナデ、横ナデ	
8		土師	甕底	底 8.8	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	2/3	縦ケズリ、横ナデ、指ナデ、底内指頭圧痕、底指ナデ、砂底	体下外炭化物
9		土師		底 8.0	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	4/9	縦ケズリ、ナデ、横ナデ、縦ケズリ→ナデ+化粧粘土、底内指ナデ、砂底	

S I 57 (第121図)

1		土師	埴	底 5.2	英、小礫、鉄滓、細砂	(内)黒 (外)にぶい黄橙	堅	底部全存	ロクロ、放射状ミガキ、回転系切り、ナデ、内黒	
2		土師	埴	底 4.8	英、長、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	5/9	放射状ミガキ、回転系切り(右)、内黒	
3		土師	埴	底 5.3	英、長、細砂	(内)明赤褐 (外)黒	堅	1/2	ロクロ、放射状ミガキ、回転系切り(右)	
4		土師	埴	底 5.4	英、小礫、粗砂	(内)黒 (外)橙	堅	2/3	ナデ、ロクロ、回転系切り、内黒	

S I 59 (第125図)

1		土師	甕底	底 5.6	英、小礫	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい橙	普通	一部欠損	ナデ、砂底はドーナツ型	
---	--	----	----	-------	------	---------------------	----	------	-------------	--

S I 61 (第125図)

3		土師	甕	口15.4	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	1/6	縦ナデ(上→下)、横ナデ	
4		土師	甕	口18.4	英、長、雲、礫、小礫	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	2/9	縦ナデ、横ナデ	
5		土師	甕	底 9.5	英、長、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	軟	35/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指ナデ、指頭圧痕、砂底	
6		土師	小型甕	口 9.8	英、長、雲、小礫、鉄	(内)浅黄橙 (外)黄橙	普通	4/9	縦ナデ(上→下)、横ナデ	
7		土師	小型甕	口12.6	英、長、雲、小礫、粗	にぶい橙	普通	1/4	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
8		土師	甕	口13.4	英、長、礫、小礫、粗	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい橙	普通	1/4	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
9		土師	甕	口17.0	英、長、雲、小礫、粗	橙	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ、縦指ナデ	
10		土師	甕底	底 6.2	英、長、小礫、粗砂	(内)灰黄褐 (外)橙	普通	底部全存	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指ナデ、底指ナデ、指頭圧痕	
11		土師	甕	底 8.8	英、長、小礫、粗砂	(内)橙 (外)黄橙	普通	全存	縦ナデ(下→上)、横ナデ、底指ナデ、指頭圧痕、砂底	

S I 63 (第127図)

1		土師		口14.0	英、長、雲、小礫、鉄滓	橙	堅	1/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
---	--	----	--	-------	-------------	---	---	-----	--------------	--

S E 2 (第127図)

2		土師	小型甕	底 5.4	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	11/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	
3		土師	甕底	底 7.8	英、長、雲、小礫、粗	(内)橙 (外)明赤褐	軟	2/9	指ナデ、指頭圧痕、砂底	
4		土師	甕	底10.0	英、長、小礫、粗砂	(内)明褐 (外)にぶい褐	普通	1/4	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	

S I 64 (第129図)

1		土師	甕	口22.4	英、長、雲、小礫、粗	橙	軟	1/4	縦ナデ、横ナデ、指ナデ、指頭圧	
3		珠洲系陶器	搦鉢?	底 8.0	英、長、細砂	黄灰	堅		静止系切り	(内)菊文あり

S I 65 (第130図)

1		土師	甕	底10.1	英、長、小礫、細砂	にぶい黄橙	普通	一部欠損	縦ナデ(上→下)、指ナデ、指頭圧痕、砂底	
---	--	----	---	-------	-----------	-------	----	------	----------------------	--

S I 66 (第131図)

2		土師		口13.5		(外)にぶい赤褐 (内)橙				
2		土師	甕	口16.2	英、長、小礫、粗砂、細砂	橙	普通	2/9	ナデ、横ナデ、指頭圧痕、砂底	
3		土師	小型甕	底 6.2	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	11/36	縦ナデ、横ナデ、底指ナデ、指頭圧痕	
4		土師	甕	口 7.8	英、長、鉄滓、粗砂	橙	普通	1/3	縦ナデ(下→上)、指ナデ、指頭圧痕、ヘラ調整	
5		土師	小型甕	底 7.6	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	(外)にぶい褐 (内)にぶい橙	普通	全存	縦ナデ(下→上)、横ナデ+底指ナデ、指頭圧痕、砂底	
6		土師	甕底	底10.1	英、長、小礫、鉄滓	橙	普通	全存	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	
7		土師	鍋	口28.4	英、長、小礫、粗砂	橙	堅	1/9	横ナデ、化粧粘土、指頭圧痕	

確認調査 (第133～134図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
133 図1		須恵	甕	口18.6	英、長、細砂、海針	黄灰	堅	1/6	ロクロ、頸部絞り	
2	12 d	土師	甕	口13.2	英、長、細砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	軟	1/6	横ナデ	
3	12 d	土師	小型甕	口15.0	英、小礫、細砂	灰黄褐	普通	5/36	横ナデ、指頭圧痕	
4	12 d	土師	小型甕	口16.0	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	5/36	横ナデ、指ナデ(弱)→縦ナデ(弱)	
5	12 d	土師	甕	口16.6	長、英、鉄滓、粗砂	橙	軟	5/36	横ナデ、指頭圧痕	
6	12 d	土師	甕	口19.0	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	5/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ、横ナデ	
7	12 d	土師	甕	口12.8	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	13/36		
8	12 d	土師	甕	口19.0	英、長、小礫、粗砂	橙	軟	7/9	横ナデ、指ナデ、指頭圧痕	
9		土師	甕	口28.4	英、長、小礫、鉄滓、粗砂	橙	普通	1/12	縦ナデ(上→下)、横ナデ、指頭圧痕	
10		土師	甕	口27.8	英、長、小礫、細砂	橙	普通	1/12	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
11	12 d	土師	甕	底 9.0	長、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい褐 (外)橙	普通	4/9	縦ナデ(下→上)+指ナデ、横ナデ、指ナデ、砂底	
12	12 d	土師	甕	底 7.4	英、長、小礫、粗砂、細砂	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	2/3	ナデ、底へら状工具ナデ、砂底	
134 図1		土師	小型甕	底 7.0	英、長、小礫、粗砂	(内)褐灰 (外)橙	普通	底部全存	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底はドーナツ型、砂底	
2		土師	小型甕	底 7.0	英、長、雲、小礫、鉄滓、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	2/3	縦ナデ(下→上)、横ナデ、指ナデ、指頭圧痕、砂底	

I 区包含層 (第134図)

3	1 b	土師	埴	底 4.0	英、細砂	(内)黒 (外)にぶい褐	堅	底部全存	ロクロ、底ナデ、回転系切り	
4	4 c	土師	埴	底 4.9	英、細砂	(内)黒 (外)橙	普通	底部一部欠	回転系切り、内黒	
5	8 b	土師	埴	底 4.8	英、長、細砂	(内)黒 (外)橙	普通	8/9	回転系切り(右)、内黒	
6	3 d	土師	甕底	底 6.6	英、長、鉄滓、粗砂、	(内)橙 (外)にぶい赤褐	普通	13/18	横ナデ、へら状工具、指ナデ、砂	
7		土師	甕	底 7.8	英、長、礫、小礫、細	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	1/2	縦ナデ(上→下)、横ナデ、へら調整	
8		土師	甕	底 9.0	英、長、礫、小礫、粗	(内)にぶい褐 (外)橙	普通	5/6	へら状工具横ナデ、指頭圧痕、砂	
9		土師	甕	口20.8	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい橙	普通	1/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
10		土師	甕	口22.2	英、長、礫、小礫、鉄滓	にぶい黄橙	普通	5/36	横ナデ、指頭圧痕	

II 区包含層(1) (第134, 135図)

134 図 11	23・ 24e・f 確認 面	須恵	長頸瓶	口11.8	英、長、細砂、海針	灰	堅	5/36		
12	15 j 確認 面	須恵	甕		英、長、細砂	(内)緑黒～暗灰 (外)青黒	堅			外薄く自然釉、火膨れ
13	17・ 18d・e	須恵	壺		英、長、小礫、細砂	(内)にぶい黄橙 (外)明黄褐				へら記号「大」
14	15 g	須恵	壺	口22.0	英、長、粗砂、細砂、	(外)暗褐 (内)黒褐	堅	1/4	ロクロ、平行タタキ目	断面明赤褐色
15	13・ 14h・i	土師	埴	底 4.0	英、長、細砂	(内)黄褐 (外)明黄褐	堅	底部全存	ロクロ、回転系切り(右)	
16	25 d	土師	埴	底 4.2	英、長、細砂	(内)黒 (外)にぶい黄橙	堅	底部全存	ロクロ、横ナデ、回転系切り(右)、内黒	
17	15・ 16g・h 確認 層上	土師	埴	底 4.5		(内)黒 (外)橙		底部全存		
18		土師	埴	底 4.4	英、長、細砂	(内)黒 (外)にぶい黄橙	堅	底部全存	ロクロ、指ナデ、回転系切り(右)、内黒	
19	17e	土師	埴	底 4.4		(内)黒 (外)浅黄橙		1/2	ロクロ、横指ナデ、回転系切り(右)、内黒	
20	25 l	土師	埴	口12.2 底 6.6	英、長、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	口1/9	放射状ナデ、棒状工具沈線、回転系切り(右)、内黒	外反
135 図1	24i遺構 確認面	土師	甕?	口 6.0	英、長、雲、小礫、粗砂	橙	普通	11/36	縦ナデ(上→下)、ナデ、横ナデ	
2	26・27 c・d	土師	甕	口 9.2	英、長、雲、粗砂、細砂	(内)明褐 (外)にぶい褐	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
3		土師	小型甕	口13.0	英、長、礫、小礫、鉄滓	橙	普通	7/36	縦ナデ(上→下)、横ナデ	
4		土師	手づくね土器	口 3.0	英、礫、小礫	明黄褐	軟	11/36	指ナデ、指頭圧痕	

Ⅱ区包含層(2) (第134, 135図)

番号	地 点	種別	器種	法量	胎土	色調	焼成	遺存	手 法	備 考
5	25e確面 同	土師	甕	口17.2	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)浅黄橙	普通	1/4	横ナデ	
6	25, 26hi 遺確	土師	甕底	底 6.8	英、長、雲、粗砂、細砂	橙	普通	17/36	指ナデ、ヘラ状工具横ナデ	
7	24i	土師	小型甕	底 6.2	英、長、小礫、粗砂、細砂	(内)にぶい褐 (外)橙	普通	7/12	縦ナデ(上→下)、横ナデ、底指ナデ、砂底	
8	17g 確下	土師	甕底	底 8.2		橙	普通	5/12		
9	25e確面 同	土師	甕底	底 8.4	英、長、細砂	(内)褐灰 (外)にぶい黄橙	普通	11/18	縦ナデ(下→上)、横ナデヘラ状工具	剥離
10	4e	土師	甕	底 8.0	英、長、礫、小礫、鉄	(内)にぶい橙 (外)にぶい褐	堅	7/18	縦ナデ(上→下)、指ナデ、砂底	
11		土師	甕底	底 7.0	英、長、小礫、鉄滓	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	全存	縦ナデ(上→下)、ナデ、底ナデ、ヘラ調整	
12	25-e確面 同	土師	甕底	底10.2	英、長、礫、小礫、粗	(内)にぶい黄橙 (外)橙	普通	13/18	縦ナデ(下→上)、横ナデ、底指ナデ、指頭圧痕、砂底	
13	13・14-j・k	土師	鍋	口32.8	英、長、小礫、鉄滓	にぶい橙	堅	1/9	横ナデ、横ナデ(ハケ目状)	

Ⅲ区包含層 (第135図)

135 図 14	8c	土師	甕底	底 7.7		(内)にぶい黄褐 (外)にぶい赤褐		3/4		
15	30st	土師	甕底	底 6.8		橙		5/12		
16	26・27 l・m	土師	甕	底 8.4	英、長、礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	底一部欠損	縦ナデ(下→上)、砂底	
17		須恵	甕		英、長、細砂	(内)黄灰 (外)灰	軟		内外平行タタキ目5～6条	

S I 58 (第140図)

1		白磁	皿	底 6.4		灰白	堅	4/9		福建省白磁
2		珠洲系陶器	搦鉢	口31.4		(内)にぶい黄褐 (外)灰黄褐		1/16		
3		縄文	深鉢	口14.8 底11.4	英、長、細砂、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)明黄褐	普通	5/36	ナデ、無調整	

S B 17 (第142図)

142 図1		須恵	甕		英、長、細砂	(内)灰 (外)オリーブ灰	堅			
-----------	--	----	---	--	--------	------------------	---	--	--	--

S X 9 (第143図)

1	底面	珠洲	搦鉢	口24.4	英	灰	堅	1/12		
2		土師	甕	口16.2	英、長、礫、小礫、鉄滓	橙	普通	1/6	縦ナデ、横ナデ、指ナデ	
3		土師	甕	口18.0	英、長、小礫、粗砂	(内)にぶい黄橙 (外)浅黄	普通	5/36	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
4		土師	甕	口18.0	英、長、小礫、鉄滓	(内)にぶい黄橙 (外)黄灰	普通	1/6	横ナデ、指頭圧痕、化粧粘土	
5		土師	甕	口22.0	英、長、雲、礫、小礫、鉄滓	にぶい黄橙	普通	11/36	横ナデ、横ナデ、指ナデ+化粧粘土	
6		土師	甕	口16.0	英、長、礫、小礫	(内)橙 (外)明黄褐	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、横ナデ	
7		土師	甕	底 8.6	英、長、礫、小礫、粗砂	にぶい黄橙	普通	1/4	横ナデ、指ナデ	
8		土師	甕	底 7.6	英、長、小礫、粗砂	(内)灰黄褐 (外)橙	普通	17/36	縦ナデ(上→下)、底指ナデ、指頭圧痕、砂底ドーナツ型	

S E 1 (第144図)

1		志野	皿	底 7.8		灰白	堅	2/9	ロクロ、胎土目積み	
2		土師	埴	底 4.0	英、長、細砂	(内)黒 (外)橙	堅	1/2	ロクロ、回転系切り、ヘラ調整	
3	上層	土師	埴	底 4.6	英、雲、細砂	(内)にぶい橙 (外)橙	堅	1/6	ロクロ、回転系切り、ナデ	
4	上層	土師	甕	底 6.4	英、長、雲、小礫、粗砂	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	1/6	縦ナデ、底指ナデ、指頭圧痕、砂底	
5	中層	土師	小型甕	底6.2	英、長、小礫、粗砂	橙	軟	1/2	ロクロ、底ロクロ回転系切り(右)	埴の可能性あり
6		土師	甕	底7.0	英、長、小礫、粗砂、細砂	橙	普通	2/9	縦ナデ(下→上)、ナデ、砂底	
7		土師	甕	底8.6	英、長、粗砂	(内)橙 (外)にぶい橙	普通	1/4	縦ナデ(上→下)、底ナデ、砂底	
8	中層	土師	甕	底8.8	英、長、小礫、粗砂	橙	普通	1/3	縦ナデ(下→上)、横ナデ、砂底	
9		土師	小型甕	口15.0	英、長、小礫	(内)にぶい橙 (外)橙	普通	5/36	ナデ、横ナデ、指頭圧痕	
10		土師	甕	口20.6	英、長、小礫、細砂	橙	普通	1/6	ナデ、横ナデ	
11		土師	甕	口20.8	粗砂	にぶい橙	普通	5/36		
12		土師	甕	底8.0	英、長、小礫、細砂	(内)灰(外)灰白	普通	底部全存	縦ナデ(上→下)、指ナデ、砂底	

石器・石製品（第14図）

番号	器種	最大長 (c m)	最大幅 (c m)	最大厚 (c m)	重量 (g)	石材	備考
12	石小刀	6.2	3.4	0.7	15.3	珪質頁岩	
13	石小刀	7.0	2.8	0.7	16.4	珪質頁岩	
14	石小刀	9.3	3.9	0.7	30.8	珪質頁岩	
15	石小刀	10.3	3.0	0.9	27.0	珪質頁岩	
16	磨製石斧	9.2	4.0	2.1	142.0		
17	磨製石斧	10.6	5.2	2.2	231.7		
18	有孔円盤状石製品	4.1	3.6	1.1	23.1	凝灰岩	
19	岩偶様石製品	12.9	7.6	3.1	215.9	凝灰岩	

鉄関連遺物

S I 1

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
	1		羽口(製錬)(先端)	8.6	2.9	5.2	96	-	なし	
	2		羽口(製錬)(先端)	14.4	5.7	6.3	298	-	なし	
	3	カマド構築材	羽口(製錬)(体部)	13.2	6.4	8.4	331	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	8.6	5.2	1.4	51	-	なし	
		最下層	椀形鍛冶滓(小)				28	-	なし	
	4	埋積土	椀形鍛冶滓(小)(含鉄)	5.6	4.0	3.6	62	2	錆化(△)	
		床面	椀形鍛冶滓(極小)				7	-	なし	
計							873			

S I 2

19-3	5	カマド右袖部	鉄製品(鍛造品)(手鎌)	1.1	2.2	0.4	11	3	錆化(△)	
計							11			

S I 3

	6	カマド下位	羽口(製錬)(先端)	6.3	2.5	4.6	44	－	なし	
	7		流出溝滓	2.4	4.1	1.7	45	1	なし	
			流動滓	3.2	3.0	0.7	7	2	なし	
			羽口(鍛冶)(先端)	3.4	3.2	2.7	9	2	なし	
			椀形鍛冶滓(特大)				56	2	なし	
	8		椀形鍛冶滓(大)	4.2	3.4	3.1	69	2	なし	
			椀形鍛冶滓(大)				57	4	なし	
			椀形鍛冶滓(中)(含鉄)				39	3	錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(小)(含鉄)				34	5	錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(小)(含鉄)				18	2	錆化(△)	
	9		椀形鍛冶滓(極小)(含鉄)	3.2	2.9	1.4	14	4	錆化(△)	
			含鉄鉄滓				10	5	錆化(△)	
計							402			

S I 4(1)

		床面	羽口(製錬)(先端～体部)	5.6	4.6	2.8	46	4	なし	
		床面	羽口(製錬)(先端～体部)	3.1	2.7	2.1	16	3	なし	
			炉内滓				0	－	なし	
		床面	炉内滓				3	－	なし	
		床面	炉内滓				0	－	なし	
		床面	椀形鍛冶滓(特大)				23	3	M(◎)	
20-2	10	床面	椀形鍛冶滓(特大)(含鉄)	10.9	6.7	5.4	332	6	錆化(△)	破面を3つ持つ。両側面と底部が破面。全体的に茶褐色、木炭付着。裏面はスサ混じりで、木炭付着。
20-3	11	床面	椀形鍛冶滓(大)	14.5	9.7	7.4	721	3	なし	不整楕円形。木炭が目立つ。スサが表面に確認される。全体的に錆に覆われている。側面に大きな木炭有り。礫と砂が付着。茶褐色。裏・中央部に木炭あり。全体的に錆あり。礫、砂あり、スサ混入。

S I 4 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
			梔形鍛冶滓(大)	6.7	6.0	6.1	324	-	なし	
		床面	梔形鍛冶滓(大)				17	4	M(◎)	
20-4	12	床面	梔形鍛冶滓(大)(含鉄)	13.8	6.9	5.8	545	3	M(◎)	表面部に大きな気孔あり。上下に破面を持ち、両側面は左側に直線状、右側にV字の破面がある。わずかに木炭付着。全体的に錆化が激しく、茶褐色。裏面には、酸化土砂と礫が多く付着。スサ混入。茶褐色。
		床面	梔形鍛冶滓(大)(含鉄)				18	2	M(◎)	
		床面	梔形鍛冶滓(小)				3	2	なし	
	13	床面	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)	3.4	1.9	2.4	25	4	M(◎)	
		床面	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				5	2	錆化(△)	
		床面	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				11	3	M(◎)	
		床面	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				19	4	M(◎)	
		床面	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				2	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				43	-	なし	
		床面	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				3	2	錆化(△)	
		床面	鍛冶滓				0	-	なし	
		床面	含鉄鉄滓				2	2	錆化(△)	
		床面	含鉄鉄滓				1	2	錆化(△)	
		床面	含鉄鉄滓				1	3	錆化(△)	
20-1	14	床面	鉄製品(鍛造品)	4.0	1.7	2.9	15	3	なし	楕円形の環。全体的に錆化が激しく、茶褐色を呈す。本体の確認不可。礫、酸化土砂によって覆われている。破面は0。
計							2,175			

S I 5

22-1	15	カマド構築材	羽口(製錬) (先端～体部)	7.6	9.0	8.6	177	-	なし	先端部溶解。カマボコ型羽口。先端部は被熱している。溶解部の先端はガラス質になり、気孔が多数。先端両側面に砂鉄あり。外側は灰色、内部は黄土色。
		カマド構築材	羽口(製錬)(体部～基部)	8.2	4.4	1.3	52	-	なし	
計							229			

S I 6

			羽口(製錬)(体部)				9	-	なし	
22-6	16		羽口(鍛冶)(体部)	5.2	5.1	2.4	45	-	なし	基部の部分のみ残存。厚みは2.4cm。
			羽口(鍛冶)(体部)	10.0	6.8	2.6	101	-	なし	
			羽口(鍛冶)(体部)	2.6	2.4	1.5	6	-	なし	
	17		椀形鍛冶滓(中)(含鉄)	6.0	2.7	4.6	58	-	錆化(△)	
計							219			

S I 7

		埋積土	羽口(製錬) (体部)(貫巻痕付)	3.2	2.9	1.2	9	-	なし	
25-1	18	床面	鉄塊系遺物(含鉄)	9.6	6.2	2.4	228	8	特L(☆)	
25-3	19	炭化材中	鉄製品(鍛造品)	9.0	0.7	0.9	12	7	錆化(△)	
25-4	20	炭化材中	鉄製品(鍛造品)	10.4	0.8	1.0	9	4	錆化(△)	
25-2	21	炭化材中	鉄製品(鍛造品)(ヤス)	8.9	0.6	0.8	4	2	錆化(△)	
計							262			

S I 8

	22		羽口(製錬)(体部)	6	2.7	4.6	58	-	なし	
		カマド構築材	羽口(製錬)(体部)	7.4	4.5	1.7	43	-	なし	
計							101			

S I 10

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		耕上 上位覆土	炉壁(製錬)				5	-	なし	
	23		羽口(製錬)(体部)	7.7	4.5	6.2	122	-	なし	
			羽口(製錬)(先端～体部)	7.3	4.8	2.2	54	-	なし	
	24	北壁外確認層下	流出孔滓	2.3	4.7	1.8	33	2	錆化(△)	
	25	埋積土	流出孔滓	3.2	4.1	0.2	43	2	なし	
	26		流動滓	9.0	5.2	0.8	8	2	なし	
		上位覆土	椀形鍛冶滓(大)				70	5	錆化(△)	
	27		椀形鍛冶滓(大)(含鉄)	4.2	4.5	1.7	120	5	錆化(△)	
		上位覆土	椀形鍛冶滓？(小)				11	3	なし	
31-4	28	上位覆土	椀形鍛冶滓(極小)(含鉄)	3.4	4.4	1.4	24	4	錆化(△)	不整四角形の椀型鍛冶滓で、大きさは小ぶり。5つの破面を持つ。中央はくぼんでいる。所々に錆が付着。錆は茶褐色で、他は暗灰色。
31-1	29	カマド横	鉄製品(鍛造品) (刀子、木柄付き)	13.8	20.0	15.0	14	2	錆化(△)	
31-2	30	南壁下床面	鉄製品(鍛結品) (刀子、木柄付き)	15.0	25.0	8.0	36	2	錆化(△)	
	31	埋積土	鉄製品(鍛造品)	20.0	11.0	8.0	36	5	錆化(△)	
31-3	32	北壁外 確認層下	轆製品(鍛造品)	6.6	2.2	1.0	17	4	錆化(△)	板状に作られているが、分類は不明。本体の暑さは2mm程であり、他は錆。裏側には気孔が見られる。
		埋積土	鉄製品(鋳造品)				1	4	錆化(△)	
		埋積土	鉄製品(鋳造品)				1	4	錆化(△)	
		埋積土	鉄製品(鋳造品)				1	1	錆化(△)	
		埋積土	鉄製品(鋳造品)				0	4	錆化(△)	
		埋積土	鉄製品(鋳造品)				1	4	錆化(△)	

計 597

S I 11

		c-14	羽口(製錬)(体部)	7.1	4.6	2.6	59	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	2.5	3.0	1.3	6	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	3.8	2.9	1.5	11	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	5.0	7.7	2.1	65	-	なし	
			羽口(製錬)(先端)	3.5	2.4	1.4	5	-	なし	
		c-14	羽口(製錬)(体部)	2.8	4.2	2.0	17	-	なし	
		c-14	羽口(製錬)(体部)	2.5	3.3	1.8	14	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	2.4	2.8	1.8	10	-	なし	
		埋積土	羽口(製錬)(体部)	4.3	2.6	1.6	15	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	2.4	3.1	1.8	9	-	なし	
			羽口(製錬？)(体部)	2.5	2.8	1.6	7	-	なし	
			流動滓	4.0	3.7	1.7	31	-	なし	
			鉄塊系遺物(含鉄)				3	4	L(●)	
			椀形鍛冶滓(中)				24		錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(小)				23	-	なし	
	33		鉄製品(鍛造品)	2.5	1.3	0.4	3	5	錆化(△)	
	34		鉄製品(鍛造品)	1.3	1.0	1.2	3	-	なし	
33-5	35	カマド構築粘土	鉄製品(鍛造品)	14.1	1.7	0.5	16	2	錆化(△)	

計 321

S I 13

			流動滓	2.7	2.7	2.5	36	2	なし	
			流動滓	2.6	2.0	2.2	28	1	なし	

計 64

S I 14

45-4	36		鉄製品(鍛造品) (紡錘車円盤部)	4.5	5.0	0.5	16	2	錆化(△)	
------	----	--	----------------------	-----	-----	-----	----	---	-------	--

計 16

S I 15

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
			羽口(製錬？)(基部)				9	-	なし	
		埋積土	椀形鍛冶滓(中)				42	5	錆化(△)	
45-5	37		含鉄鉄滓	3.7	2.5	1.5	9	6	錆化(△)	
計							60			

S I 17

	38		羽口(製鍊)(先端部)	6.0	2.4	3.7	40	-	なし	
		カマド左前	羽口(製鍊)(先端部)	3.4	4.2	2.6	28	2	なし	
			羽口(製鍊)(先端部)	3.9	4.2	1.9	11	-	なし	
	39	23.24-p.g	鉄製品(鍛造品)	3.1	0.6	0.6	2	4	H(○)	
計							81			

S I 19(1)

	40	カマド構築材左袖	羽口(製鍊)(先端部)	3.7	4.6	7.0	75	3	錆化(△)	
51-2	41	カマド構築材左袖	羽口(製鍊)(先端～体部)	19.5	7.4	2.5	689	-	なし	
	42	カマド構築材	羽口(製鍊)(体部)	7.3	4.6	5.7	113	-	なし	
	43	カマド構築材	羽口(製鍊)(体部)	11.4	5.4	7.3	195	-	なし	
	44		羽口(製鍊)(体部)	11.1	7.0	6.8	252	-	なし	
	45	カマド	羽口(製鍊)(先端部)	7.7	2.0	6.0	60	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(先端～体部)	12.7	6.8	1.9	142	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(先端～体部)	8.2	5.4	1.7	67	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	3.0	2.6	1.5	10	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	3.4	2.7	1.6	9	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	2.2	1.4	1.1	2	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	3.7	2.1	1.7	8	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.9	2.4	1.5	11	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.4	2.1	2.0	13	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.8	1.8	1.0	6	-	なし	
			羽口(製鍊)(体部)	2.6	2.8	1.4	6	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.3	3.6	2.0	21	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.2	3.0	1.8	15	-	なし	
			羽口(製鍊)(体部)	4.4	3.0	1.5	16	-	なし	
		カマド構築材、左袖	羽口(製鍊)(先端)	3.4	2.1	1.7	9	4	錆化(△)	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.6	2.9	2.1	17	-	なし	
		14,15d	羽口(製鍊)(体部)	3.2	3.9	2.0	18	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	5.9	2.6	2.0	21	-	なし	
			羽口(製鍊)(体部)	3.2	3.0	1.9	13	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	7.5	3.9	1.6	32	-	なし	
		確認面	羽口(製鍊)(先端)	3.0	3.1	1.4	12	-	なし	
		確認面	羽口(製鍊?)(体部)	3.8	3.7	1.5	16	-	なし	
		確認面	羽口(製鍊)(先端部)	3.9	3.3	1.8	18	-	なし	
			羽口(製鍊)(体部)	5.7	4.0	2.1	42	-	なし	
			羽口(製鍊)(体部)	2.9	3.0	2.1	14	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	7.0	4.6	1.6	36	-	なし	
		カマド構築材、左袖	羽口(製鍊)(先端部)	6.6	4.6	2.2	44	-	なし	
		カマド構築材、左袖	羽口(製鍊)(先端部)	4.5	3.8	1.5	23	4	錆化(△)	
		カマド構築材、左袖	羽口(製鍊)(先端～体部)	7.7	5.0	1.6	56	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	6.5	4.3	1.5	34	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	5.7	3.0	1.8	25	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	4.8	3.1	1.6	22	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	3.8	3.0	1.9	15	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	5.5	4.3	1.7	33	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	5.8	4.3	1.3	27	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	3.9	3.8	1.5	14	-	なし	
		カマド	羽口(製鍊)(体部)	5.8	4.0	1.8	28	-	なし	

S I 19(2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		カマド構築材、左袖	羽口(製錬)(体部)	3.2	4.1	1.5	17	-	なし	
	46		流動滓	4.5	3.9	1.8	47	3	なし	
	47	炭化材層	碗形鍛冶滓(小)	6.0	5.5	2.2	70	3	錆化(△)	
50-5	48	床面	鉄製品(大刀子、木柄付き)	13.1	2.6	1.7	44	3	錆化(△)	
		カマド前庭部	鉄製品(鍛造品)				4	4	錆化(△)	
		カマド前庭部	鉄製品(鍛造品)	2.1	1.2	0.3	1	4	錆化(△)	
51-3	49	床面	砥石	10.3	8.3	3.0	309	-	なし	表裏両面摩耗、裏面に深い削り痕あり。被熱している。
51-4	50	床面	砥石	14.9	10.7	6.2	1,259	-	なし	石材はデイスaitで、酸化鉄が混じり、縞模様をなしている。表裏両面と側面に摩耗部あり。
計							4,030			

S I 20

54-6	51		羽口(製錬)(先端～体部)	31.1	8.3	3.4	1,625	－	なし	
計							1,625			

S I 21

	52		羽口(製錬)(体部)	8.0	3.6	7.2	184	－	なし	
			羽口(製錬)	6.1	7.4	2.1	77	－	なし	
			羽口(製錬)(体部)	4.1	3.7	1.3	13	－	なし	
		埋積土	流動滓	2.7	2.6	2.0	13	2	錆化(△)	
56-7	53	床面＋26cm	鉄製品(鍛造品)	4.7	1.6	1.6	8	6	錆化(△)	全体的に錆化が激しい。環をなす一部であろう。本体の厚さは約2mm。その他、製錬中に出来たと思われる気孔がはじけた跡がある。
			鉄製品(鍛造品)				1	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				1	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				0.9	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				1	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				0.4	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				0.3	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				0.1	5	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				1	5	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				1	4	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				1	3	錆化(△)	
		床面	鉄製品(鍛造品)				1	5	錆化(△)	
計							303.7			

S I 22

			羽口(製錬)(体部)	6.2	4.5	1.3	46	－	なし	
57-1	54	18,19i	鉄塊系遺物	2.0	3.2	1.1	8	3	H(○)	小粒の鉄塊系遺物。酸化物に覆われ橙色。中央部はまだらに黒褐色。裏側に光沢を持つ黒錆のにじみが出ている。小さなメタルを検出。表面に木炭付着。
計							54			

S I 24

60-5	55	北東隅Pit	鉄製品(鍛造品)(手鎌)	6.1	1.5	0.8	6	5	錆化(△)	
60-6	56	北東隅Pit	鉄製品(鍛造品)(手鎌)	8.6	2.1	0.3	11	6	錆化(△)	
計							17			

S I 25・26

		埋積土	炉壁				8	－	なし	
		埋積土	炉壁				26	－	なし	
		埋積土	炉壁				56	－	なし	
	57	埋積土	羽口(製錬)	11.0	2.2	3.5	146	－	なし	
	58	埋積土	流出溝滓	4.4	3.0	1.7	37	3	H(○)	
	59	埋積土	炉内滓	3.4	4.4	3.8	9	4	H(○)	
計							282			

S I 27

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
	60	埋積土	炉壁(製錬)	8.7	11.5	5.6	276	3	なし	
	61	埋積土	炉壁(指頭痕付き)	5.6	10.1	4.3	135	-	なし	
63-11	62	カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	20.6	9.4	7.8	995	-	なし	カマボコ型の羽口。基部側が被熱し黒褐色。体部は明黄橙色。ケズリ調整あり。
		SI15埋積土	羽口(製錬)(先端～体部)	6.6	3.9	3.1	34	-	なし	
		SI27カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	1.8	1.5	1.0	1	-	なし	
		SI28カマド前庭部	羽口(製錬?)(体部)	3.4	2.1	1.4	7	-	なし	
	63	埋積土	椀形鍛冶滓(中)(ガラス質)	7.2	9.4	2.9	209	-	なし	
計							1,657			

S I 27・28

	64		炉壁(製錬)	7.2	6.2	3.8	93	-	なし	
		SI28カマド前庭部	羽口(製錬?)(体部)	2.7	1.8	1.2	3	-	なし	
			羽口(製錬?)(体部)	2.2	3.0	1.8	7	-	なし	
			羽口(製錬)(先端部)	1.6	2.9	0.9	1	-	なし	
	65		マグネタイト系遺物	2.6	2.2	1.4	17	6	錆化(△)	
63-11	66		炉内滓	5.4	6.8	3.4	110	-	なし	不整三角形の炉内滓、破面は4。酸化土砂で覆われているが、まばらに光沢のある黒褐色あり。礫、木炭付着。
			炉内滓?				18	3	なし	
	67		炉内滓(含鉄)	3.1	2.0	1.4	10	5	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				3	5	錆化(△)	
	68		椀形鍛冶滓(特大)(含鉄)	7.4	8.8	3.6	257	4	錆化(△)	
	69		椀形鍛冶滓(特大)(含鉄)	3.7	5.0	4.4	126	3	錆化(△)	
	70		含鉄鉄滓	2.4	2.2	1.6	12	5	H(O)	
計							657			

S I 28

63-10	71	東南部柱穴北	鉄製品(鍛造品)	7.7	1.5	0.8	12	6	錆化(△)	
63-9	72	南西隅床面	鉄製品(鍛造品)	9.7	2.6	21.6	38	5	なし	
計							50			

S I 29

	73	埋積土	椀形鍛冶滓(大)	6.8	6.8	4.0	190	5	錆化(△)	
		埋積土	椀形鍛冶滓(大)				104	5	錆化(△)	
		埋積土	椀形鍛冶滓(小)				27	4	なし	
66-8	74		鉄製品(鍛造品) (刀子、木柄付き)	13.5	1.4	0.6	20	3	錆化(△)	
66-9	75	床面	鉄製品(鍛造品) (刀子、木柄付き)	12.8	2.2	1.3	41	3	錆化(△)	
計							382			

S I 29・30(1)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
	76		羽口(製錬)(先端～体部)	9.2	4.4	8.2	175	5	なし	
67-1	77		羽口(製錬)(先端～体部)	13.4	8.3	7.2	568	2	なし	カマボコ型羽口。先端部溶解でガラス質になり、錆付着。体部は被熱し、灰色。
	78	埋積土	羽口(製錬)(先端～体部)	4.9	2.5	7.0	63	-	なし	
67-2	79		羽口(製錬)(先端～体部)	12.5	8.1	7.5	183	-	なし	先端部は溶解し、内部が暗茶褐色。先端がガラス質。一部に錆が付着し、茶褐色。体部は被熱し、灰色。亀裂がある。体部内面は黄褐色。
			羽口(製錬)(先端部)	4.3	3.7	1.6	20	-	なし	
		埋積土	羽口(製錬)(先端部)	4.3	5.4	1.5	35	-	なし	
	80	西1/4埋積土	流出孔滓	12.2	10.8	6.3	56	-	なし	
			流動滓	4.2	1.6	1.7	17	-	なし	

S I 29・30(2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		埋積土	羽口(鍛冶)(体部)	1.7	0.9	1.6	2	-	なし	
		埋積土	羽口(鍛冶?)(先端)	3.5	3.2	2.1	18	2	錆化(△)	
		埋積土	羽口(鍛冶)(体部)	4.3	5.1	2.1	33	-	錆化(△)	
		埋積土	梔形鍛冶滓(特大)				281	-	なし	
		埋積土	梔形鍛冶滓(特大)				117	-	なし	
67-3	81	旧カマド前 埋積土	梔形鍛冶滓(特大)(含鉄)	12.7	11.2	7.5	1,025	4	錆化(△)	不整五角形の梔形鍛冶滓、特大。全体的に磁力を持ち、破面は3つ。周辺がくぼみ、凹凸がある。裏面には土砂と粒状滓が付着。全体的に錆化が激しく、褐色。
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(特大)(含鉄)				1	4	M(◎)	
			梔形鍛冶滓(特大)(含鉄)				1		M(◎)	
			梔形鍛冶滓 (特大)(含鉄)				75	6	M(◎)	
67-4	82	旧カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(大)(含鉄) (粘土質溶解物付き)	11.3	12.5	6.6	675	5	錆化(△)	不整五角形の梔形鍛冶滓、大、含鉄。上部に粘土質溶解物付着。破面は3つ。磁力はやや強い。全体的に錆化しており、茶褐色。側面に木炭痕付着。裏面は土砂で覆われ、暗灰色。細かい気孔あり。
			梔形鍛冶滓(大)(含鉄)				2	3	M(◎)	
			梔形鍛冶滓(大)(含鉄)				2	4	M(◎)	
		旧カマド前埋積土	梔形鍛冶滓 (中)(粘土質溶解物)				93	3	H(○)	
67-5	83	北1/4埋積土	梔形鍛冶滓(中)(含鉄)	4.1	7.3	2.6	103	8	錆化(△)	全体的に強い磁力を帯びる、半円形の梔形鍛冶滓、中。錆化が激しく茶褐色。中心に向かい凹んでいる。表面はなめらかで、破面を2つ持つ。
			梔形鍛冶滓(小)				34	-	なし	
		埋積土中	梔形鍛冶滓(小)				31	3	錆化(△)	
	84		梔形鍛冶滓(小)(含鉄)	3.0	4.6	3.0	46	7	M(◎)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				1	2	錆化(△)	
		旧カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				1	2	錆化(△)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				2	2	錆化(△)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(小)(含鉄) (粘土質溶解物)				43	6	錆化(△)	
	85	旧カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)	2.4	3.9	1.8	18	5	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				9	-	錆化(△)	
		旧カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				0.5	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				1	3	M(◎)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				3	3	M(◎)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				1	2	M(◎)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				0.3			
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				0.1	3	錆化(△)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				8	3	錆化(△)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				0.8	3	錆化(△)	
		カマド前埋積土	梔形鍛冶滓 (極小)(含鉄)				7	4	錆化(△)	
		旧カマド前埋積土	梔形鍛冶滓 (極小)(含鉄)				13	4	錆化(△)	
		カマド前埋積土	鍛冶滓				0.8	2	錆化(△)	
	86		鉄製品(鍛造品)	2.8	0.6	0.8	1	3	M(◎)	
66-10	87	西1/4埋積土	鉄製品(鍛造品)	8.4	2.7	1.4	20	3	錆化(△)	
		埋積土	被熱石	8.0	6.8	2.1	113	-	なし	

計 3,899.5

S I 31

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		埋積土	羽口(製鍊?)(体部)	4.1	3.4	1.9	18	-	なし	
		埋積土	羽口(製鍊?)(体部)	4.2	1.8	1.6	7	-	なし	
		埋積土	羽口(製鍊)(体部)	6.3	4.2	2.1	42	-	なし	
		埋積土	被熱石	3.2	2.0	1.9	14	-	なし	
計							81			

S I 32

			流動滓	1.4	0.7	0.4	1	-	なし	
			流動滓	1.3	1.0	0.6	0	2	錆化(△)	
			鍛冶滓				0	2	錆化(△)	
			鍛冶滓				0	2	錆化(△)	
			鍛冶滓				1	1	錆化(△)	
計							2			

S I 33

75-2	88	床面	流動滓	7.8	2.6	1.7	36	2	錆化(△)	破面を2つつつ流動滓。オリーブ黒色で礫付着。
		床面	椀形鍛冶滓(中)				16	3	なし	
75-1	89		鉄製品(鍛造品) 紡錘車	15.0	6.1	1.1	63	4	M(◎)	全体的に錆化が激しく、円盤部は底部が本体であると考えられる。円盤部が全体的に斜めに傾いている。
計							115			

S I 34

		壁溝	鉄製品(鍛造品)				1	4	錆化(△)	
		壁溝	鉄製品(鍛造品)				0	3	錆化(△)	
		壁溝	鉄製品(鍛造品)				0	3	錆化(△)	
77-6	90	壁溝	鉄製品(鋳造品)	9.3	5.9	1.0	86	9	特L(☆)	全体的に錆化が激しく、分類不明。表面下部に砂鉄付着。裏面中央部に木炭付着。
計							87			

S I 35

		埋積土	羽口(製鍊)(先端～体部)	6.8	4.5	2.1	60	3	錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(中)				18	2	錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(小)				7	3	錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(小)				2	3	錆化(△)	
78-3	91	埋積土	椀形鍛冶滓(小)(含鉄) (粘土質溶解物)	7.3	8.8	4.0	106	2	錆化(△)	両面中央部に粘土質溶解物の付着がある。不整三角形椀形鍛冶滓、小。破面は3つ。裏面に木炭痕あり。気孔が多く、凹凸が多い。
78-4	92		鍛冶滓(含鉄)	2.4	1.3	1.6	5	3	錆化(△)	全体的に磁力を持つ、不整三角形の鍛冶滓。中心部に双瘤状の滓を持つ。
	93		含鉄鉄滓	3.0	1.8	1.2	7	4	錆化(△)	
78-5	94		鉄塊系遺物(含鉄)	2.8	1.2	1.8	10	5	錆化(△)	不整長方形の鉄塊系遺物。磁力を帯びているが、錆化が激しく茶褐色。
	95		鉄製品(鍛造品)	2.6	1.4	1.8	5	4	錆化(△)	
78-2	96		鉄製品(鍛造品)	5.8	2.7	1.7	20	6	錆化(△)	全体が錆に覆われている、刀状の鉄製品。錆膨れを起こし、木炭痕が多数あり。
計							240			

S I 40

			椀形鍛冶滓(小)				20	4	錆化(△)	
計							20			

S I 41

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
83-5	97	カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	35.0	3.6	8.1	661	-	なし	胎土が脆い羽口。色は橙色。表面はケズリ調整あり。内径30mm.
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	3.4	3.3	1.7	17	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(先端～体部)	10.4	4.6	1.5	73	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	3.1	4.0	1.7	20	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	2.6	1.7	1.6	4	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	2.2	2.1	1.3	4	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	5.5	2.9	1.7	25	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	4.2	2.2	1.4	9	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	8.5	4.9	2.5	85	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	7.3	4.3	2.7	62	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	6.5	2.9	2.0	32	-	なし	
		カマド前庭部	羽口(製錬)(体部)	8.0	4.4	1.8	62	-	なし	
			羽口(製錬)(先端)	2.7	2.4	0.9	3	-	なし	
		床面	羽口(製錬)(体部)	5.9	4.1	2.2	41	-	なし	
		埋積土	梶形鍛冶滓(中)				20	3	M(◎)	
	98	埋積土	梶形鍛冶滓(極小)(含鉄)	2.6	2.2	1.6	9	5	錆化(△)	
	99	埋積土	鉄塊系遺物(含鉄)	1.7	2.4	0.8	4	4	錆化(△)	
83-6	100		鉄製品(鍛造品)刀子	14.6	1.6	0.6	18	2	錆化(△)	
	101	埋積土	鉄製品(鍛造品)	9.8	1.0	0.4	7	5	錆化(△)	
83-7	102	埋積土	鉄製品(鍛造品)	4.0	2.4	1.2	4	3	錆化(△)	刀状になっている鉄製品。全体的に錆化が激しく、礫、酸化土砂、木炭付着。色調は明褐色。

計 1,160

S I 43

			羽口(製錬)(体部)	8.7	7.2	2.5	186	-	なし	
	103	新カマド,カマド構築材	流動滓	5.2	5.3	3.0	74	3	なし	
83-8	104		鉄塊系遺物(含鉄)	3.2	3.0	1.9	19	5	錆化(△)	

計 279

S I 45

			流動滓	3.7	1.6	0.7	7	-	なし	
87-5	105	床面	鉄製品(鍛造品)	1.5	9.2	1.1	9	6	錆化(△)	
	106		鉄製品(鍛造品)	1.5	7.5	0.9	7	3	錆化(△)	

計 23

S I 47(1)

91-1	107		梶形鍛冶滓 (特大)(含鉄)	21.1	17.8	8.2	2,703	5	錆化(△)	表面の中心から約6cmに渡り同心円状に流動状の滓が認められ、中心部には鉄塊が存在する。木炭付着。裏面には礫と木炭付着。全体的にスサ混入。裏は酸化土砂に覆われている。破面は2つ。断面は滓が中央に凹み、上部に気孔が多い。
91-2	108		梶形鍛冶滓 (特大)(含鉄)	22.0	14.4	10.0	3,971	3	H(○)	平面、半円形の形をした梶方鍛冶滓の約2/3。木炭、礫付着、スサ混入。全体的に錆化が激しく茶褐色。側面の破面にも木炭痕付着。裏面は礫混じりの酸化土砂、わずかに木炭付着。裏面、流動状の滓を持つ。気孔が多く、灰色と茶褐色。
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0.8	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0.0	1	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				1	4	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	4	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	

S I 47(2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	4	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	4	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	1	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	4	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	5	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0.5	4	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	3	特L(☆)	
			鉄製品(鍛造品)				0	2	特L(☆)	
90-8	109		被熱石	25.2	20.8	4.9	3,178	-	なし	泥岩。不整三角形。破面を1つ持つ。 上部が被熱している。

計 9,854.3

S I 49

		埋積土	炉壁(製錬)				5	-	なし	
		埋積土	羽口(製錬)(体部)	7.1	5.0	2.7	65	-	なし	
		埋積土	羽口(製錬)(先端～体部)	5.5	4.5	1.7	34	3	錆化(△)	
		埋積土	羽口(製錬)(体部)	6.3	4.2	1.6	53	-	なし	
95-4	110	埋積土	椀形鍛冶滓 (特大)(含鉄)	16.8	14.3	10.3	2,804	5	M(◎)	不整三角形、二段で、破面を2つ持つ。 表面に5cm程の木炭が付着。全体的に 錆化が激しく、色調は橙色。裏面は中央部に 流動状の滓付き。中央部の色調は黒で、光沢あり。
	111	カマド左側	椀形鍛冶滓(中)	3.3	5.0	3.5	70		なし	
95-5	112	カマド左側	再結合滓	10.2	9.8	4.9	421	6	M(◎)	不整三角形の再結合滓。表面に約1cmの木炭 付着。破面を2つ持つ。酸化土砂で覆われ、 色調は暗褐色。
		埋積土	再結合滓(鍛冶系)				28	5	M(◎)	
		埋積土	再結合滓(鍛冶系)				44	3	M(◎)	

計 3,524

S I 52

	113		鉄製品(鍛造品)	2.7	2.4	1.5	10	5	錆化(△)	
--	-----	--	----------	-----	-----	-----	----	---	-------	--

計 10

S I 53(1)

	114		流出溝滓	4.0	4.6	1.6	39	3	錆化(△)	
	115	北壁外確認面	流出溝滓	5.1	4.3	2.6	60	3	錆化(△)	
		確認面	流動滓	1.4	0.9	0.7	1	-	なし	
		確認面	椀形鍛冶滓(特大)				123	2	なし	
	116	確認面	椀形鍛冶滓(特大)(含鉄)	5.9	4.3	4.3	160	5	錆化(△)	
	117	確認面	椀形鍛冶滓(特大)(含鉄)	2.9	6.2	5.0	79	6	H(○)	

S I 53 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		確認面	梔形鍛冶滓(大)				43	4	錆化(△)	
		確認面	梔形鍛冶滓(中)				15	3	錆化(△)	
		確認面	梔形鍛冶滓(中)				31	3	錆化(△)	
	118		鉄製品(鍛造品)	4.0	2.4	2.0	11	7	錆化(△)	
計							562			

S I 55

			流動滓	4.2	2.9	1.9	31	-	なし	
			流動滓	6.5	1.9	1.5	38	-	なし	
	119		羽口(鍛冶)(先端～体部)	19.5	5.9	6.6	279	-	なし	
		カマド	羽口(鍛冶?)(体部)	2.8	1.5	1.4	5	-	なし	
		カマド	羽口(鍛冶)(体部)	4.9	4.2	2.0	18	-	なし	
	120		鉄製品(鍛造品)	1.8	3.5	1.0	4	5	錆化(△)	
			被熱石	6.8	1.9	0.9	18	-	なし	
計							393			

S I 57

	121		羽口(製錬)(体部)	13.2	6.7	5.6	295	-	なし	内径は32mm。
			羽口(製錬)(体部)	4.0	4.0	1.5	14	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	2.6	3.6	2.1	17	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	3.0	1.6	1.3	3	-	なし	
	122		羽口(鍛冶)(先端)	4.6	2.3	5.2	47	-	なし	
			羽口(鍛冶)(先端)	3.6	2.0	1.6	13	-	なし	
	123		梔形鍛冶滓(中)(含鉄)	4.2	3.3	3.0	48	4	H(○)	
			梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				29		H(○)	
			梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				11	5	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)(含鉄)				4	3	錆化(△)	
	124		梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)	2.3	2.4	2.0	17	5	錆化(△)	
	125		鉄製品(鍛造品)	6.3	1.5	1.2	7	3	錆化(△)	全体的に錆化が激しく、暗茶褐色を呈す。酸化土砂が付着、木質痕あり。
計							505			

S I 58(1)

	126	埋積土	流動滓	3.2	4.8	2.4	40	4	錆化(△)	
	127	床面炭化材層	梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)	7.3	5.0	2.8	118	5	錆化(△)	
		床面炭化材層	再結合滓				0.2	-	なし	
		床面炭化材層	再結合滓				0.2	-	なし	
140-4	128	床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)刀子	20.8	1.4	0.3	42	7	特L(☆)	
140-5	129	炭化材層	鉄製品(鍛造品)帯金具	7.2	5.7	0.8	28	3	錆化(△)	
	130	床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)	6.8	1.9	1.4	14	5	錆化(△)	
140-6	131	床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)釣針	9.3	1.3	1.6	25			
	132	床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)	3.1	4.3	0.7	5	3	錆化(△)	
140-7	133	床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)	5.5	4.6	4.1	69	6	錆化(△)	
	134	床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)	1.6	0.9	1.6	3	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	4	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.2	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.2	1	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	1	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.4	2	錆化(△)	

S I 58 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.5	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				2	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				3	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				2	4	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.4	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.4	2	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				1	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.4	4	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				2	3	錆化(△)	
		床面炭化材層	鉄製品(鍛造品)				0.4	2	錆化(△)	

計 359.2

S I 59

			流出溝滓	3.2	3.2	3.7	46	-	なし	
125-2	135	埋積土	鉄製品(鍛造品)	8.6	0.5	1.2	5	4	錆化(△)	

計 51

S I 63

		29-o 確認面	羽口(製錬)	5.0	4.2	1.5	38	-	なし	
			椀形鍛冶滓(小)				0	1	錆化(△)	
	136	外壁穴床面	椀形鍛冶滓(小)(含鉄) (粘土質溶解物)	7.1	6.3	3.0	109	4	錆化(△)	
			椀形鍛冶滓(小)(含鉄)				13	4	錆化(△)	
			含鉄鉄滓				0.0	2	錆化(△)	
			含鉄鉄滓				1	2	錆化(△)	
			含鉄鉄滓				3	4	錆化(△)	
			再結合滓				0	2	錆化(△)	

計 164

S I 64

		カマド	鉄製品(鍛造品)				1	2	錆化(△)	
129-2	137		金床石 (鍛造剥片付き)(被熱)	21.9	12.1	11.8	5,260	-	なし	デイスайトの金床石。表面と側面に鉄 付着。被熱している。

計 5,261

S I 65

	138	カマド	炉内滓	4.5	3.4	1.9	40	4	なし	
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	---	----	--

計 40

S I 66

	139	確認面	流出孔滓	1.8	3.6	1.6	16	-	なし	
		確認面	流出溝滓	4.7	2.4	2.2	22	-	なし	
		確認面	流出溝滓	3.1	2.9	2.0	24	-	なし	
	140	確認面	流動滓	4.5	4.3	4.2	44	-	なし	
	141	確認面	炉内滓	4.2	2.8	3.4	36	-	なし	
		確認面	炉内滓				29	-	なし	

計 171

S K 5 (1)

	142		流出孔滓	2.0	4.3	1.2	13	2	錆化(△)	
			炉内滓				14	2	なし	
			炉内滓				6	2	錆化(△)	

S K 5 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
	143		梔形鍛冶滓(中)	3.8	4.8	3.0	59	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				51	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				40	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				20	2	錆化(△)	

計 203

S K 6 (1)

	144		流動滓	1.5	5.3	1.1	16	3	錆化(△)	
	145		流動滓	2.4	4.7	1.6	17	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(特大)				50	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(特大)				124	4	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(特大)				20	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(特大)				148	4	錆化(△)	
	146		梔形鍛冶滓(特大)(含鉄)	1.1	4.1	5.8	199	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(特大)(含鉄)				111	4	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(大)				13	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(大)				60	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(大)				21	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(大)				60	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(大)				62	2	錆化(△)	
	147		梔形鍛冶滓(大)(含鉄)	456	7.4	3.4	258	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(大)(含鉄)				56	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				1	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				10	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				6	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				8	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				8	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				4	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				1	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				11	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				7	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				9	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				33	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				20	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				1	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				21	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				51	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				12	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				39	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				67	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				34	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				43	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				80	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				34	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)				70	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)(含鉄)				17	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)(含鉄)				34	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(中)(含鉄)				25	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				5	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				2	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				3	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				3	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				9	1	錆化(△)	

SK 6 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
			梔形鍛冶滓(小)				5	－	なし	
			梔形鍛冶滓(小)				10	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				1	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				13	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				19	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				21	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				15	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				11	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				10	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				13	－	なし	
			梔形鍛冶滓(小)				20	4	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				15	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				15	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				30	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				38	4	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				43	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(小)				25	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				4	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				9	1	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				4	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				5	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				8	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				11	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				8	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				16	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				21	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				30	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				27	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				25	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)				6	2	錆化(△)	
	148		梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)	5.8	3.8	1.9	48	3	錆化(△)	
	149		梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)	2.1	2.4	1.9	9	4	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				14	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				6	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				6	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				7	3	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				10	2	錆化(△)	
			梔形鍛冶滓(極小)(含鉄)				17	3	錆化(△)	
			鍛冶滓				17	2	錆化(△)	
			鍛冶滓(含鉄)				5	2	錆化(△)	
			含鉄鉄滓				1	2	錆化(△)	
			含鉄鉄滓				3	3	錆化(△)	
	150		鉄塊系遺物(含鉄)	1.9	1.4	2.0	7	3	H(○)	
			鉄塊系遺物(含鉄)				5	3	H(○)	

計 2,516

SE 1

		最下層	羽口(製錬)(体部)	5.2	2.2	2.5	16	-	なし	
		最下層	羽口(鍛冶?)(体部)	4.1	1.4	2.1	7	-	なし	
	151	最下層	腕形鍛冶滓(中)	4.4	5.6	3.9	154	4	錆化(△)	
		最下層	腕形鍛冶滓(極小)				16	-	なし	

計 193

S E 2

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		井戸本体内埋積土	炉内流動滓				168	4	錆化(△)	
		井戸本体内埋積土	梲形鍛冶滓(大)				45	-	なし	
	152	埋積土	梲形鍛冶滓(大)(含鉄)	5.3	5.3	4.1	141	-	錆化(△)	
	153	井戸本体内埋積土	梲形鍛冶滓(中)	7.1	7.1	3.4	120	-	なし	
		井戸本体内埋積土	梲形鍛冶滓(中)				27	-	なし	
		井戸本体内埋積土	梲形鍛冶滓(中)				72	3	なし	
		井戸本体内埋積土	梲形鍛冶滓(極小)				2	-	なし	
		井戸本体内埋積土	梲形鍛冶滓(極小)				7	2	錆化(△)	
		井戸本体内埋積土	含鉄鉄滓				7	3	錆化(△)	
	154	井戸本体内埋積土	鉄塊系遺物(含鉄)	1.9	2.0	1.7	10	5	H(○)	
計							599			

S X 2

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		前庭部	羽口(製錬)(炉壁付き)				39	-	なし	
	155	前庭部	流出孔滓	3.4	5.3	2.1	36	-	なし	
		前庭部	流出孔滓	2.2	1.2	1.0	6	-	なし	
		前庭部	流出孔滓	3.1	2.6	2.6	21	-	なし	
		前庭部	流出孔滓	1.8	1.2	1.3	6	-	なし	
		前庭部	流出孔滓	3.6	1.7	1.5	12	-	なし	
	156	前庭部	流動滓	3.3	5.0	2.2	54	-	なし	
	157	前庭部	流動滓	3.5	6.2	3.0	59	-	なし	
		前庭部	流動滓	1.8	1.4	0.7	5	-	なし	
		前庭部	流動滓	3.8	2.1	1.0	6	-	なし	
		前庭部	流動滓	4.1	3.1	1.7	20	-	なし	
		前庭部	流動滓	1.4	1.4	0.9	2	-	なし	
		前庭部	流動滓	2.8	1.2	1.0	5	-	なし	
		前庭部	流動滓	3.1	1.4	1.5	6	-	なし	
		前庭部	流動滓	4.8	1.7	1.2	11	-	なし	
	158	前庭部	炉内流動滓	2.4	4.3	1.6	12	-	なし	
38-4	159	前庭部	炉内滓 (砂鉄焼結塊付き)	3.7	2.6	3.8	30	-	なし	上部に砂鉄焼結塊が付着。破面を5つ持つ。内部に気孔が多く、スサ混入。
	160	前庭部	炉内滓	4.0	3.6	3.0	31	5	錆化(△)	
		前庭部	炉内滓				12	-	なし	
		前庭部	炉内滓(含鉄)				9	5	錆化(△)	
計							382			

S X 1(1)

		6-d	炉壁(製錬)				90	-	なし	
		6-d	炉壁(製錬)				66	-	なし	
			炉壁(製錬)				4	-	なし	
	161	左袖前庭部	羽口(製錬)(先端)	6.0	3.6	5.5	81	-	なし	
	162	6-d	羽口(製錬)(先端)	5.8	7.0	2.2	103	3	H(○)	
40-2	163	6-d	羽口(製錬) (先端～体部)	17.7	8.8	8.4	757	2	錆化(△)	カマボコ型。先端部は溶解し、一部ガラス化。溶解部に若干の錆あり。溶解部は光沢のある黒色、先端は灰色。基部は茶褐色。内径は40mm。
	164	6-d	羽口(製錬)(先端～体部)	20.0	8.3	3.7	589	3	錆化(△)	
40-1	165	6-d	羽口(製錬) (先端～体部)	32.5	8.5	8.5	1,454	3	錆化(△)	全体的に被熱している。SX2の廃棄物であるためか、破損が激しい。胎土にスサ混入。先端部は溶解し、砂鉄の付着と錆が見られる。内径32mm。
40-3	166	6-d	羽口(製錬)(体部)	22.2	8.2	8.2	1,037	-	なし	体部先端は被熱が激しく、火膨れしている。内径39mm。
	167	6-d 左袖前庭部	羽口(製錬)(体部)	9.1	7.1	7.7	298	-	なし	内径36mm。

S X 1 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
	168	6-d	羽口(製鍊)(体部)	10.9	7.9	6.7	350	-	なし	内径37mm。
	169	6-d	羽口(製鍊)(体部)	13.6	9.3	7.0	500	-	なし	内径41mm。
	170	6-d	羽口(製鍊)(体部)	17.5	4.2	6.7	375	-	なし	
	171	6-d	羽口(製鍊)(体部～基部)	5.9	2.2	4.7	34	-	なし	
40-4	172	6-d	羽口(製鍊) (体部～基部)	13.9	4.7	6.6	348	-	なし	カマボコ型で被熱を受けている。錆付着。胎土にスサ混入。基部は橙色。被熱部は暗褐色～灰色。内径は66mm。
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(体部)	3.6	2.0	1.2	8	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(先端)	4.1	2.9	2.2	24	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(体部)	0.9	2.2	0.5	0.6	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(体部)	3.0	1.6	1.4	3	-	なし	
		6-e	羽口(製鍊)(体部)	4.6	5.0	2.3	50	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	4.3	3.6	1.5	14	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	5.4	5.2	2.0	47	-	なし	
			羽口(製鍊)(先端)	1.8	2.0	1.1	4	-	なし	
		北側	羽口(製鍊)(体部)	2.0	1.9	1.8	4	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	6.9	4.2	1.6	34	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(先端～体部)	4.9	5.0	2.2	47	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	7.2	3.4	2.2	40	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊?)(体部)	4.6	4.7	1.7	32	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部～基部)	6.0	4.8	2.4	51	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(先端～体部)	9.1	3.9	2.0	57	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(先端)	3.8	4.7	2.6	33	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	12.7	5.7	3.6	149	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	4.8	6.1	2.1	73	3	錆化(△)	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(先端)	5.2	4.5	1.4	20	2	?	
			羽口(製鍊)(体部～基部)	5.5	4.9	1.8	26	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(先端)	7.4	3.6	2.0	40	-	なし	
		左袖前庭部	羽口(製鍊)(体部)	5.8	7.1	2.5	113	-	なし	
		北側確認面同位	羽口(製鍊)(体部)	8.9	6.2	2.1	64	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊)(体部)	6.6	4.4	1.9	55	-	なし	
		6-d	羽口(製鍊?)(体部)	8.8	7.6	2.9	165	2	錆化(△)	
	173		砂鉄焼結塊	13.9	4.7	6.6	348	5	錆化(△)	
		6-e	流動滓	2.6	1.7	1.2	8	3	なし	
			流動滓	4.3	2.1	1.6	22	2	なし	
		6-e	流動滓	2.3	1.4	0.5	1	1	なし	
		6-e	流動滓	2.0	1.9	1.7	10	1	なし	
		6-e	炉内滓(含鉄)				3	7	錆化(△)	
		6-d	炉壁(鍛冶)				31	-	なし	
		6-d	羽口(鍛冶?)(先端～体部)	4.7	4.3	2.2	40	-	なし	
		6-e	羽口(鍛冶?)(体部)	4.4	5.6	2.1	42	-	なし	
		6-d	羽口(鍛冶?)(体部)	8.2	6.0	1.8	119	-	なし	
		6-e	羽口(鍛冶?)(先端)	4.3	4.8	1.6	38	-	なし	
		6-e	含鉄鉄滓				5	3	錆化(△)	

計 7,906.6

S X 3

		カマド下位	羽口(製鍊?)(体部)	2.9	2.3	1.7	9	-	なし	
			羽口(製鍊?)(体部)	3.8	3.6	0.9	9	-	なし	
			羽口(製鍊?)(体部)	3.5	2.4	1.0	7	-	なし	
			羽口(製鍊?)(体部)	6.8	3.9	2.2	44	-	なし	
			羽口(鍛冶)(体部)	4.8	3.8	2.1	27	-	なし	
			被熱石				13	-	なし	

計 109

S X 4 (1)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
107-2	174	試掘坑7b	炉壁（砂鉄焼結塊付き）	6.9	10.6	7.8	251	-	なし	胎土は長石と粗砂で、スサ混入。色調は黒褐色（内）、黄灰色（中）、外側剥離。内面に砂鉄焼結塊付着。硬質の砂質土。
	175	試掘坑 7b	炉壁(製錬) (横方向接合痕付き)	6.4	7.7	4.3	116	-	なし	
	176	試掘坑 7b	炉壁(製錬) (横方向接合痕付き)	5.3	8.1	4.7	107	4	なし	
	177	試掘坑 7b	炉壁(製錬)(滓付き)	7.4	4.5	3.1	174	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				51	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				8	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				49	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				18	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				6	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				8	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				1	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				5	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				1	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				16	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				10	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉壁(製錬)				28	-	なし	
			羽口（製錬）(先端)	4.1	4.5	2.6	38	2	錆化(△)	
			羽口（製錬）(体部)	6.9	3.2	1.8	27	-	なし	
			羽口（製錬）(体部)	5.4	4.1	1.7	33	-	なし	
	178	試掘坑 7b	砂鉄焼結塊 (炉内流動滓付き)	5.2	3.1	2.2	36	5	錆化(△)	
107-3	179	試掘坑 7b	流出孔滓	5.4	2.2	0.9	12	-	なし	0.7cmの筋状滓を3条持つ流出孔滓。裏面は砂と礫が付着。光沢があり、緑黒色。破面は2つ。磁力を帯びる。
107-4	180	試掘坑 7b	流出孔滓	4.2	3.0	1.9	31	-	なし	不整三角形の流出孔滓。破面を2つ持つ。内部の気孔が多く、裏面には礫と1cmの気孔あり。錆に覆われ全体的ににぶい黄褐色。
107-5	181	試掘坑 7b	流出孔滓	4.5	3.3	2.5	44	-	なし	0.8cm程の気孔が表面に複数認められる。全体的に礫、砂に覆われ、破面は1つ。色調はオリーブ黒色。
	182	試掘坑 7b	流出孔滓	1.5	4.5	1.1	12	-	なし	
	183	試掘坑 7b	流出孔滓	2.2	7.5	1.8	28	-	なし	
	184	試掘坑 7b	流出孔滓	2.5	8.3	2.1	42	-	なし	
107-6	185	試掘坑 7b	流出孔滓	5.6	3.9	3.2	53	-	なし	礫混じりの孔滓。1cm程の大きな気孔を持つ。色調は茶褐色。
107-7	186	試掘坑 7b	流出孔滓	4.0	4.9	2.1	58	-	なし	裏面に木炭痕付着。礫、酸化土砂が付着し、気孔が目立つ。色調はオリーブ黒色。
107-8	187	試掘坑 7b	流出孔滓	4.8	4.1	3.8	94	-	なし	表面に長石付着。スサ混入の不整四角形の流出孔滓。酸化土砂と錆が付着し、地は黒色、錆部は橙色を呈している。
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	3.0	1.3	1.2	6	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	1.3	1.8	1.0	4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.1	2.1	0.9	7	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.7	1.5	1.0	5	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.0	2.0	1.3	5	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	3.1	2.8	1.8	7	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.8	2.1	2.0	16	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	3.8	1.8	2.1	15	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.1	1.2	1.7	8	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	3.4	1.6	1.0	7	2	なし	

S X 4 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.8	1.7	1.5	6	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	1.6	1.6	1.0	3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.3	1.6	1.3	8	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	3.3	2.1	1.2	16	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	1.3	1.1	1.0	3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	1.2	1.1	0.7	3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.7	1.7	1.0	4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	2.4	2.6	2.3	15	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	3.0	3.2	2.7	20	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出孔滓	4.5	2.9	1.2	17	3	なし	
107-9	188	試掘坑 7b	流出孔～溝滓	9.1	6.7	5.0	238	4	錆化(△)	長軸側面片側に破面を持つ、棒状の孔～溝滓。裏面には礫と砂が付着し、表面は流動状の自然面である。滓主体部は灰黄褐色で錆化し、磁力を帯びる。
107-10	189	試掘坑 7b	流出孔～溝滓	6.0	3.8	2.7	56	－	なし	両端に破面を持つ孔～溝滓。断面は楕円形をなし、1.2cmから3.7cmまで拡大し、推移する。磁力はなく、色調は灰褐色。裏面に礫・砂付着。
	190	試掘坑 7b	流出溝滓	3.7	2.8	1.4	17	3	なし	
	191	試掘坑 7b	流出溝滓	2.6	3.6	1.8	25	2	なし	
107-11	192	試掘坑 7b	流出溝滓	4.1	7.5	1.5	50	－	なし	両端に破面を持つ溝滓。裏面は気孔が多く、礫付着。光沢のある黒色を黄褐色の被膜が覆う。
	193	試掘坑 7b	流出溝滓	6.9	3.4	1.9	36	－	なし	
	194	試掘坑 7b	流出溝滓	6.1	6.0	2.4	71	－	なし	
	195	試掘坑 7b	流出溝滓	5.7	4.6	1.7	64	4	なし	
	196	試掘坑 7b	流出溝滓	6.6	5.5	2.0	81	1	なし	
	197	試掘坑 7b	流出溝滓	8.1	5.9	1.5	76	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	2.3	2.5	1.6	11	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	2.5	2.1	0.9	4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	4.6	2.6	2.4	23	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	3.3	2.5	1.4	16	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	4.8	3.6	1.2	31	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	4.1	3.4	1.4	27	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流出溝滓	5.0	5.2	1.5	17	2	なし	
108-1	198	試掘坑 7b	流動滓(鳥の足状)	5.8	4.2	2.3	102	－	なし	5mm程の筋状の滓を持つ流動滓。鳥の足状。破面は2つ。表面は光沢を持つ青黒色。
	199	試掘坑 7b	流動滓	4.1	2.2	1.1	20	3	なし	
	200	試掘坑 7b	流動滓	4.7	3.2	1.3	23	2	なし	
	201	試掘坑 7b	流動滓	5.2	3.3	1.2	16	3	なし	
	202	試掘坑 7b	流動滓	5.4	2.8	1.4	26	2	なし	
	203	試掘坑 7b	流動滓	4.6	2.0	0.8	9	－	なし	
	204	試掘坑 7b	流動滓	6.8	1.8	1.0	19	3	なし	
108-2	205	試掘坑 7b	流動滓 (鳥の足状)	7.4	4.1	2.4	59	－	なし	4つの破面を持ち、16条の筋状滓が認められる鳥の足状の流動滓。裏面に灰色の砂付着。表面は流動状でやや光沢があり、緻密で気孔はほとんど見られない。
108-3	206	試掘坑 7b	流動滓	13.5	2.9	1.6	79	－	なし	2.0cm～1.3cmの幅の1条の流動滓。裏面には礫・土砂が付着。表面に多数の小さな気孔あり。
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	2.5	2.3	1.7	8	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.2	3.3	1.6	15	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.8	2.8	1.1	15	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	2.5	3.3	1.3	16	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.8	2.7	1.6	22	2	なし	

S X 4 (3)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	4.1	2.3	1.3	12	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.2	1.6	0.8	6	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	4.8	1.7	1.0	10	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	1.9	1.8	0.9	3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.4	1.7	1.4	8	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	4.3	2.1	1.0	12	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	1.6	1.8	1.5	6	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	1.7	1.9	1.1	3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	2.5	3.2	1.5	15	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.5	2.2	1.5	9	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	4.5	2.0	1.3	19	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.7	2.5	1.8	21	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.8	2.3	1.3	12	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.2	2.1	0.9	6	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	2.5	2.3	1.7	8	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.5	1.2	0.7	8	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	4.6	2.8	1.0	16	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	4.8	3.2	2.5	30	－	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	流動滓	3.7	3.7	2.0	21	－	なし	
	207	試掘坑 7b	炉内流動滓	5.8	4.0	3.2	75	3	なし	
	208	試掘坑7b上位	炉内流動滓	3.0	1.9	1.1	5	－	なし	
	209	試掘坑 7b	炉内流動滓	6.0	3.4	1.6	22		錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内流動滓	3.4	3.6	3.5	18	－	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内流動滓	4.1	2.9	1.2	13	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内流動滓	2.3	1.9	1.2	7	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内流動滓	1.7	1.9	1.3	1	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内流動滓	3.9	2.5	2.0	18	3	なし	
108-4	210	試掘坑 7b	炉底塊	5.7	4.0	3.7	107	－	なし	3つの破面を持つ不整三角形の炉底塊。錆に覆われ茶褐色。内部に気孔が目立ち、磁力はない。
108-5	211	試掘坑 7b	炉底塊	5.1	4.2	6.4	149	－	なし	四方に破面を持つ不整台形の炉底塊。磁力はなく、礫が混入し、色調は黒褐色。
	212	試掘坑 7b	炉底塊	6.7	12.6	4.8	383	3	なし	
108-13	213	試掘坑 7b	炉底塊または 椀形鍛冶滓 (特大)(含鉄)	23.2	17.7	11.2	3,289	－	錆化(△)	不整六角形の炉底塊または椀形鍛冶滓(特大)。破面を2つ持つ。底部の鉄塊が磁力を帯びているように見えるが定かではない。表面は流動状の滓を持ち、気孔が多くスポンジ状。木炭痕が付着し、底部に7.5cm×13.0cmの鉄塊あり。裏面礫付着。
	214	試掘坑 7b	炉内滓(砂鉄焼結塊付き)	4.0	2.8	2.1	27	6	錆化(△)	
	215	試掘坑 7b	炉内滓(炉内流動滓付き)	2.3	3.3	2.4	45	5	錆化(△)	
	216	試掘坑 7b	炉内滓(炉内流動滓付き)	2.5	8.7	2.0	37	－	なし	
108-6	217	試掘坑 7b	炉内滓	4.2	3.6	3.0	59	5	錆化(△)	不整三角形の炉内滓。磁力を持ち、全体的に錆化が激しく茶褐色。内部に気孔が目立ち、破面は3つ。
	218	試掘坑 7b	炉内滓	2.6	4.2	2.8	81	3	なし	
	219	試掘坑 7b	炉内滓	6.1	3.3	5.2	121	－	なし	
	220	試掘坑 7b	炉内滓	5.9	5.3	2.4	74	－	なし	
	221	試掘坑 7b	炉内滓	4.2	6.2	4.9	127	－	なし	
	222	試掘坑 7b	炉内滓	4.5	6.4	4.8	243	－	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				9	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				25	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				11	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				10	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				7	2	なし	

S X 4 (4)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				6	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				16	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				21	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				10	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				10	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				2	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				12	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				5	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				2	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				17	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				16	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				15	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				10	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				21	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				12	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				14	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				1	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				1	1	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				6	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				1	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				8	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				3	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				1	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				2	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				4	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				6	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				5	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				6	-	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				10	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				2	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				11	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				96	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				80	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				53	5	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				39	4	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				11	2	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				21	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				41	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				31	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				17	3	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				58	4	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				58	4	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓				32	4	なし	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(炉内流動滓付き)				77	6	錆化(△)	
108-7	223	試掘坑 7b	炉内滓(含鉄) (炉内流動滓付き)	4.0	5.4	3.9	79	-	錆化(△)	不整五角形の炉内滓。破面は3つ。表面に炉内流動滓を持ち、全体が錆で覆われ茶褐色。緻密で、内面の気孔は少ない。
	224	試掘坑 7b	炉内滓(含鉄)	2.0	1.4	1.8	9	4	錆化(△)	
	225	試掘坑 7b	炉内滓(含鉄)	3.9	3.6	2.6	36	4	錆化(△)	
	226	試掘坑 7b	炉内滓(含鉄)	5.0	2.8	2.8	39		錆化(△)	

S X 4 (5)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
			炉内滓(含鉄)				2	2	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				67	3	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				4	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				3	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				4	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				4	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				7	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				9	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				9	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				8	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				1	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				6	1	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				2	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				12	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				4	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				1	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				4	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				2	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				2	2	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				2	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				4	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				6	4	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				14	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	炉内滓(含鉄)				9	3	錆化(△)	
108-8	227	試掘坑 7b	鉄塊系遺物	3.1	1.3	0.8	7	5	M(◎)	不整台形の鉄塊系遺物。磁力を帯び、黒錆に覆われ黒褐色。破面は4つ。
108-9	228	試掘坑 7b	鉄塊系遺物	1.7	1.2	0.9	2		錆化(△)	不整三角形の鉄塊系遺物。小粒で表面に木質痕付き。磁力を帯びる。地黒褐色で木質部は酸化し、茶褐色。
		炉体前庭部堆積鉄滓	鉄塊系遺物(含鉄)				1	2	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	鉄塊系遺物(含鉄)				2	3	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	鉄塊系遺物(含鉄)				5	5	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	鉄塊系遺物(含鉄)				4	5	錆化(△)	
		炉体前庭部堆積鉄滓	鉄塊系遺物(含鉄)				3	4	錆化(△)	
108-14	229	試掘坑 7b	梔形鍛冶滓(特大)	19.8	17.2	10.0	3,291	-	なし	不整五角形、特大の梔形鍛冶滓。中心部に大きな気孔がある。円周部はなめらかである。木炭付着。裏面にスサと木炭付着。細かい凹凸がある。所々に錆があり、黄褐色。中心部は黒色。
	230	試掘坑 7b	再結合滓(砂鉄付き)	4.1	2.5	2.5	21	-	錆化(△)	
108-10	231	試掘坑 7b	再結合滓	8.8	6.7	4.2	276	-	なし	不整五角形の再結合滓。粒状滓がわずかに見られ、木炭・礫付着。色調は暗茶褐色。
108-11	232	試掘坑 7b	再結合滓	13.1	8.1	6.0	328	-	なし	不整六角形の再結合滓。表面は酸化した木質付着で茶褐色。裏面には酸化土砂・砂鉄付着。スサ・礫が混入し、さらには流動状の滓を巻き込んでいる。
			再結合滓 (砂鉄焼結塊付き)				32	-	なし	
108-12	233	試掘坑 7b	鉄製品(鍛造品)	3.9	3.1	2.2	16	7	H(○)	筒型で内部空洞の鉄製品。錆化が激しく。錆膨れあり。わずかにメタルが検出された。色調は黒褐色で錆部は茶褐色を呈す。

計 13,214

S X 5 (1)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
	234	炉内及び湯口部上位	炉壁(砂鉄焼結塊付き)	5.7	5.8	4.7	116	-	なし	
	235	炉内及び湯口部上位	炉壁	8.2	9.4	5.0	256	-	なし	
	236	炉内及び湯口部上位	炉壁	8.7	5.6	6.2	202	-	なし	
109-1	237		炉壁(滓付き)	14.8	15.2	4.1	683	-	なし	内部は滓が付着し、錆に覆われている。胎土はスサと砂。裏面に粒状滓が付着。色調は、内側→明褐色、中→にぶい褐色、外側→剥離。
		炉内及び湯口部上位	炉壁				122	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				33	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁(製錬)				153	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				132	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				4	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				44	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				2	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				38	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				13	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				4	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				31	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				22	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉壁				4	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	4.7	2.5	1.8	15	-	なし	
			羽口(製錬)(体部)	5.2	4.7	2.0	25	-	なし	
	238		砂鉄	-	-	-	148	-	なし	
	239	炉内及び湯口部上位	流出孔滓	2.2	3.3	1.3	13	-	なし	
	240	炉内及び湯口部上位	流出孔滓	1.8	4.5	1.1	11	-	なし	
	241	炉内及び湯口部上位	流出孔滓	2.9	5.0	1.8	22	-	なし	
109-2	242	炉内及び湯口部上位	流出孔滓	5.3	2.6	1.2	24	3	錆化(△)	礫、砂が表面に付着。色は暗灰褐色。磁力を持つ。破面を2つ持つ。
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	4.2	2.4	1.6	16	-	なし	
		壁崩落層	流出孔滓	4.8	2.0	1.1	9	-	なし	
		壁崩落層	流出孔滓	3.9	1.6	1.5	13	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	4.0	2.8	1.1	14	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	4.4	1.6	1.4	16	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	2.8	2.6	1.7	11	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	2.4	3.0	1.4	9	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	3.2	2.3	1.3	11	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出孔滓	2.5	1.9	0.9	3	-	なし	
	243	炉内及び湯口部上位	流出溝滓	2.8	5.1	1.7	29	-	なし	
109-3	244	炉内及び湯口部上位	流出溝滓	7.5	3.9	1.4	46	-	なし	破面を2つ持ち、スサ、土砂付着。一部酸化土砂に覆われている。色は灰黄褐色。磁力はなし。
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	2.3	2.1	1.5	5	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	2.1	2.4	2.0	11	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.4	3.5	2.1	22	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.3	2.7	2.5	15	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.0	3.4	1.9	38	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.2	2.7	2.2	17	-	なし	
		壁崩落層	流出溝滓	2.4	1.5	0.8	1	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.8	2.9	1.4	18	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.1	2.1	1.9	14	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	3.0	2.1	2.8	15	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流出溝滓	5.0	2.8	1.5	18	-	なし	
	245	炉内及び湯口部上位	流動滓	1.6	4.7	1.1	11	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	5.0	4.3	1.5	38	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	2.9	2.7	1.4	11	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	4.5	3.6	1.0	18	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	3.5	1.5	1.0	8	-	なし	

S X 5 (2)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		炉内及び湯口部上位	流動滓	2.5	2.2	1.0	7	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	4.4	2.4	1.3	12	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	5.5	1.5	1.2	10	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓	4.5	3.8	1.4	14	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	流動滓(鳥の足状) (工具痕付着)	5.4	2.5	2.2	41	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内流動滓	5.6	5.3	2.5	76	5	錆化(△)	
	246	炉内及び湯口部上位	炉内滓	7.3	8.3	4.2	214	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				2	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				29	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				37	6	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				4	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				3	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				16	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				9	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				7	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				29	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				7	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				2	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				0	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				7	2	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				19	4	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				10	4	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				5	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				11	4	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				6	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				4	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				2	－	なし	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓				11	－	なし	
		壁崩落層	炉内滓				2	2	錆化(△)	
		壁崩落層	炉内滓				15	－	なし	
		壁崩落層	炉内滓				20	－	なし	
		壁崩落層	炉内滓				5	－	なし	
		湯口部中央	炉内滓				79	－	なし	
	247	炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)	2.9	1.7	1.5	9	4	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				3	4	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				2	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				3	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				5	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				12	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				11	5	錆化(△)	
		壁崩落層	炉内滓(含鉄)				2	2	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				2	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	炉内滓(含鉄)				3	3	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				16	6	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				8	3	錆化(△)	
			炉内滓(含鉄)				1	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	鉄塊系遺物(含鉄)				2	4	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	鉄塊系遺物(含鉄)				5	3	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	鉄塊系遺物(含鉄)				2	3	錆化(△)	
			鉄塊系遺物(含鉄)				7	4	錆化(△)	
		炉内及び湯口部上位	含鉄鉄滓				12	5	錆化(△)	

S X 5 (3)

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		炉内及び湯口部上位	石				7	-	なし	
		炉内及び湯口部上位	石				20	-	なし	
計							3,401			

S X 7

			炉壁(製錬)				19	-	なし	
計							19			

S X 8

112-7	248	火床上	羽口(製錬、鍛冶?) (先端～基部)	18.3	8.0	6.6	710	-	なし	カマボコ型の羽口。溶解部に砂鉄付着。先端の溶解はそれほど激しくない。内径は36mm。
		焼土中	羽口(鍛冶?)(基部)	2.4	3.1	1.3	7	6	なし	
	249	周辺	椀形鍛冶滓(極小)(含鉄)	3.2	2.6	1.8	20	3	錆化(△)	
	250		鉄製品(鍛造品)	5.8	0.9	0.6	2	5	錆化(△)	
			鉄製品(鍛造品)				2	5	なし	
		周辺	鉄製品(鍛造品)				2	2	錆化(△)	
			鉄製品(鍛造品)				2	3	錆化(△)	
計							745			

S X 10

113-14	251		鉄製品(鍛造品)刀子	12.6	1.6	0.9	13	3	錆化(△)	
113-15	252		鉄製品(鍛造品)刀子	11.8	1.6	0.8	18	3	H(○)	
計							31			

S X 12

114-6	253	廃棄場	羽口(鍛冶)(体部)	15.1	8.3	7.8	394	-	なし	円型であるが、体部にケズリ調整あり。明黄褐色。胎土は柔らかい。内径は29mm。
計							394			

S X 14

115-6	254		炉壁 (横方向接合痕付き)	3.6	6.6	6.1	103	-	なし	色調は、内側→灰オリーブ色、中→暗灰黄色、外側→浅黄褐色。胎土は軟質で外側は軽石に近い。
	255		炉壁(横方向接合痕付き)	8.2	9.8	5.7	269	-	なし	
		13hi	炉壁(製錬)滓付き				2	4	錆化(△)	
	256		砂鉄焼結塊	4.8	6.4	1.7	37	5	H(○)	
		13hi 炭窯	砂鉄焼結塊				4	3	錆化(△)	
		炭窯	流出孔滓	7.4	4.9	3.5	42	3	なし	
115-7	257		流出溝滓	8.5	5.1	2.5	139	3	錆化(△)	2条の流動滓。4cmと1.5cmの条。磁力を帯びる。表面は礫と砂が付着。色調は表が黒色、被熱部が暗褐色、暗オリーブ灰色。被熱している。
			流動滓	4.5	4.3	1.2	116	3	錆化(△)	
	258		炉内滓 (炉内流動滓、炉壁付き)	4.5	4.6	3.8	90	4	錆化(△)	
115-5	259	13hi 炭窯	鉄製品	6.4	1.1	1.2	4	5	H(○)	棒状の鉄製品(鍛造品)。錆化が激しく、茶褐色。錆膨れあり。
		13hi	鉄製品(鍛造品)				1	4	錆化(△)	
計							807			

S X 15

132-1	260	耕土層下	羽口(鍛冶)(体部～基部)	16.5	7.5	2.7	675	-	なし	内径31mm。
132-2	261	耕土層	羽口(鍛冶)(体部～基部)	26.5	7.8	7.0	831	-	なし	内径30mm。
	262	耕土層下	羽口(鍛冶)(体部)	17.4	4.3	7.8	478	-	なし	内径32mm。
		耕土層下	羽口(鍛冶?) (体部～基部)	12.1	6.1	2.8	477	-	なし	
		耕土層下	羽口(鍛冶?)(体部)	11.1	8.4	2.7	329	-	なし	
		耕土層下	羽口(鍛冶?)(体部)	8.9	5.1	2.4	97	-	なし	
		耕土層下	羽口(鍛冶?)(体部)	6.1	3.5	2.4	38	-	なし	
132-3	263	耕土層下	被熱石	11.6	6.4	2.5	253	-	なし	半円形の頁岩。中心部が被熱。黒褐色。中央部に凹みあり。磨耗。
計							3,178			

S D12

挿図 番号	構成 No	地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磁 着 度	メタル度	特記事項
				(cm)						
		溝埋積土下層	羽口(製鍊)(先端～体部)				58	-	なし	
		埋積土	流出溝滓				43	3	錆化(△)	
	264	埋積土	鉄製品(鍛造品)	2.3	1.7	0.9	4	5	錆化(△)	
計							105			

包含層

136-1	265	遺構確認上位	鉄製品(鍛造品) (棒状鉄製品)	12.3	1.2	1.1	10	-	なし	
136-2	266	17i 確認面	鉄製品(鍛造品)刀子	11.2	1.5	0.5	11	2	錆化(△)	
計							21			

写真図版



遺跡近景 北東より



昭和62年度調査（Ⅰ区） 南西より

図版 2



昭和63年度調査（Ⅱ区） 南より



製鉄炉（S X 5） 北西より



I 区南西部 北より



I 区北部 南西より



I 区南東部 西より

図版 4



Ⅱ区東半部調査前 南東より



Ⅱ区東半部作業状況 南東より



Ⅱ区西半部 北西より



Ⅱ区西半部 東より

図版 6



Ⅲ区東部 北東より



Ⅲ区東部 東より



Ⅲ区西部 北東より



SKT 2 西より



SKT 3 北より

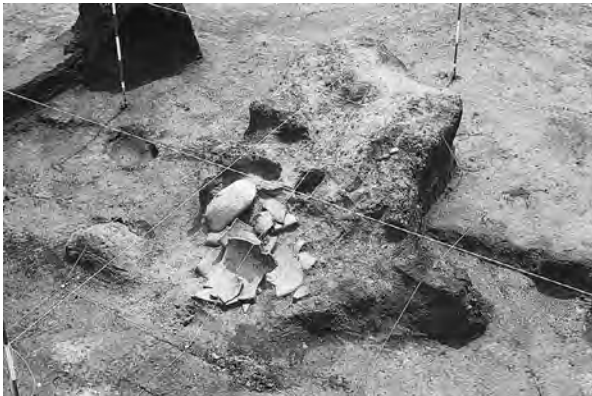


SK 9 土器出土状況 北東より

図版8 I 区の調査(1)



S 1 1 完掘 北より



S 1 2 カマド 北西より



S 1 3 カマド 北より



S 1 3 完掘 北より



S15 北西より



S16 北より

図版10 I 区の調査(3)



S I 7 南西より



S I 7 床板材と柱穴



S I 7 炭化粉束

S I 9 土層断面 北より



S I 9 完堀 北より



S I 9 カマド 東より



図版12 I 区の調査(5)



S I 10 完堀 北西より



S I 10カマド 北西より



S I 10貯蔵穴 北西より



S I 10 鉄製品出土状況



S I 11 北西より



S I 11 須恵器出土状況



S I 12カマド 北西より



S I 12 北東より

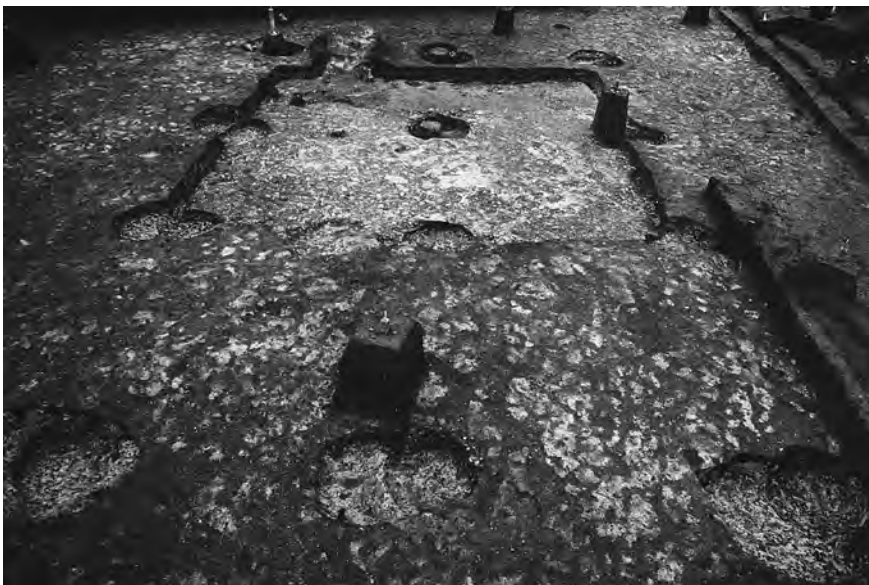
図版14 I 区の調査(7)



S B 2 北西より



S B 3 北西より



S B 4 北より



S K 1 北西より

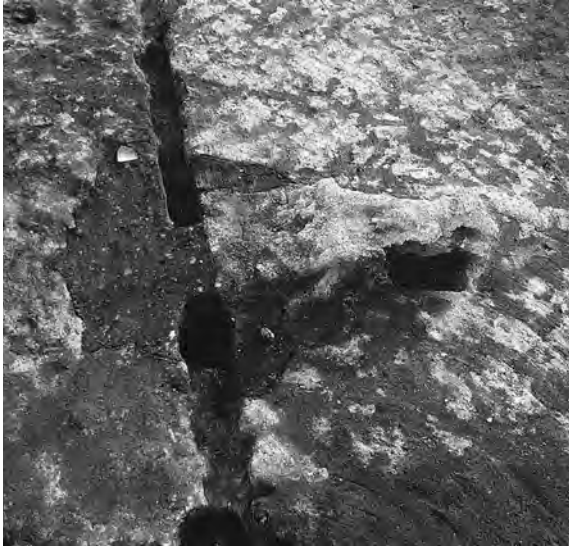


S K 2

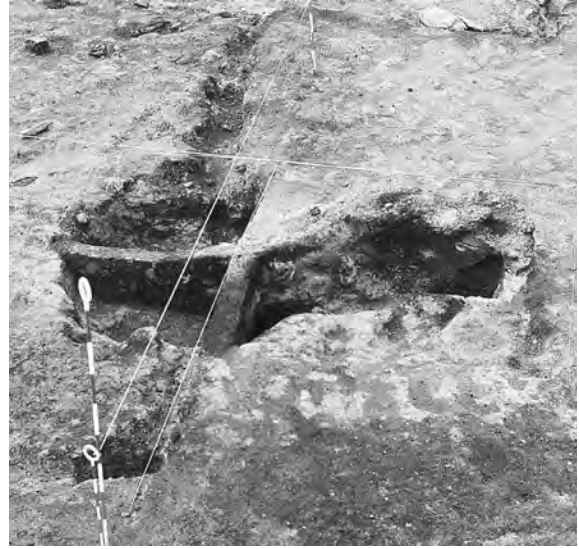


S X 1 北西より

図版16 I 区の調査(9)



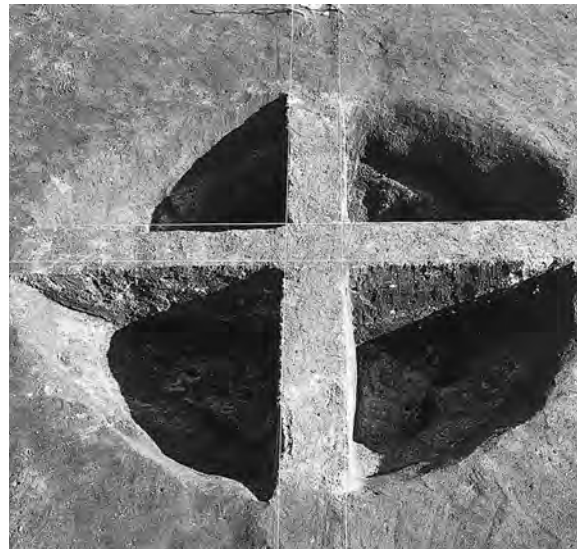
S X 2 検出 東より



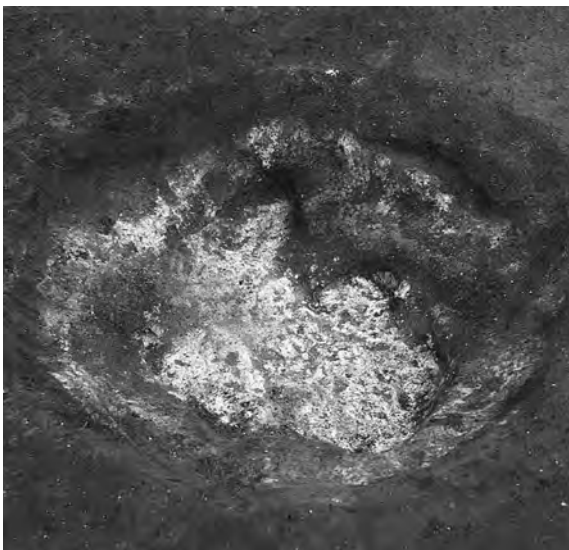
S X 2 土層断面 北東より



S X 2 土層断面 南東より



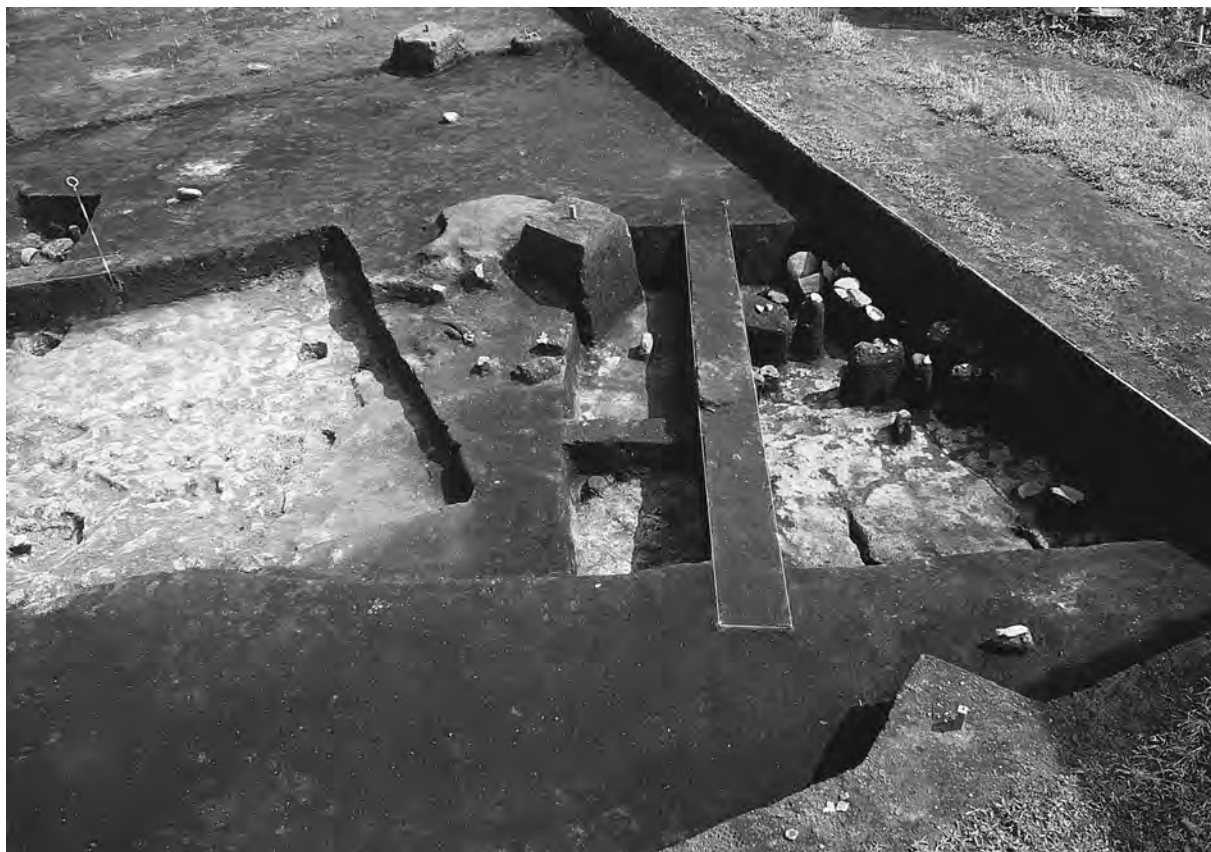
S X 3 土層断面



S X 3 完堀



S D 1 土層断面



S I 14 北より



S I 15 北より

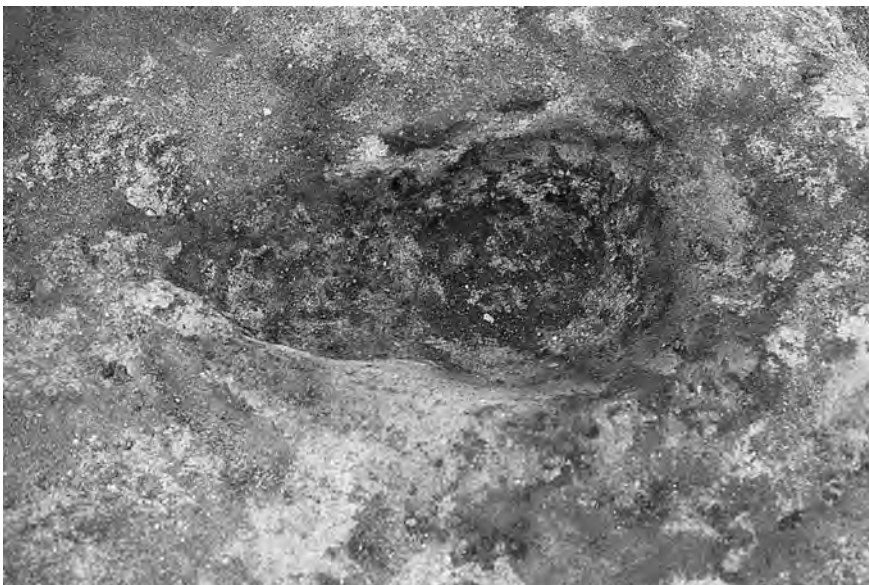
図版18 II 区の調査(2)



S I 17 北西より



S I 17新カマド 北西より



S I 17焼土遺構 西より



S I 19 完堀 北西より



S I 19カマド 北西より



S I 19 底板出土状況



S I 19 木製品出土状況

図版20 II区の調査(4)



S I 20 完掘 北西より



S I 20カマド 北西より



S I 21カマド 北西より



S I 21 完掘 北西より



S I 23 南より

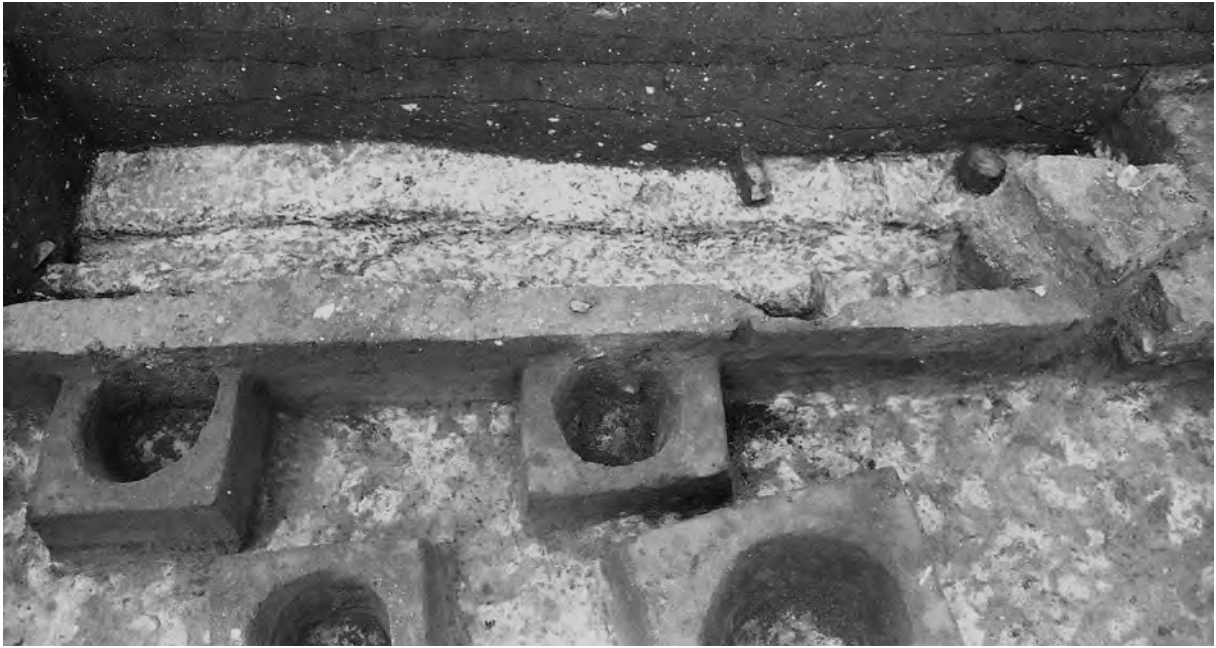


S I 24土層断面 北西より



S I 24 完掘 北西より

図版22 II 区の調査(6)



S I 25・26 完掘 南西より



S I 27・28 完掘 北西より



S I 28カマド 北西より



S I 28貯蔵穴 南西より



S I 29・30 完堀 北西より



S I 30カマド 北西より



S I 30 鉄製品出土状況



S I 30 鉄製品出土状況

図版24 II 区の調査(8)



S I 31 北西より



S I 32 南西より



S I 32カマド 南東より



S I 33~37 完堀 北東より



S I 33 遺物出土状況 北東より

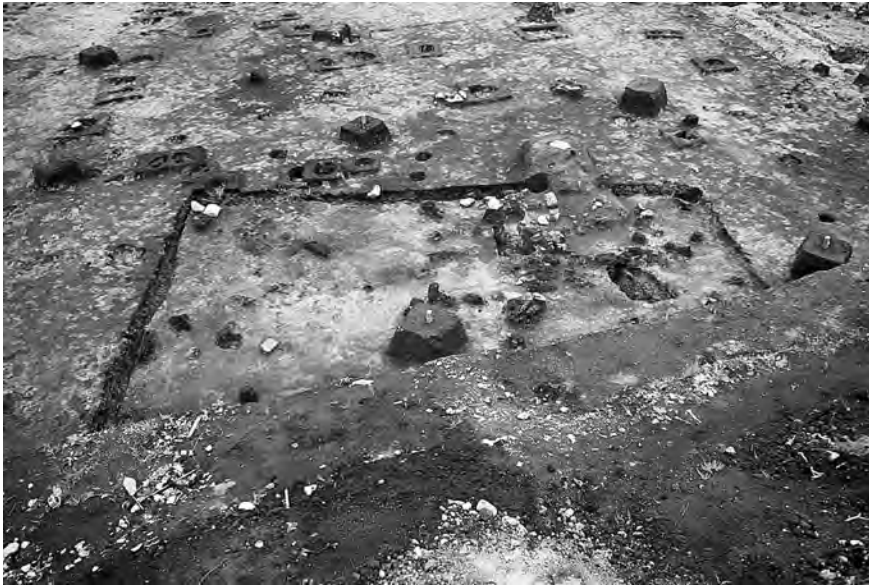


S I 33 土器出土状況



S I 33 鉄製品出土状況

図版26 II 区の調査(10)



S I 38 北西より



S I 38 北西より



S I 38カマド土層断面 西より



S I 41～43 北西より



S I 41カマド 北西より



S I 41 羽口出土状況

図版28 II 区の調査(12)



S I 45 完掘 北より



S I 45カマド 北東より



S I 46 炭化材検出状況



S I 46 完掘 北西より



S I 47 南西より



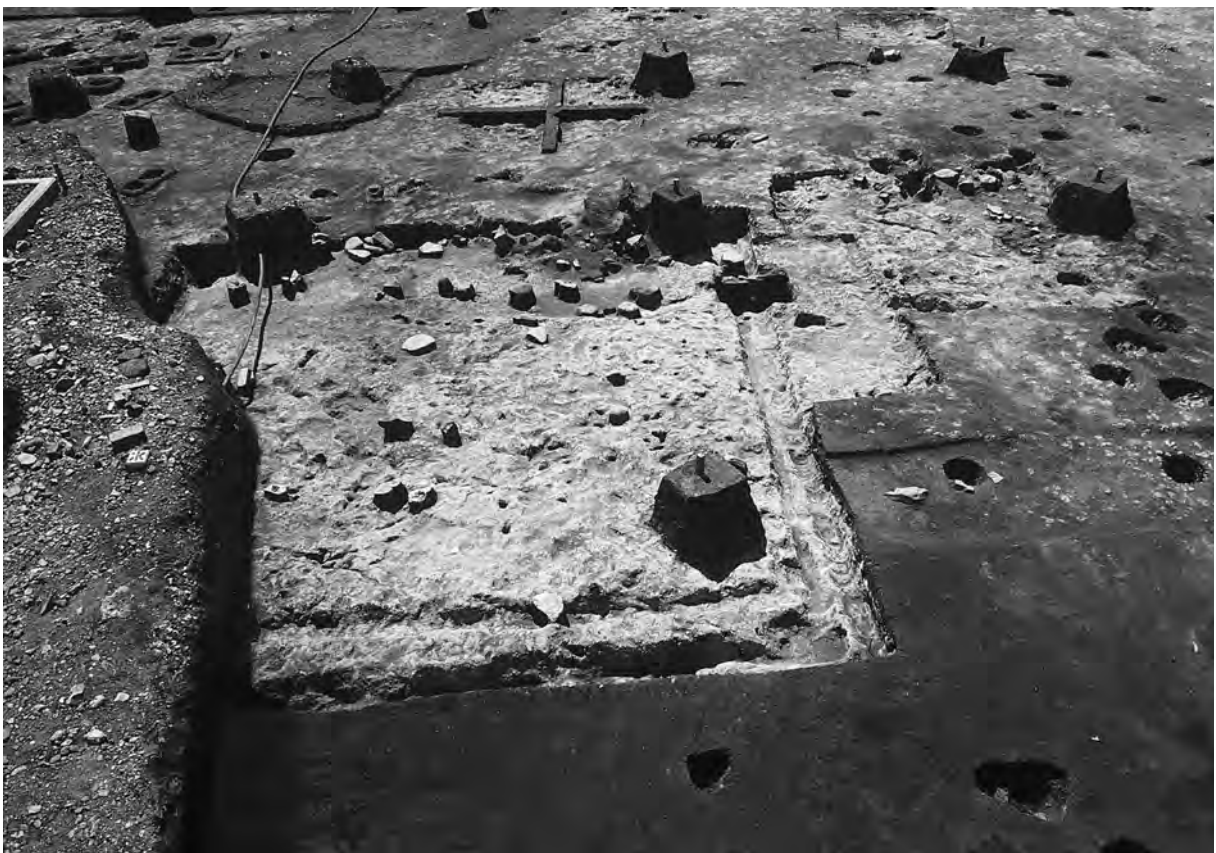
S I 47カマド 南西より



S I 47カマド土層断面 西より



S I 48 北西より



S I 49 北西より



S I 50 北西より



S I 51 北西より

図版32 II 区の調査(16)



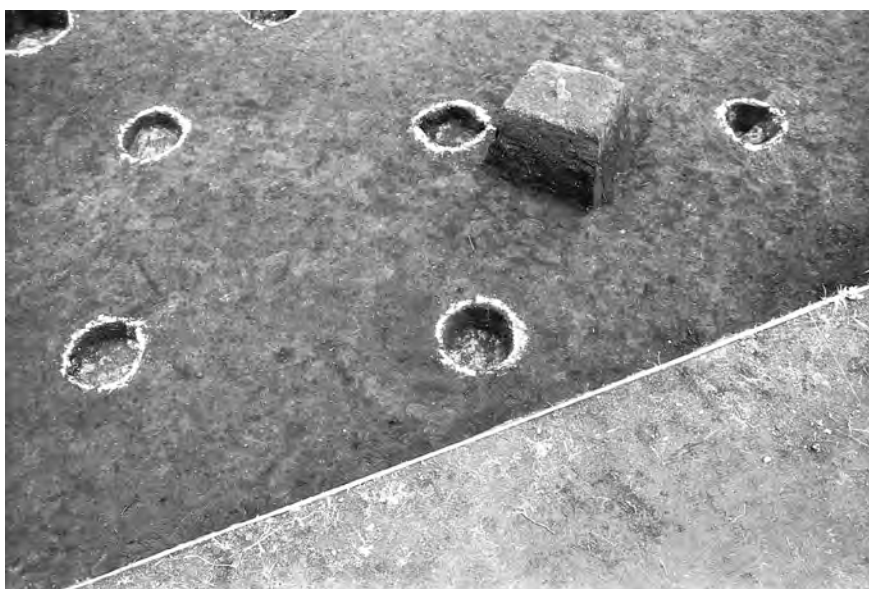
S I 52 北西より



S I 52カマド 西より



S B 7 西より

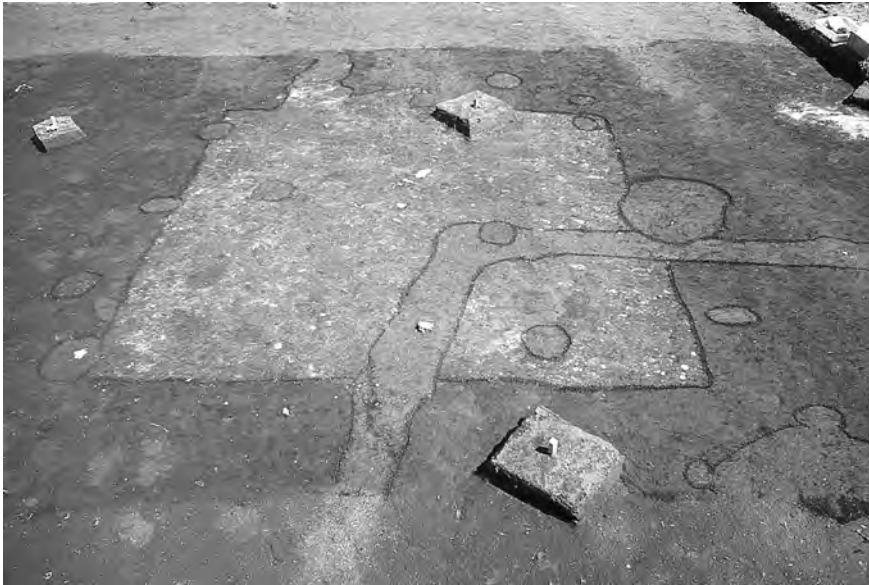


S B 8 南西より

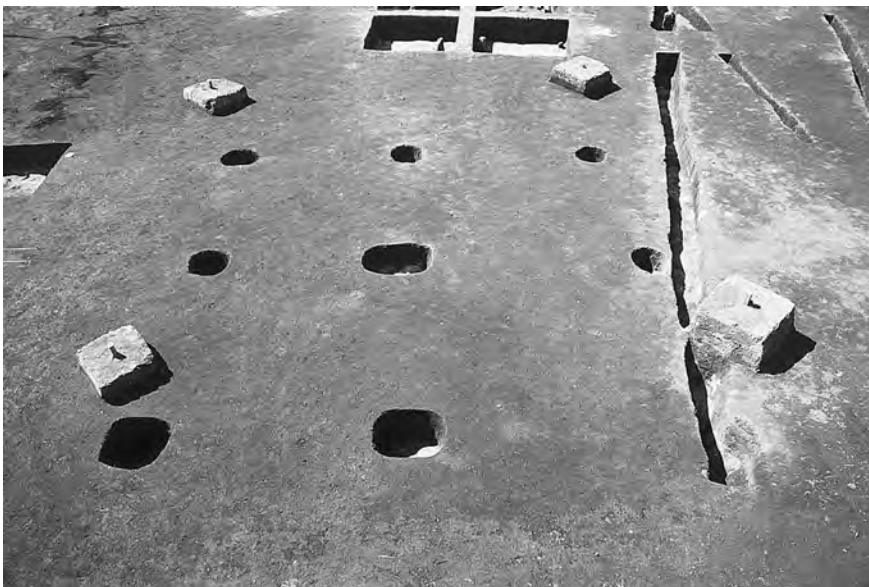


S B 9 北東より

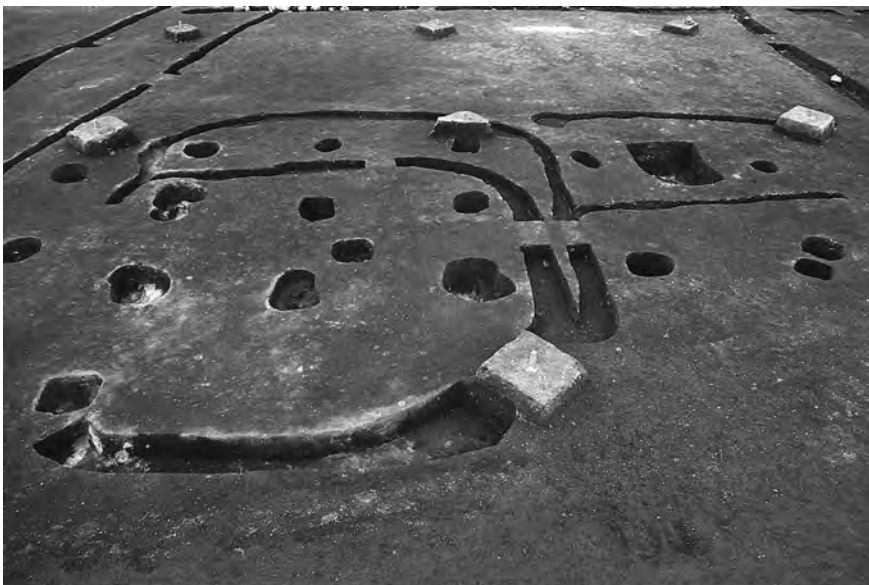
図版34 II 区の調査(18)



S B 13 北より



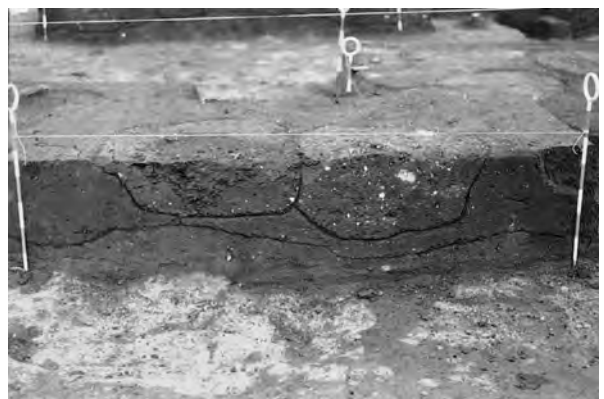
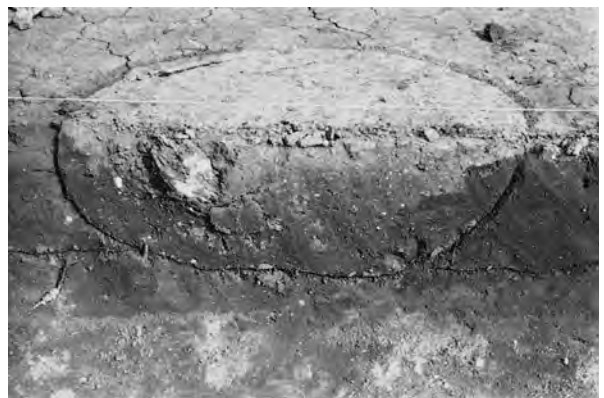
S B 14 南東より



S B 15・22・23 南東より



S B 16 完堀 南東より



S B 17 土層断面

図版36 II 区の調査(20)



S K 4 南西より



S K 6 北西より



S K 8 北西より



S X 4 北より



S X 4 北西より



S X 4 羽口装着箇所

図版38 II 区の調査(22)



S X 5 北東より



S X 5 北東より



S X 5



S X 6 土層断面 西より



S X 6 土層断面 北東より



S X 7 土層断面 南東より



S X 7 完掘 南西より

図版40 II 区の調査(24)



S X 8 完掘 北東より



S X 12



S X 10

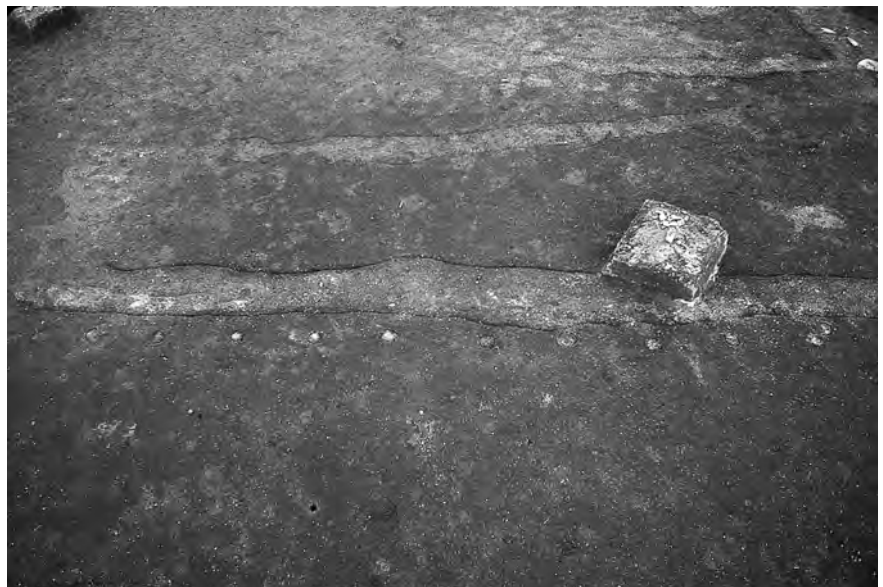
図版41 II 区の調査(25)



S D 8 確認状況 南東より



S D 11 確認状況 南西より



S D 10(手前)・9(奥) 南西より



S D 12 北東より

図版42 Ⅲ区の調査(1)



S I 54 完堀 北西より



S I 55 完堀 南西より



S I 55カマド 北西より



S I 55柱穴・遺物出土状況 北西より



S I 56・S B19 北より



S I 57 北西より



S I 57カマド 北西より

図版44 Ⅲ区の調査(3)



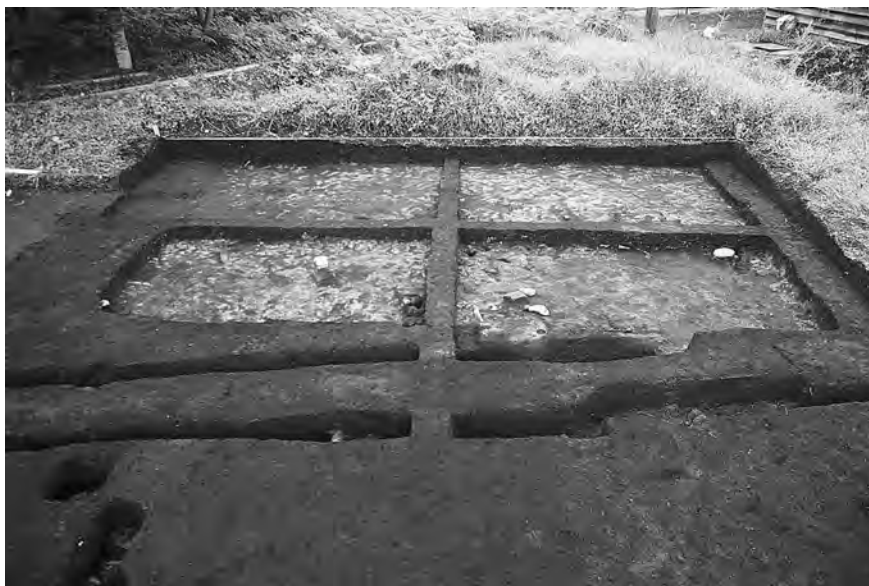
S I 59土層断面 西より



S I 59 完堀 北西より



S I 60 南より



S I 61 北東より



S I 61カマド



S I 62 北西より

図版46 Ⅲ区の調査(5)



S I 63 確認状況 南東より



S I 63作業場 南東より



S I 63炉跡 南東より



S I 63炉跡



S I 64土層断面 南西より



S I 64 南東より



S I 64カマド 北西より

図版48 Ⅲ区の調査(7)



S I 65確認状況 南西より



S I 66 南西より



S I 66カマド 南西より



S B18 東より

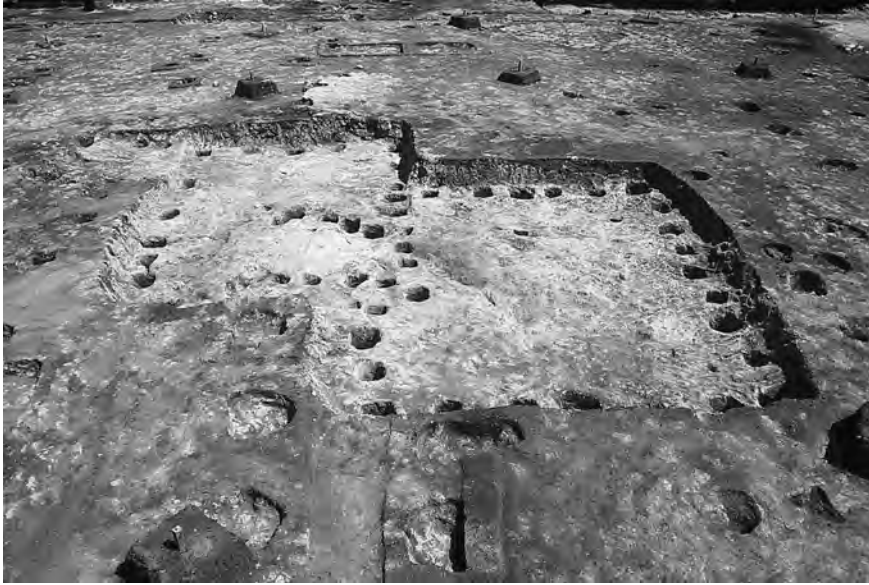


S B18柱穴



S D18土層断面

図版50 中世の遺構(1)



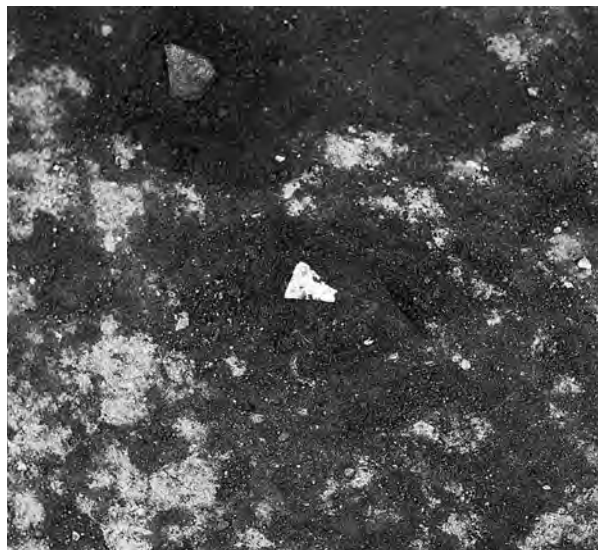
S I 39・40 完堀 北西より



S I 58 炭化材検出状況 北西より



S I 58 完堀 北東より



S I 58 白磁出土状況



S I 67 北西より



S X 9 南西より



S X 9 陶器出土状況



S E 1 井戸杵検出



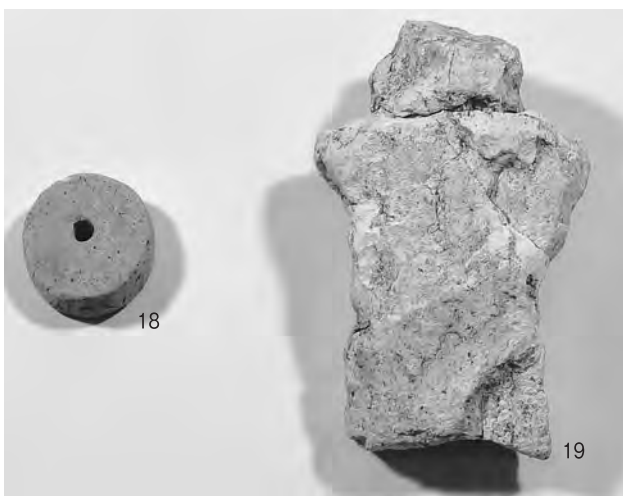
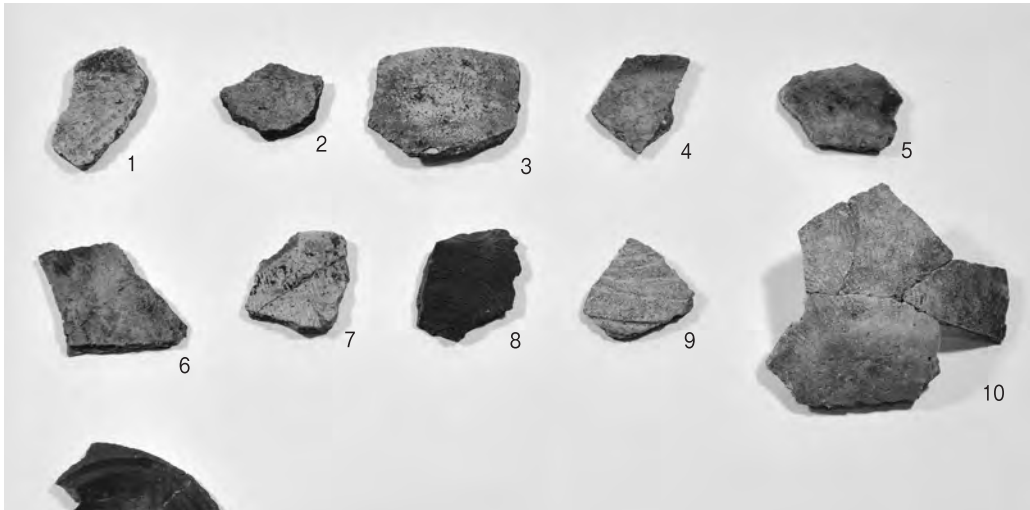
S E 2



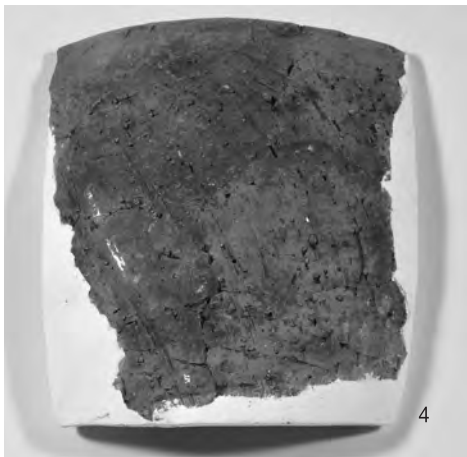
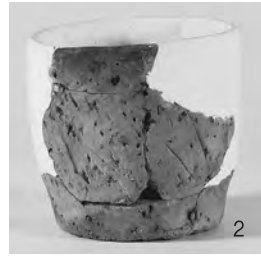
S E 2 井戸杵検出



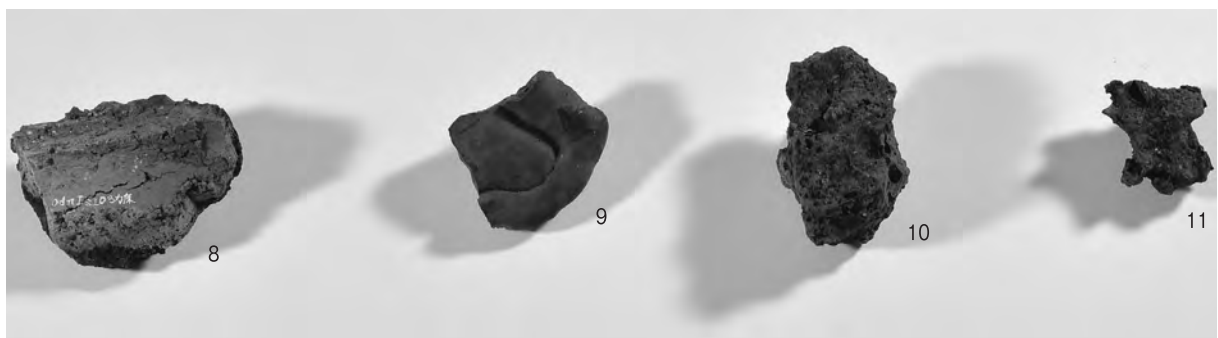
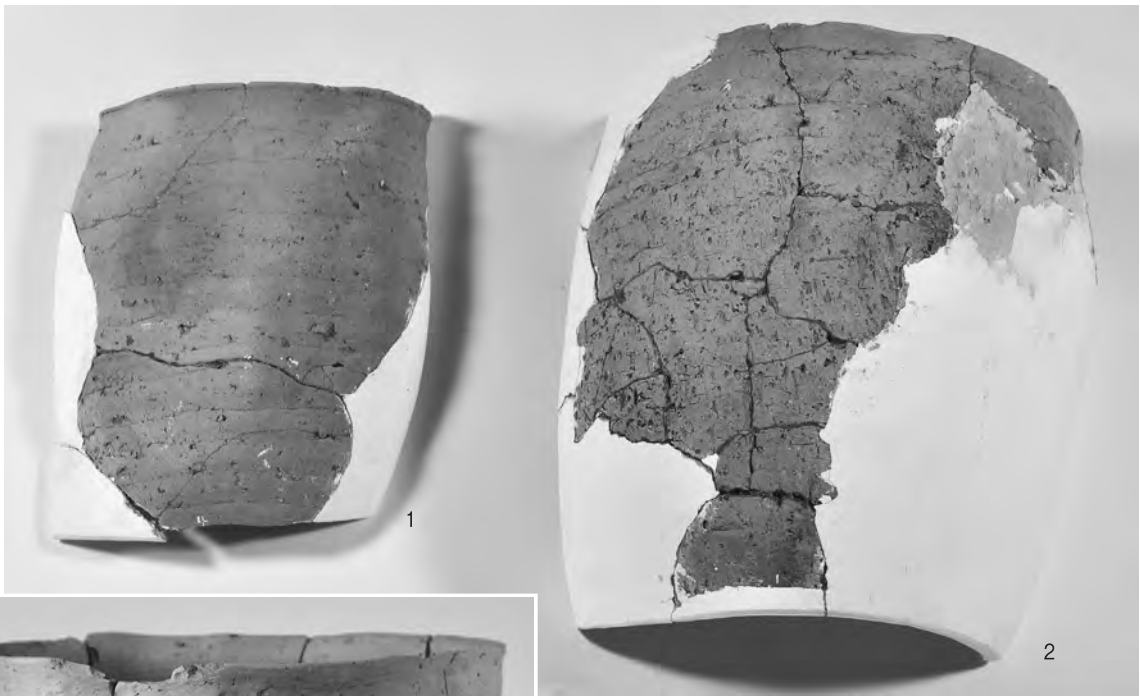
SK 9出土土器



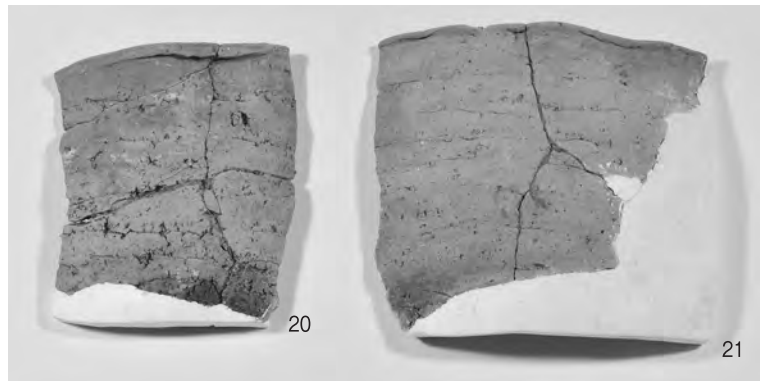
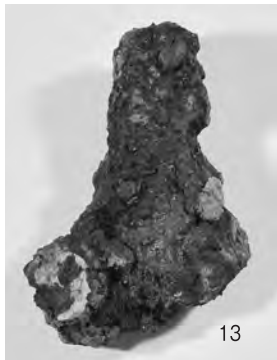
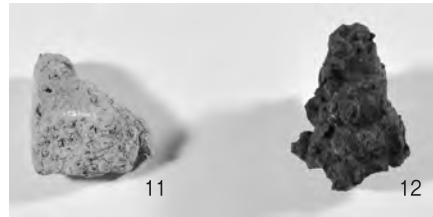
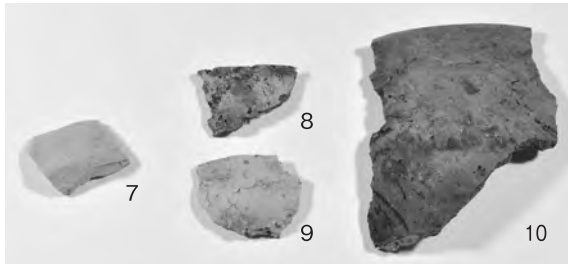
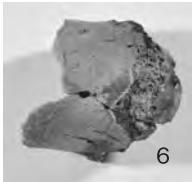
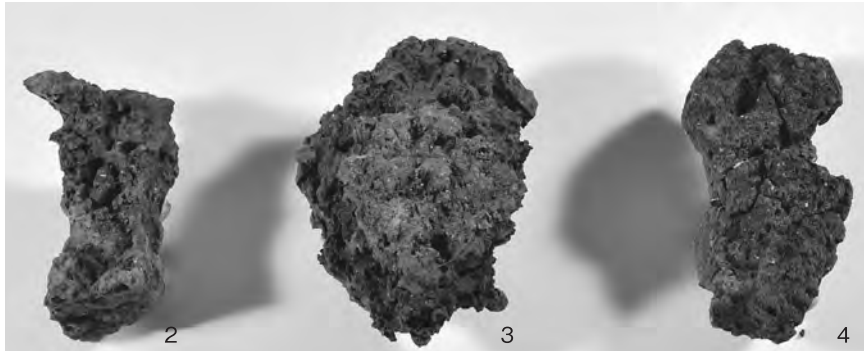
図版54 S I 1 出土遺物



鉄関連遺物



図版56 S I 4～9出土遺物



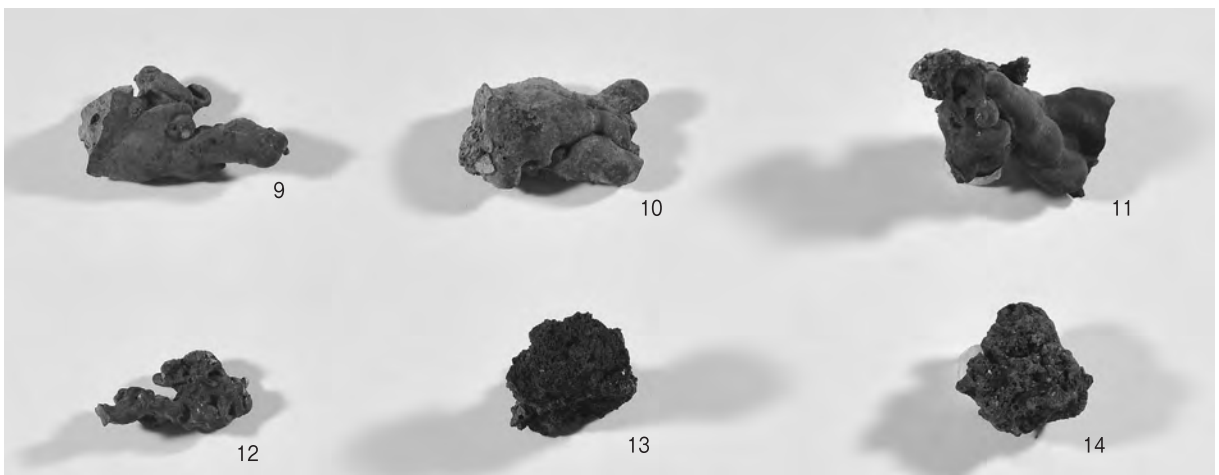
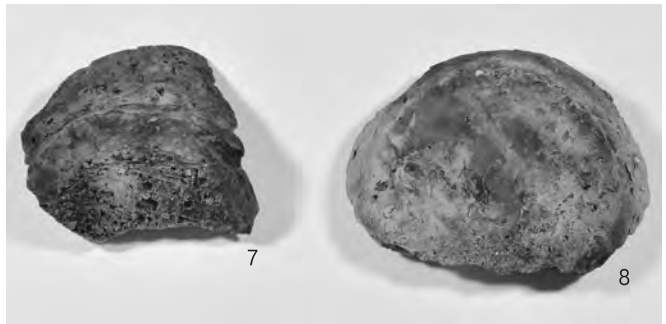
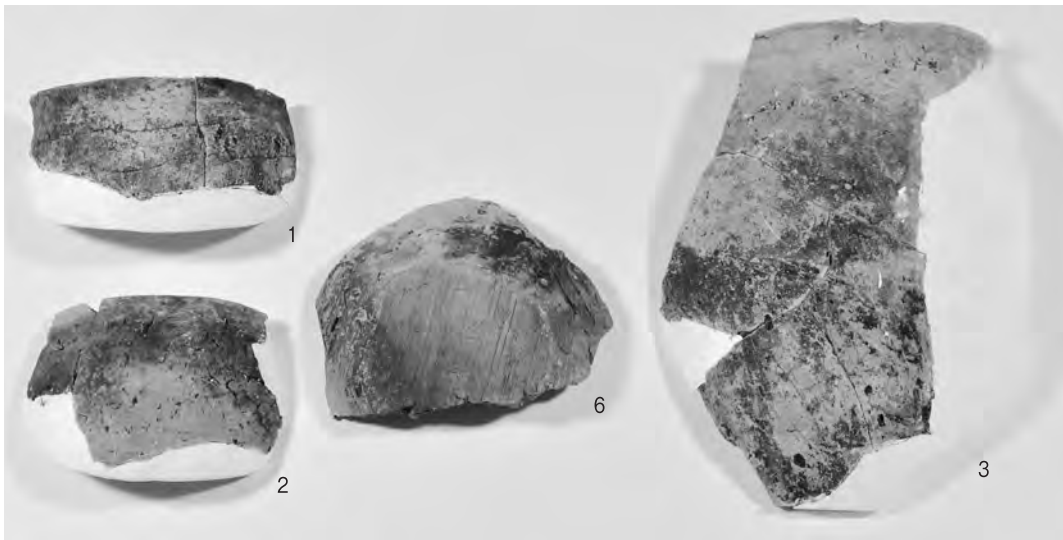
1～5.S I 4 6.S I 5 7～12.S I 6 13～16.S I 7 17.S I 8 18～21.S I 9

図版57 S I 10出土遺物

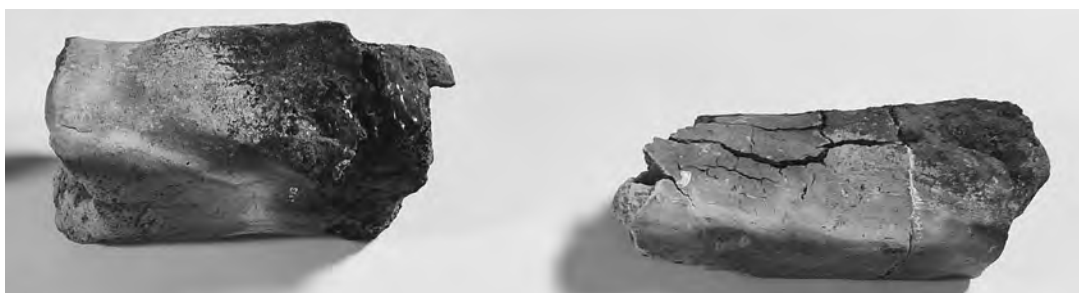


図版58 S I 11出土遺物

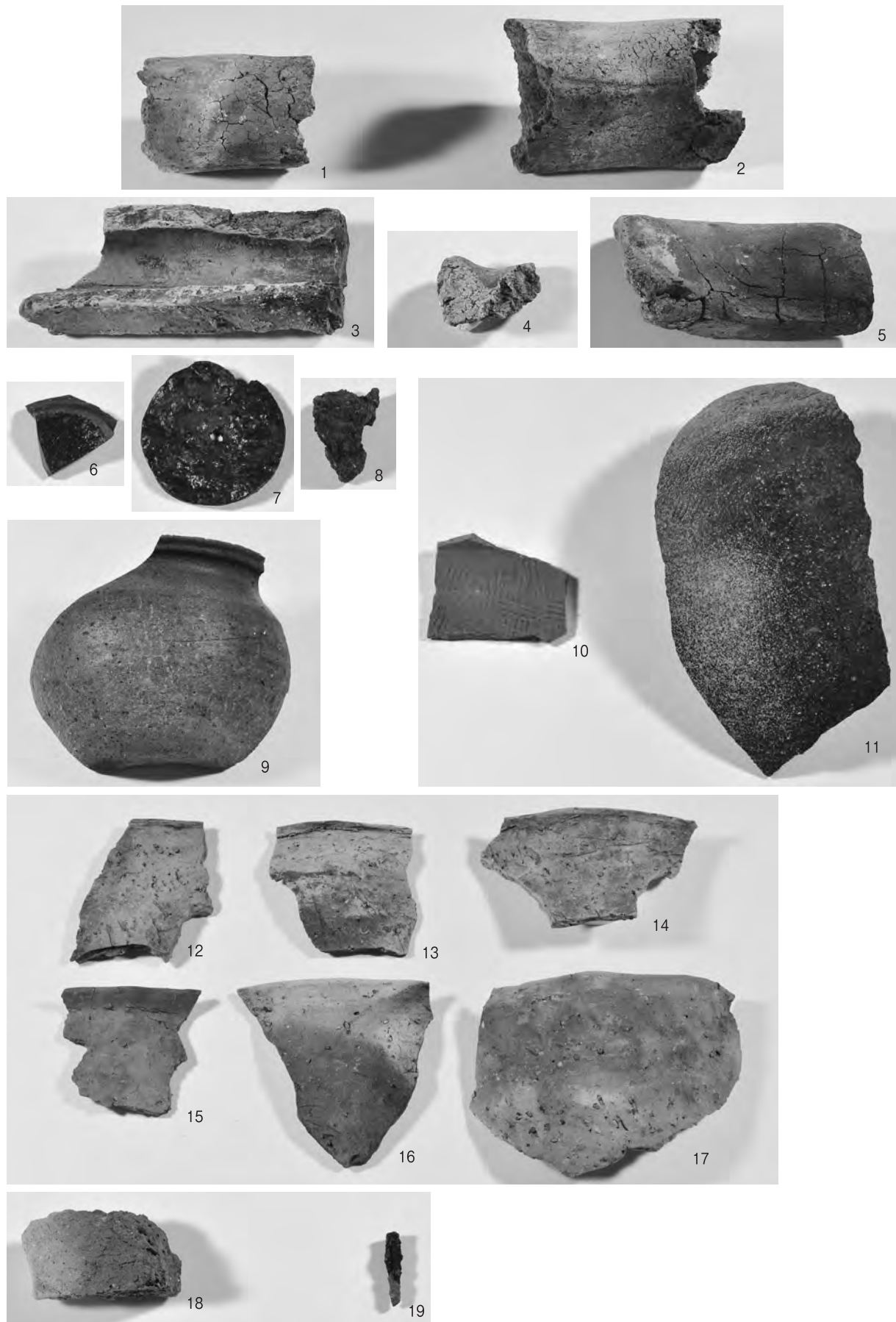




図版60 S X 1 出土遺物(1)

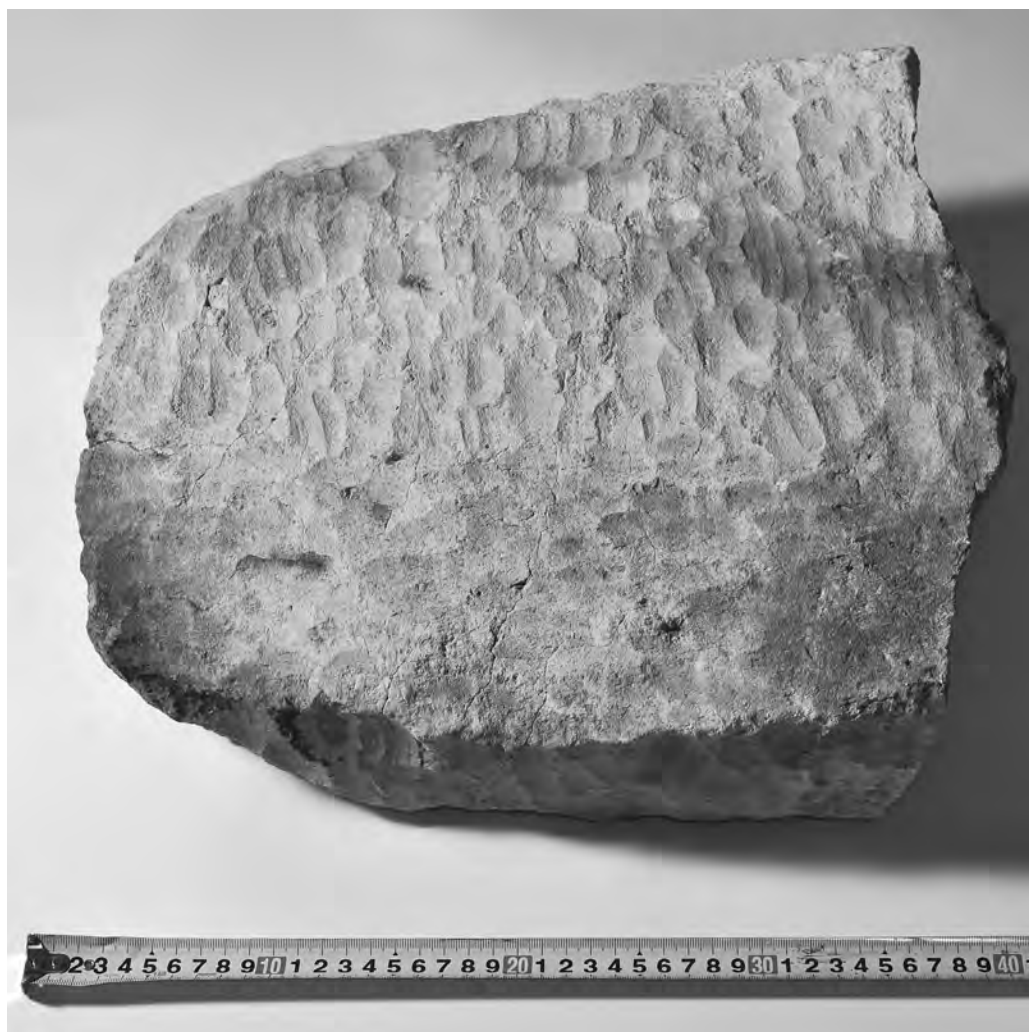


図版61 S X 1・S I 14~17出土遺物



1~5.S X 1 6・7.S I 14 8.S I 15 9.S I 16 10~19.S I 17

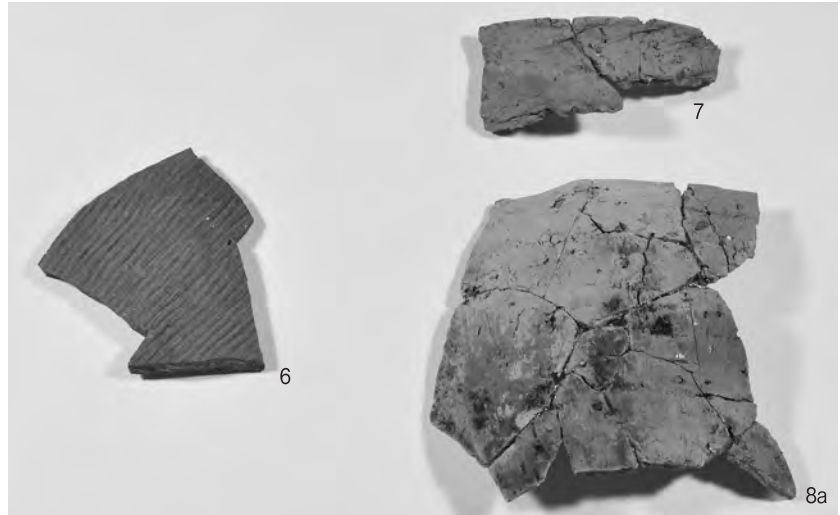
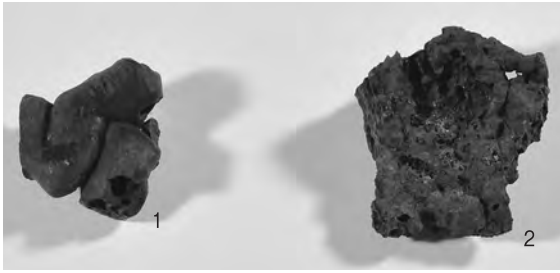
図版62 S I 19出土遺物(1)



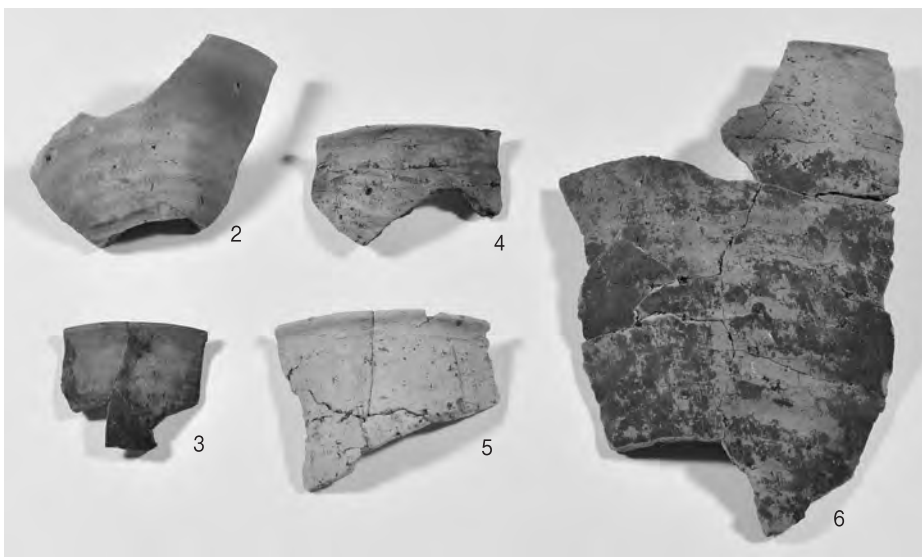
図版63 S I 19出土遺物(2)



図版64 S I 19・20出土遺物



1~4.S I 19 5~10.S I 20

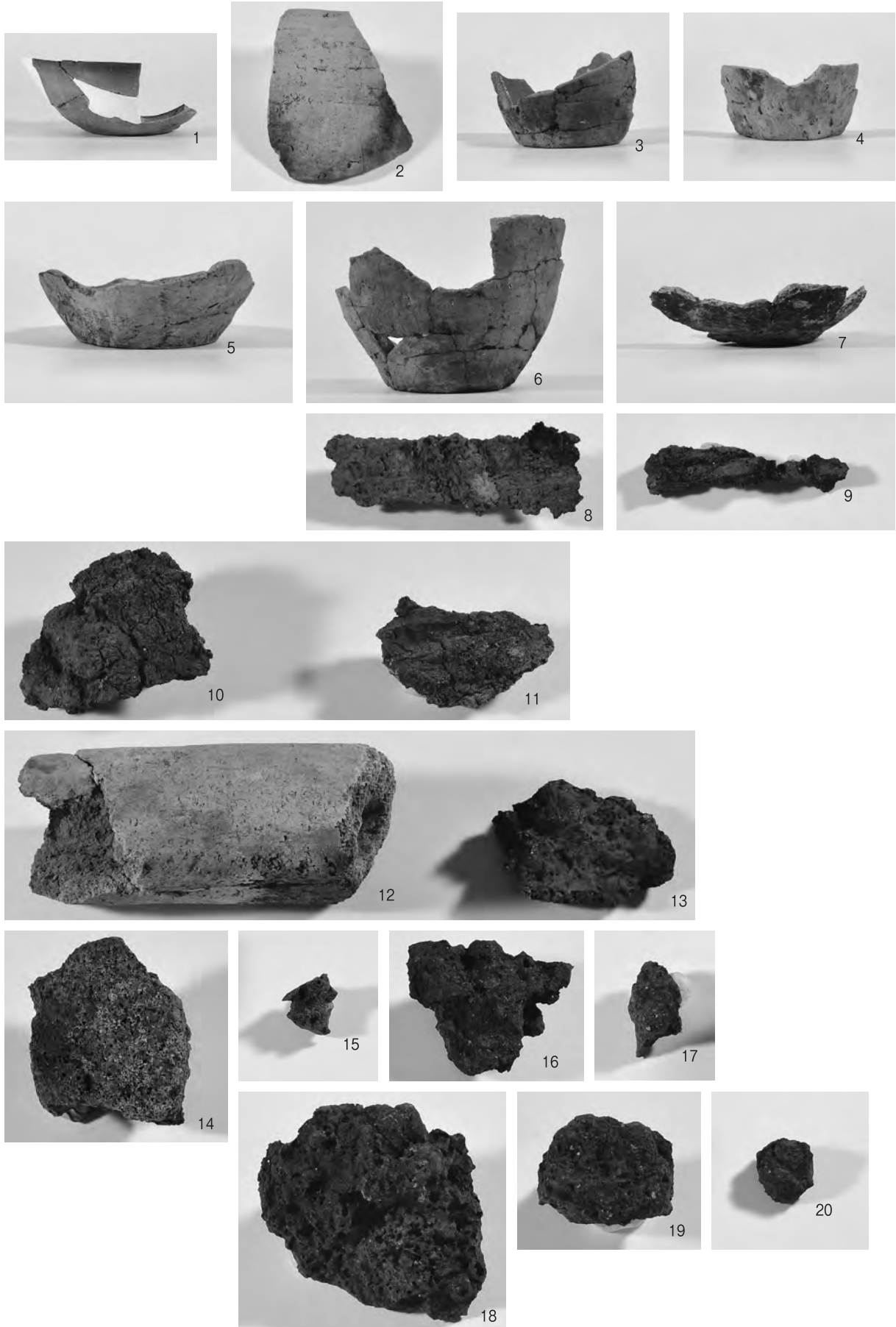


1.S I 20 2~9.S I 21 10.S I 22

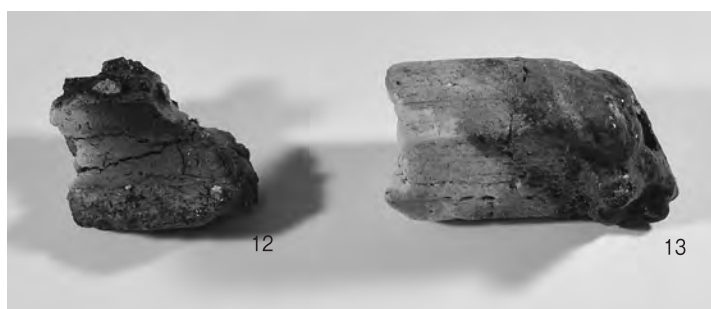
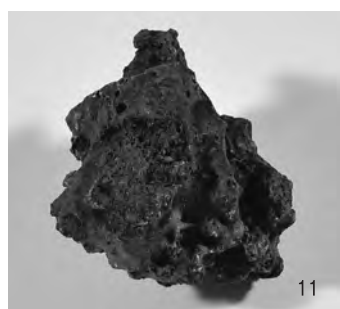
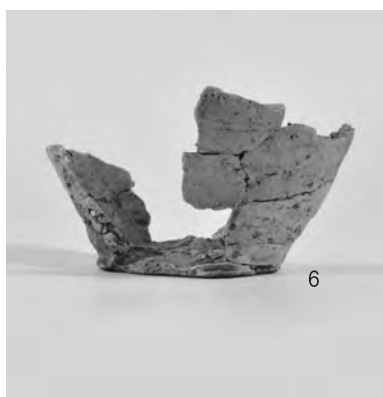
図版66 S I 23~25・26出土遺物

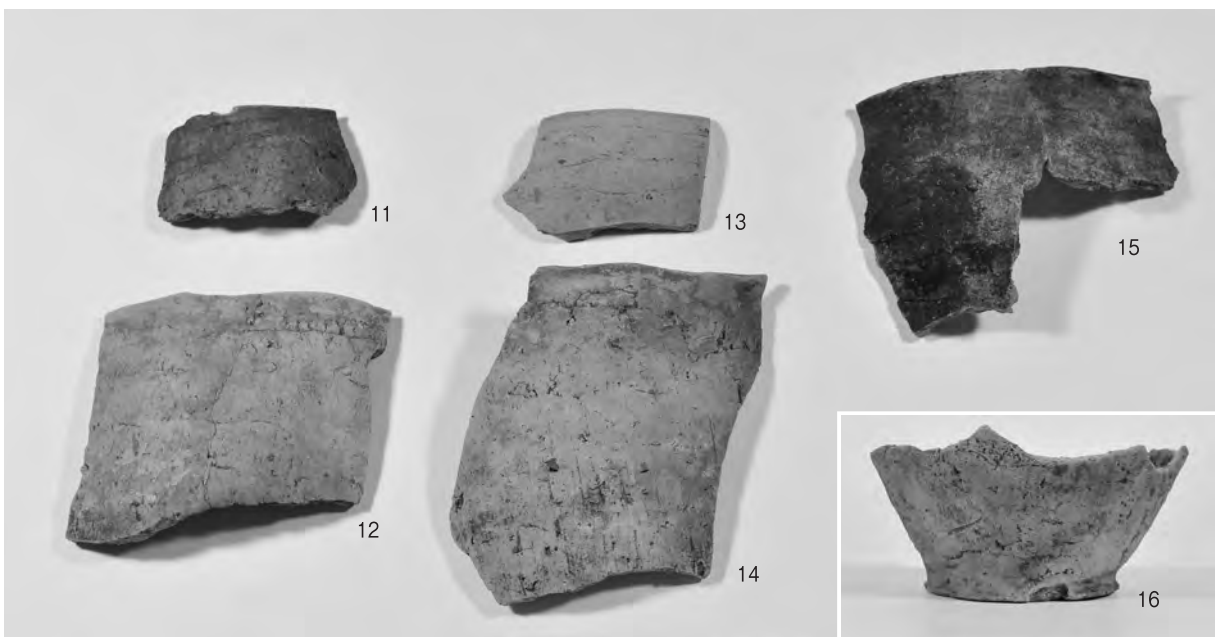
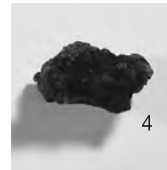
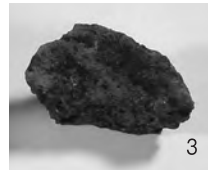
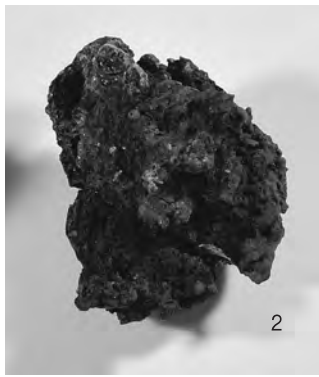
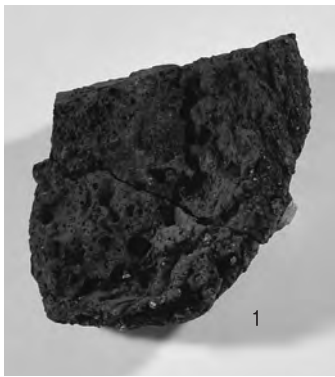


1・2.S I 23 3~8.S I 24 9~11.S I 25・26



1~7・14~20. S I 27・28 8・9. S I 28 10~13. S I 27





1～5.S I 29・30 6～10.S I 31 11～16.S I 32

図版70 S I 33出土土器(1)





図版72 S I 33出土遺物(3)



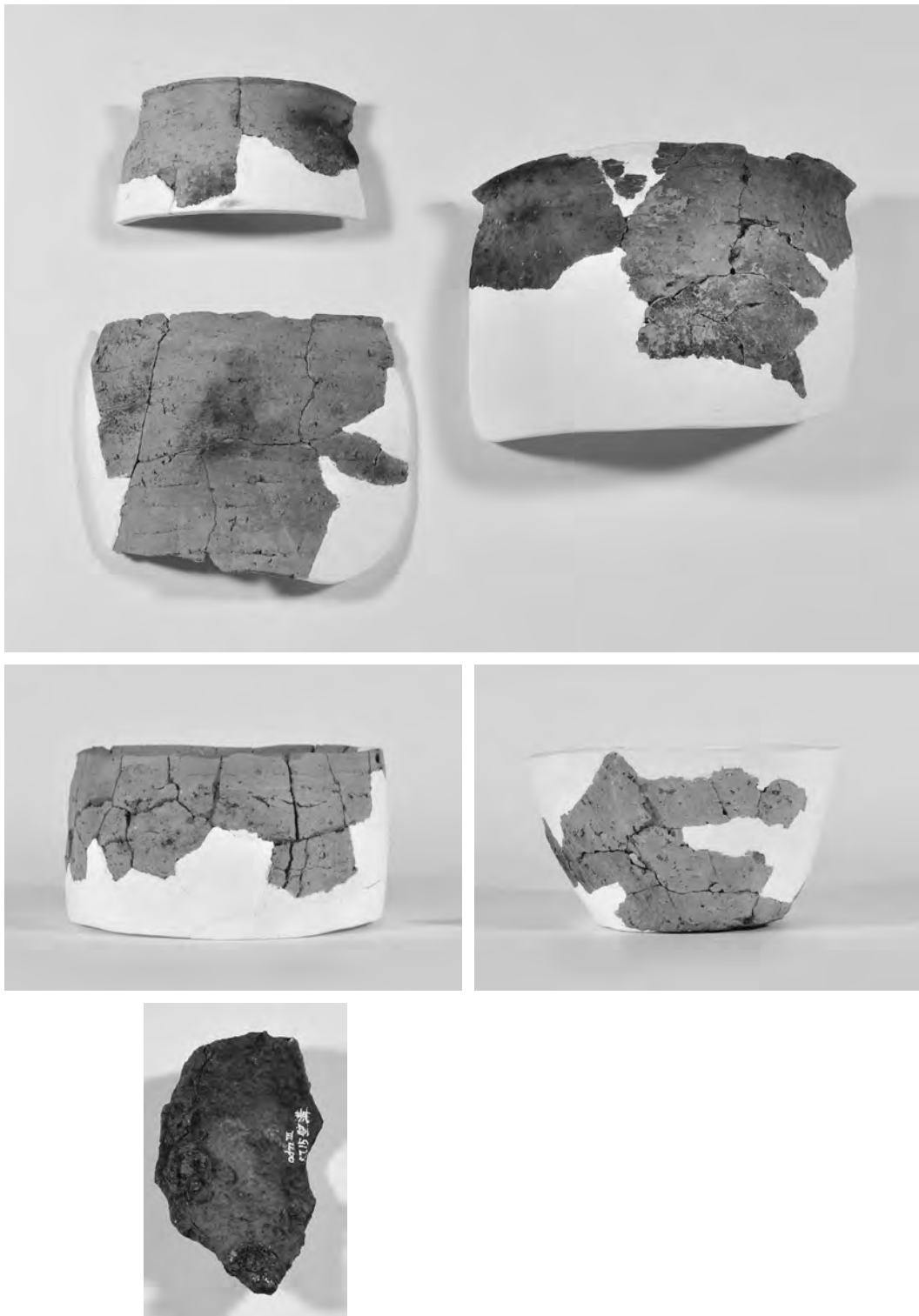


1・2.S I 33 3・4.S I 34

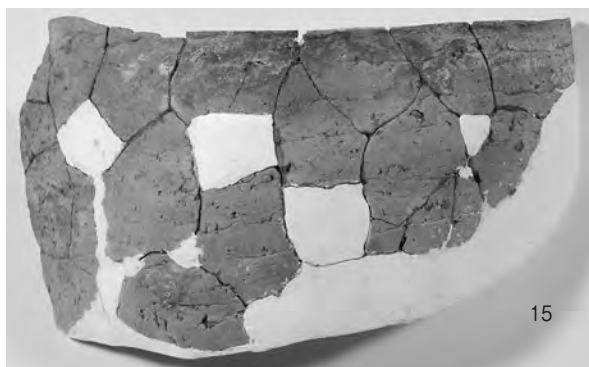
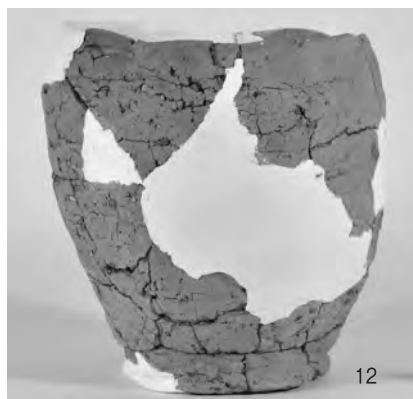
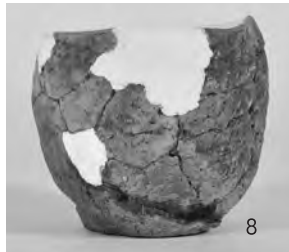
図版74 S I 34出土遺物(2)



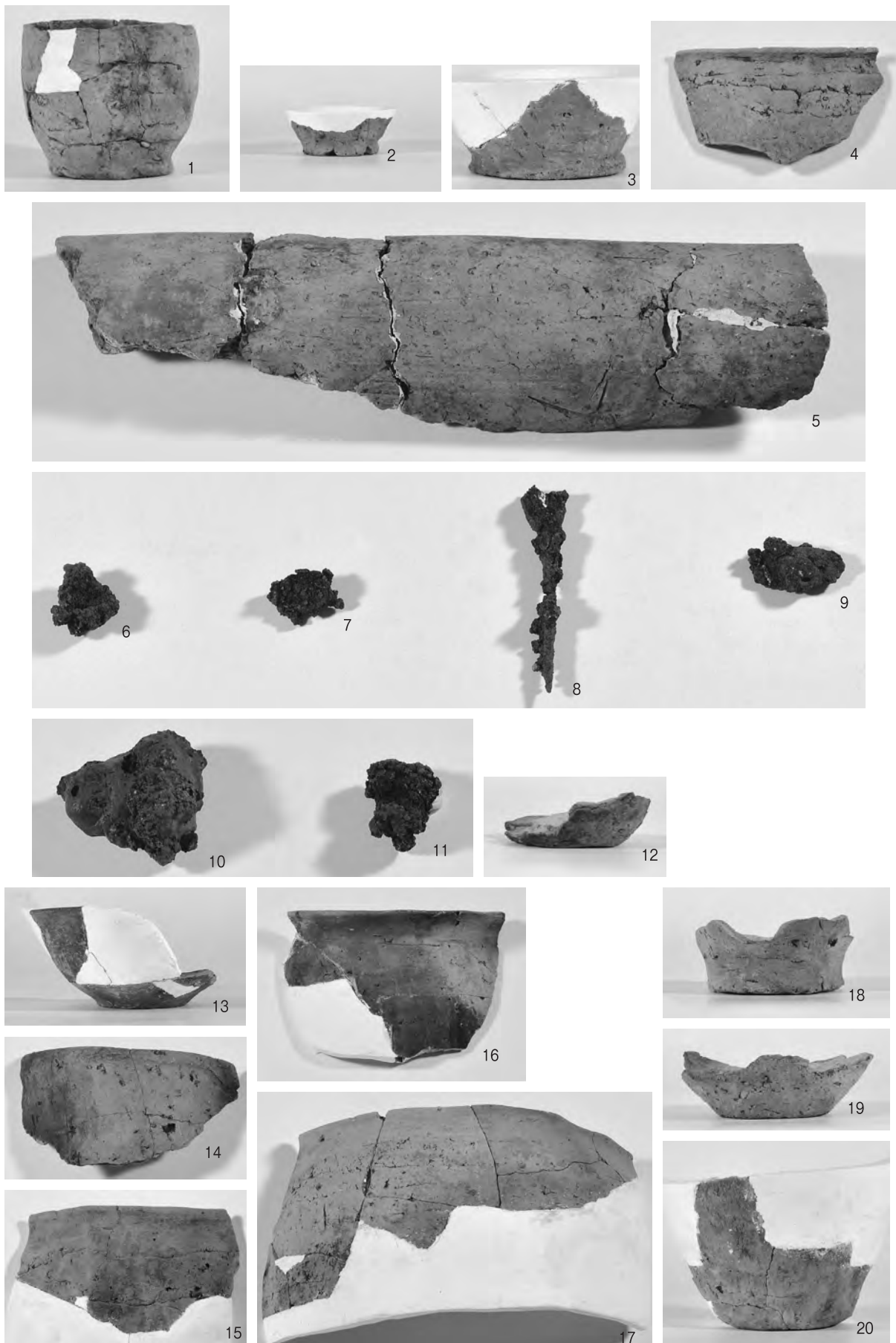
図版75 S I 34出土遺物(3)







図版78 S I 41・45出土遺物

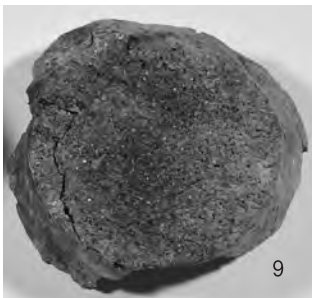
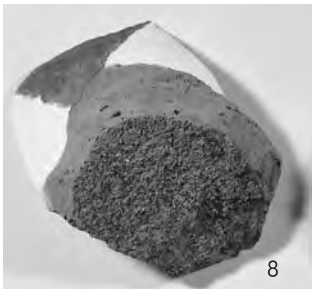
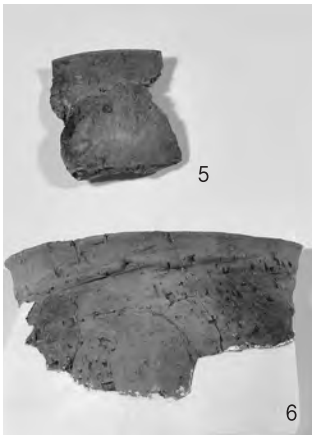


1~9.S I 41 10・11.S I 43 12.S I 44 13~20.S I 45

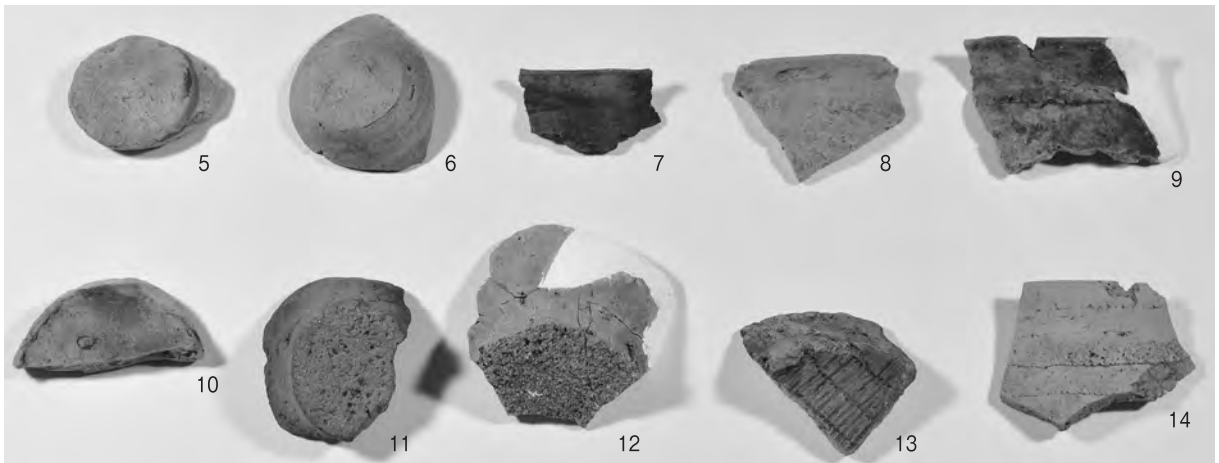
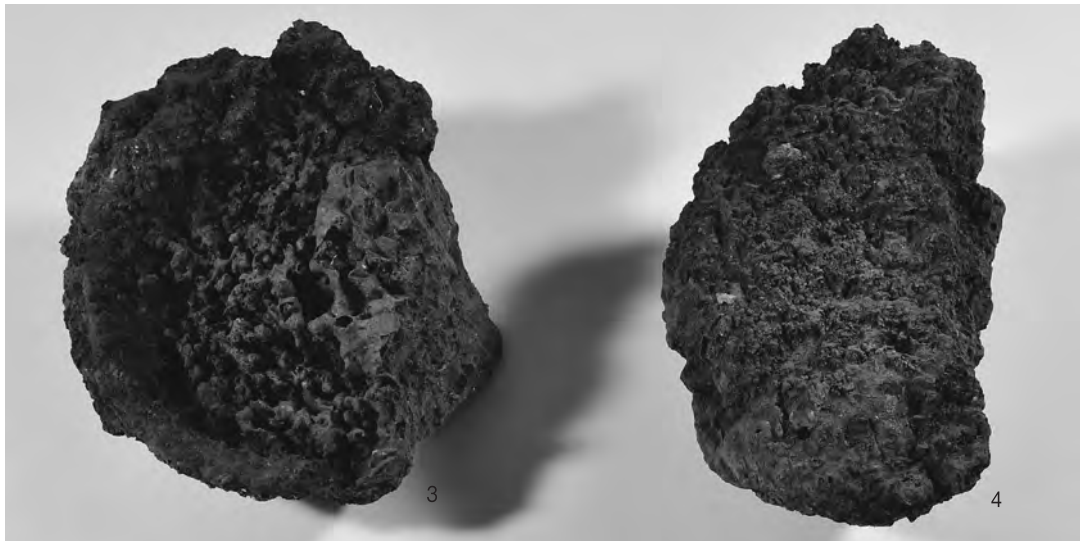
図版79 S I 45出土遺物(2)



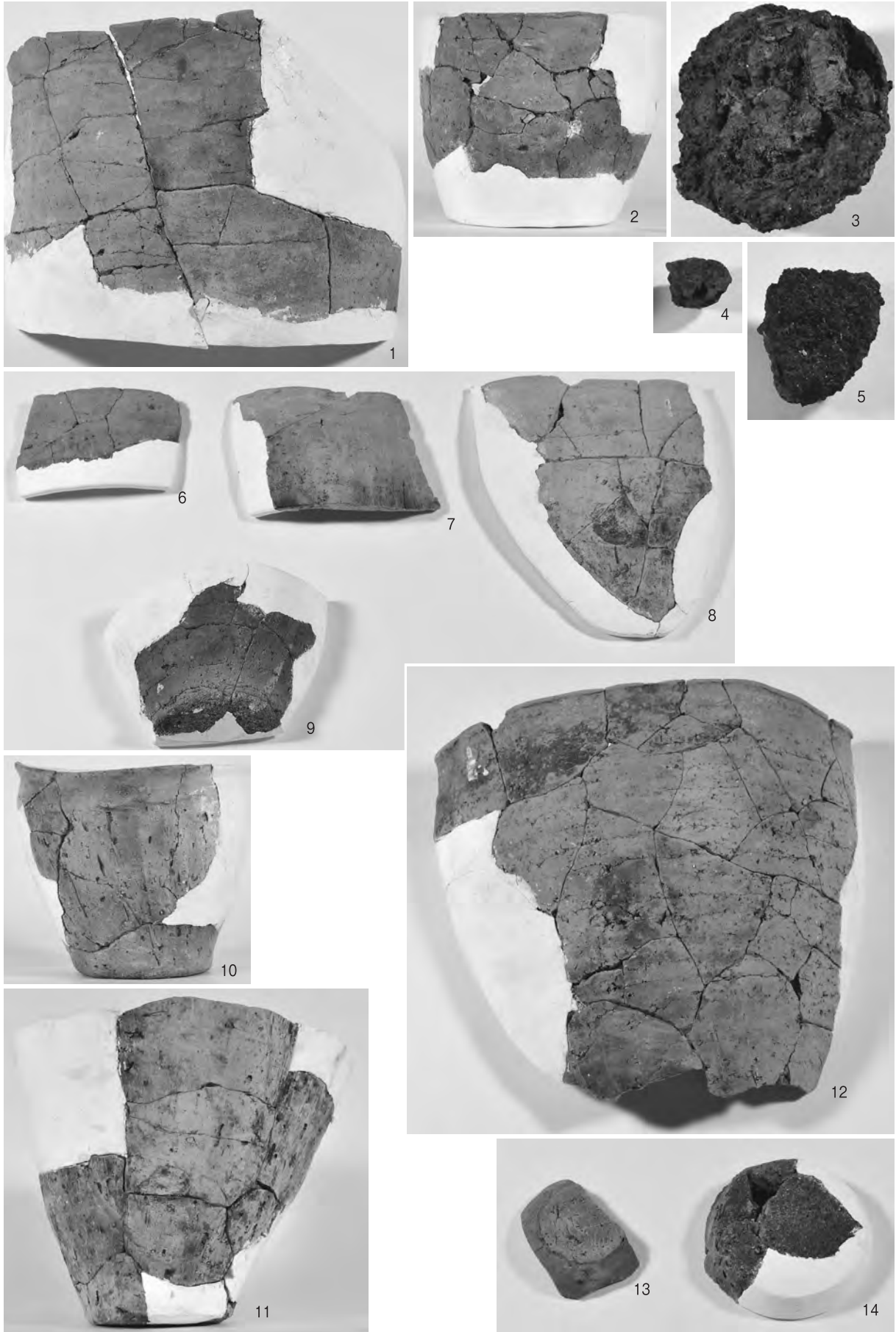
図版80 S I 45・47出土遺物



1~4.S I 45 5~11.S I 47

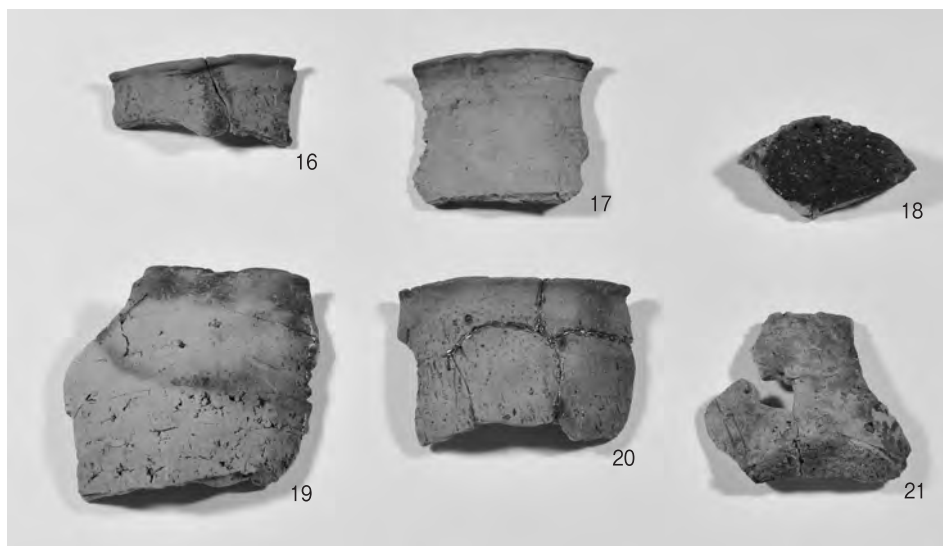
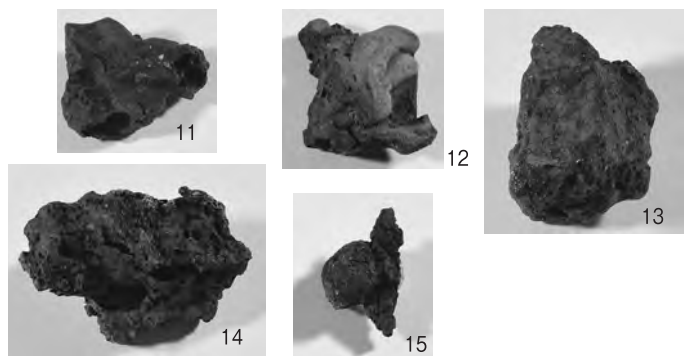
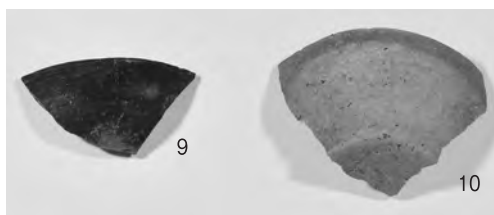
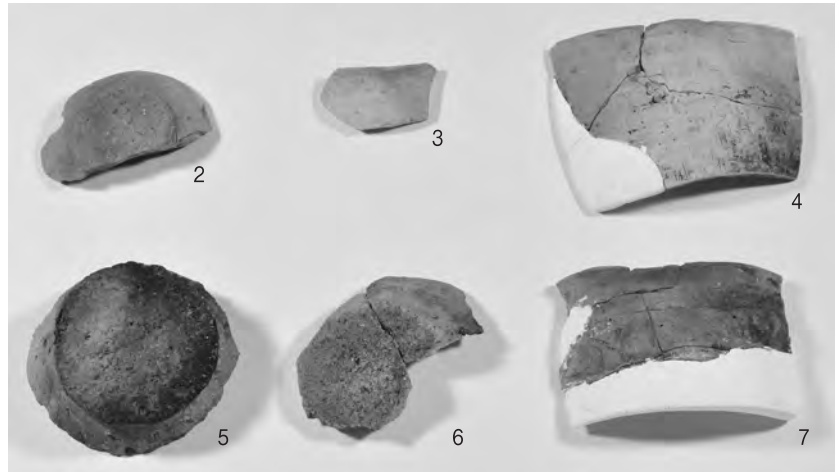
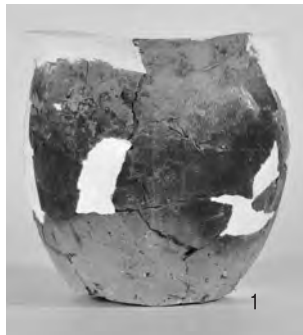


図版82 S I 47・50・51出土遺物



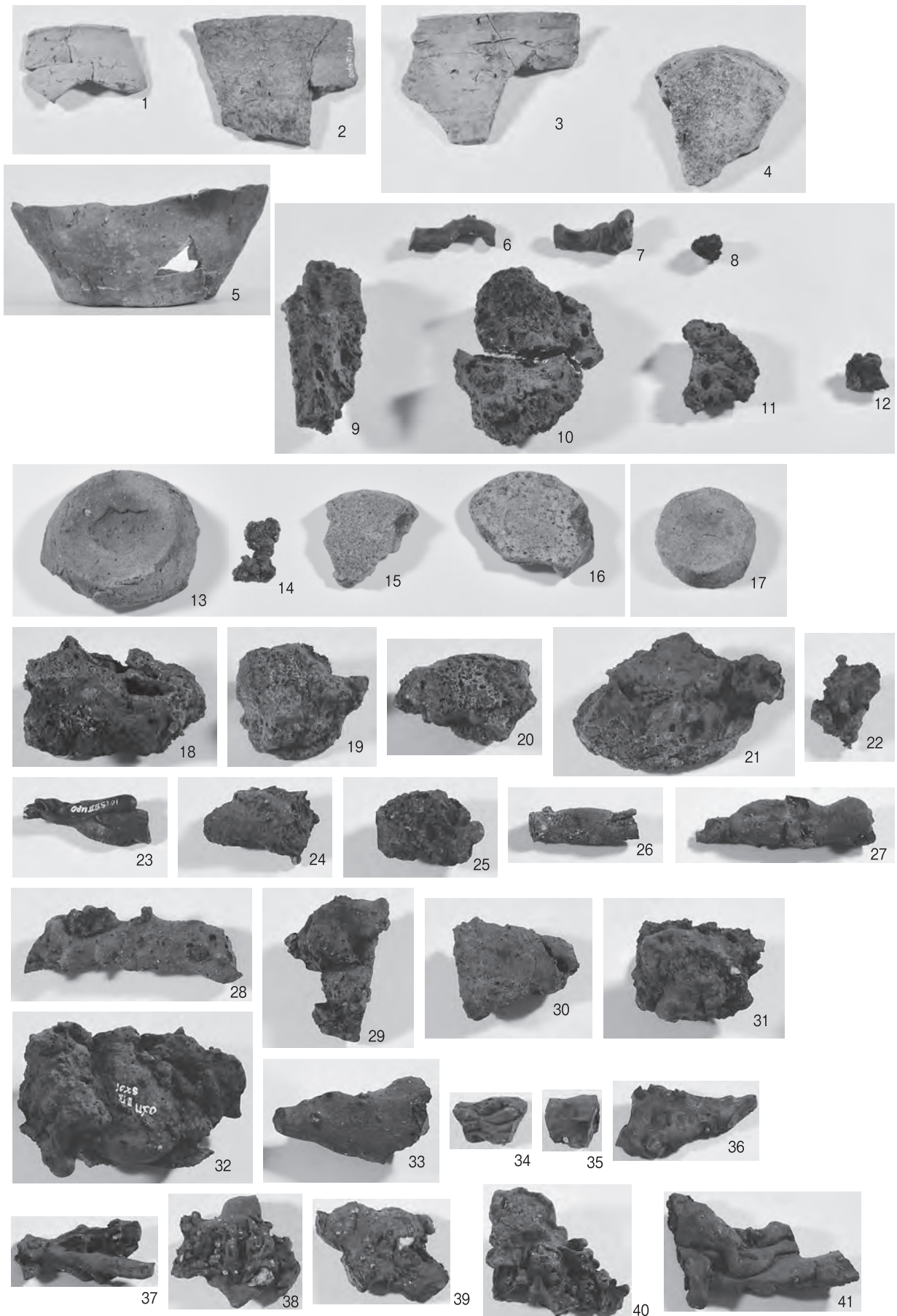
1~5.S I 47 6~12.S I 50 13・14.S I 51

図版83 S I 52・53・S K 4・5 出土遺物



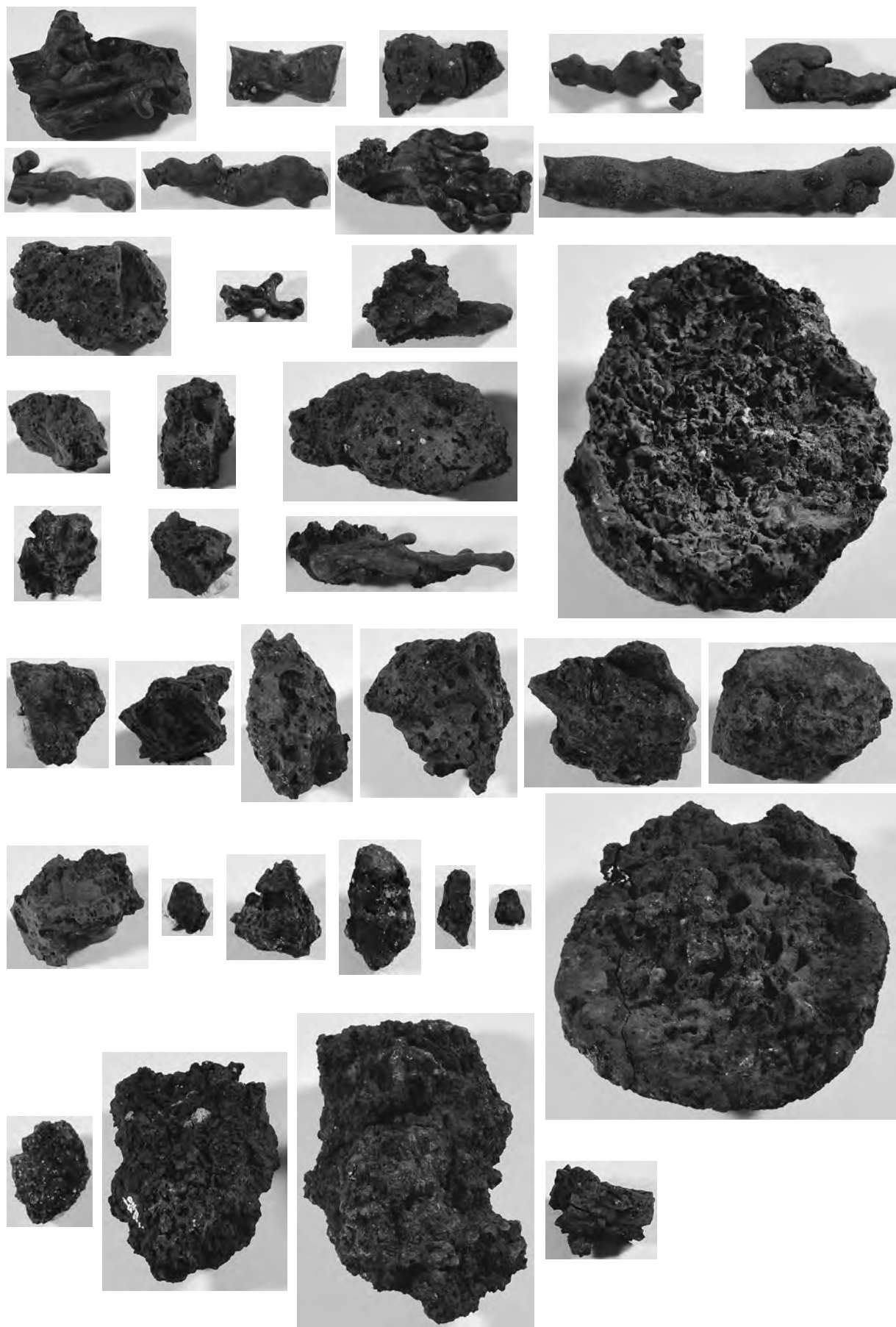
1~8. S I 52 9~15. S I 53 16~21. S K 4 22~24. S K 5

図版84 SK 6・SD10・12・14・SX 4 出土遺物



1~12. SK 6 13. SD10 14. SD12 15・16. SD14 17~41 SX 4

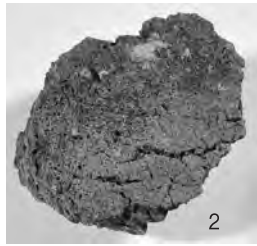
図版85 S X 4 出土遺物(2)



図版86 S X 5・6出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



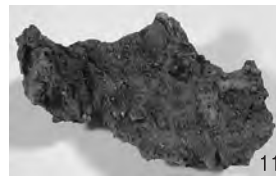
8



9



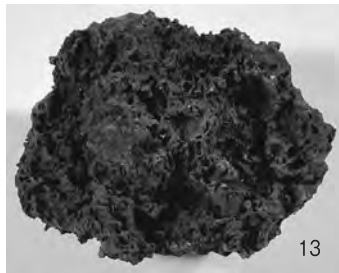
10



11



12



13



14



1~14. S X 5 15~22. S X 6

図版87 S X 7・8・10出土遺物



1・2.S X 7 3~11.S X 8 12~24.S X 10

図版88 S X 12・14出土遺物



1



2

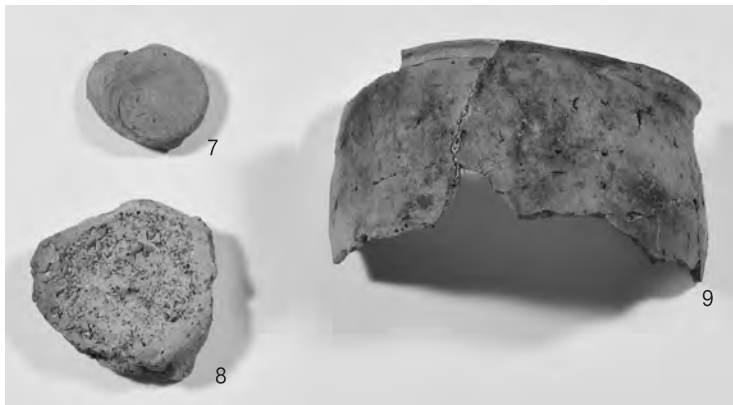


3

4

5

6



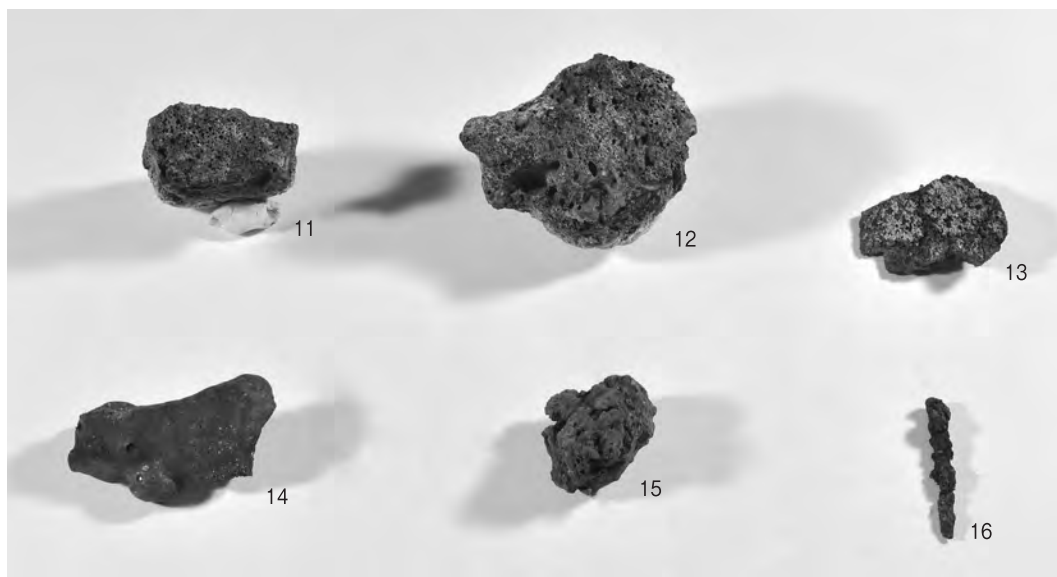
7

8

9



10



11

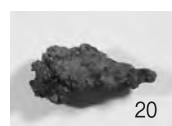
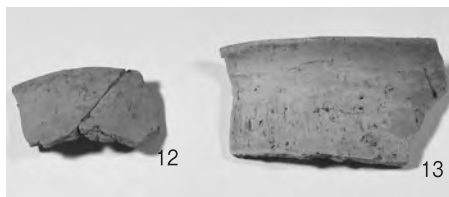
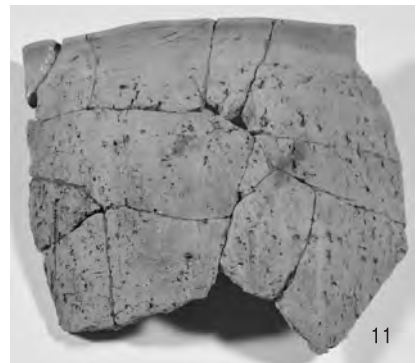
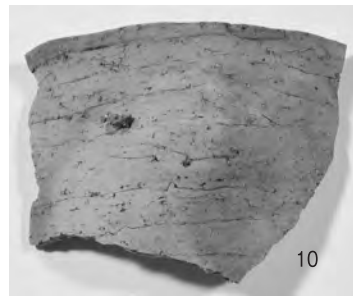
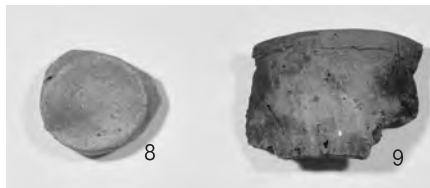
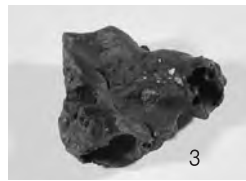
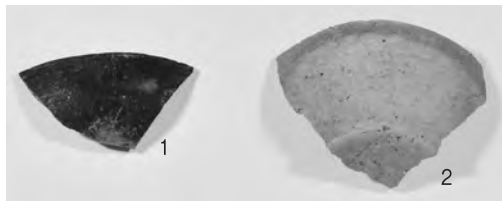
12

13

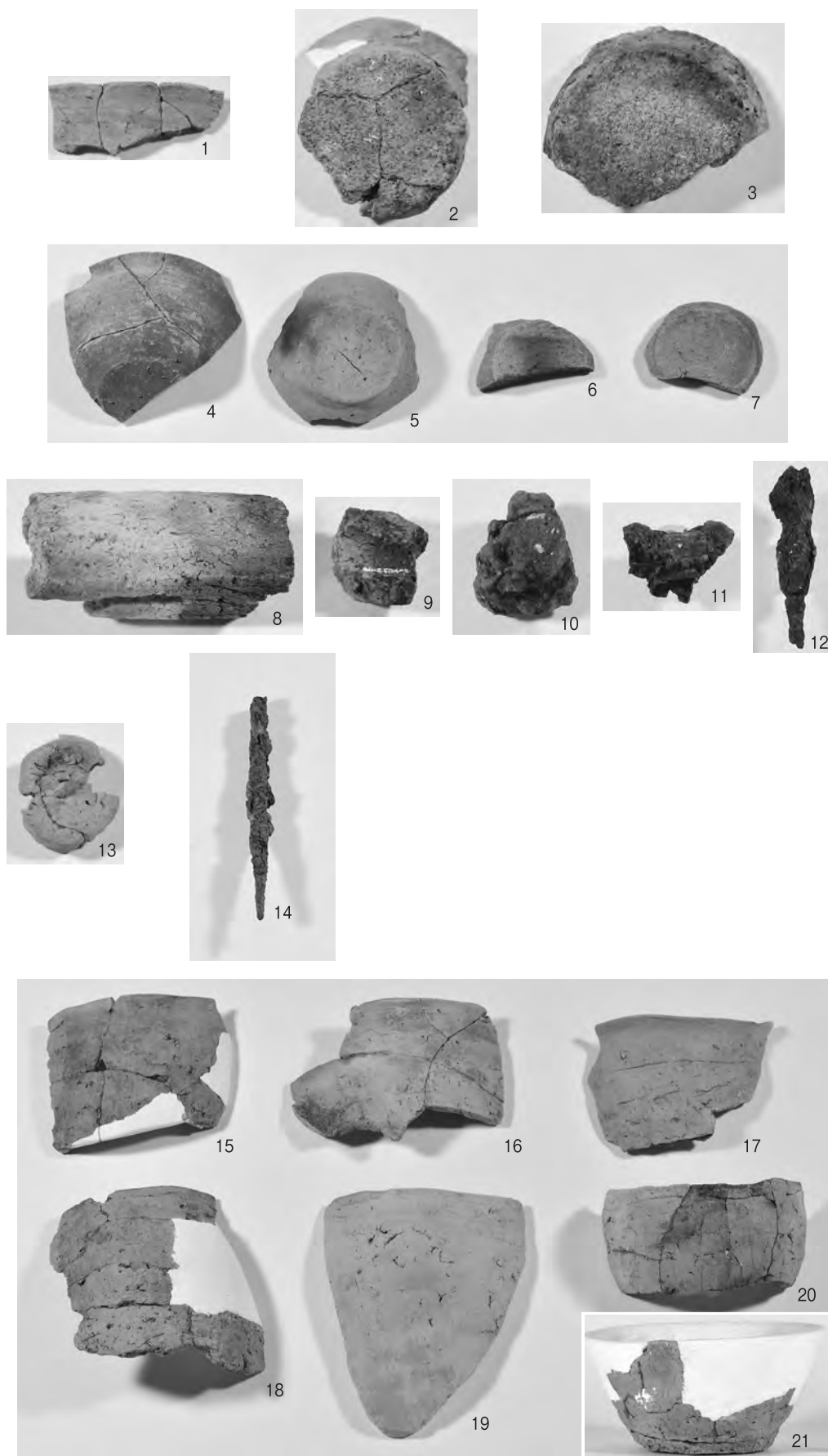
14

15

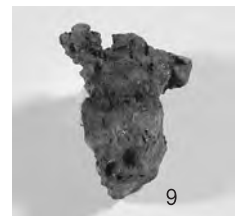
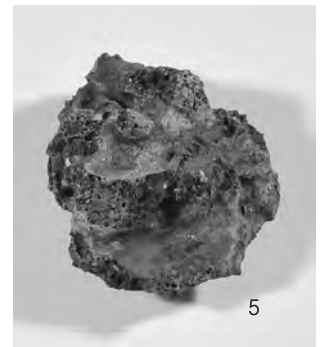
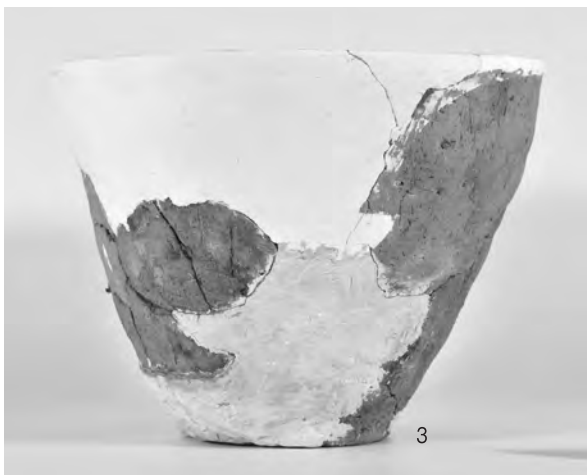
16



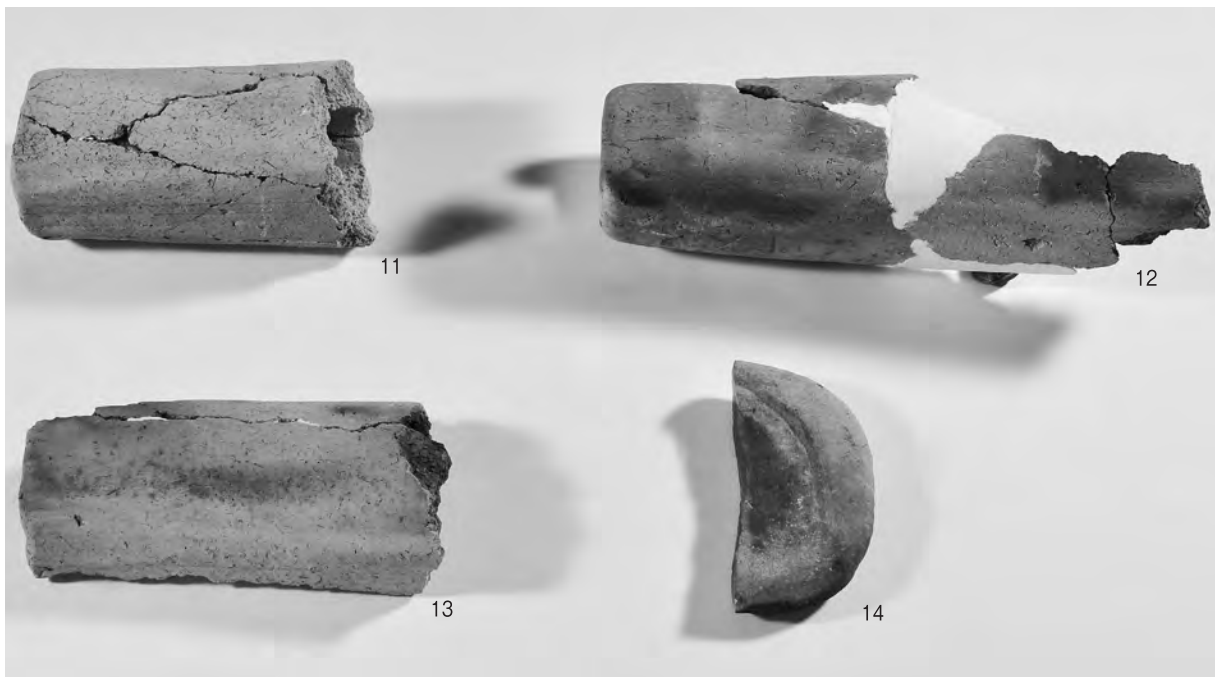
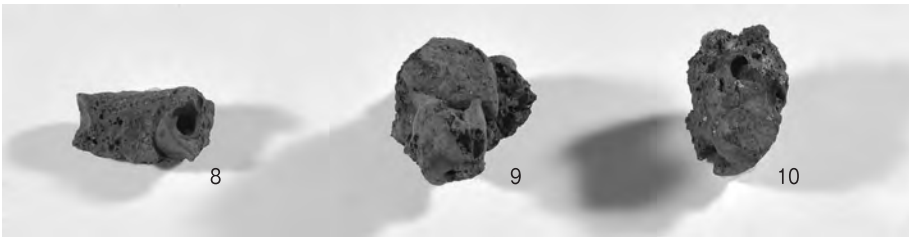
図版90 S I 56・57・59・61出土遺物



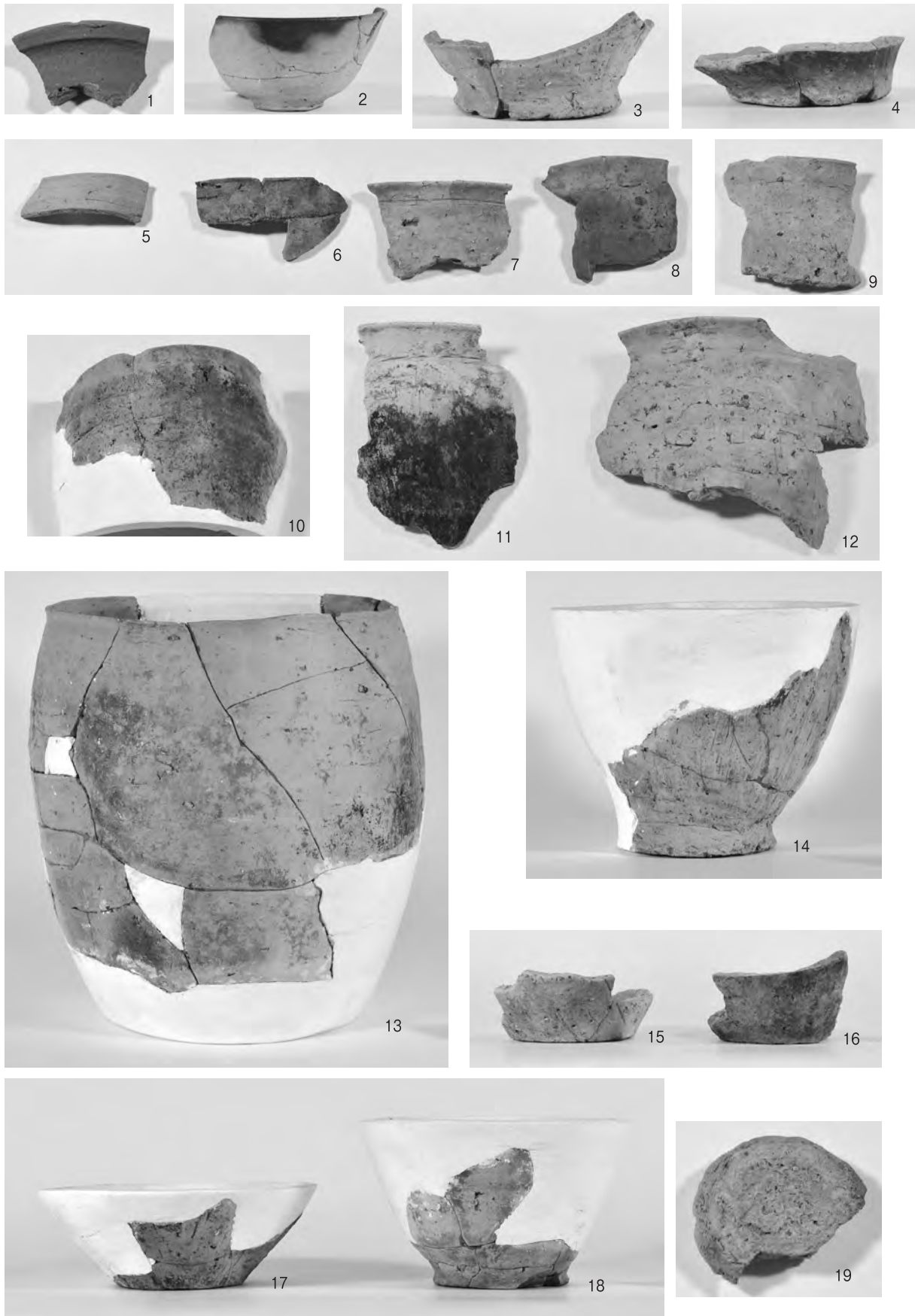
1~3.S I 56 4~12.S I 57 13・14.S I 59 15~21 S I 61



図版92 S I 66・S X 15出土遺物

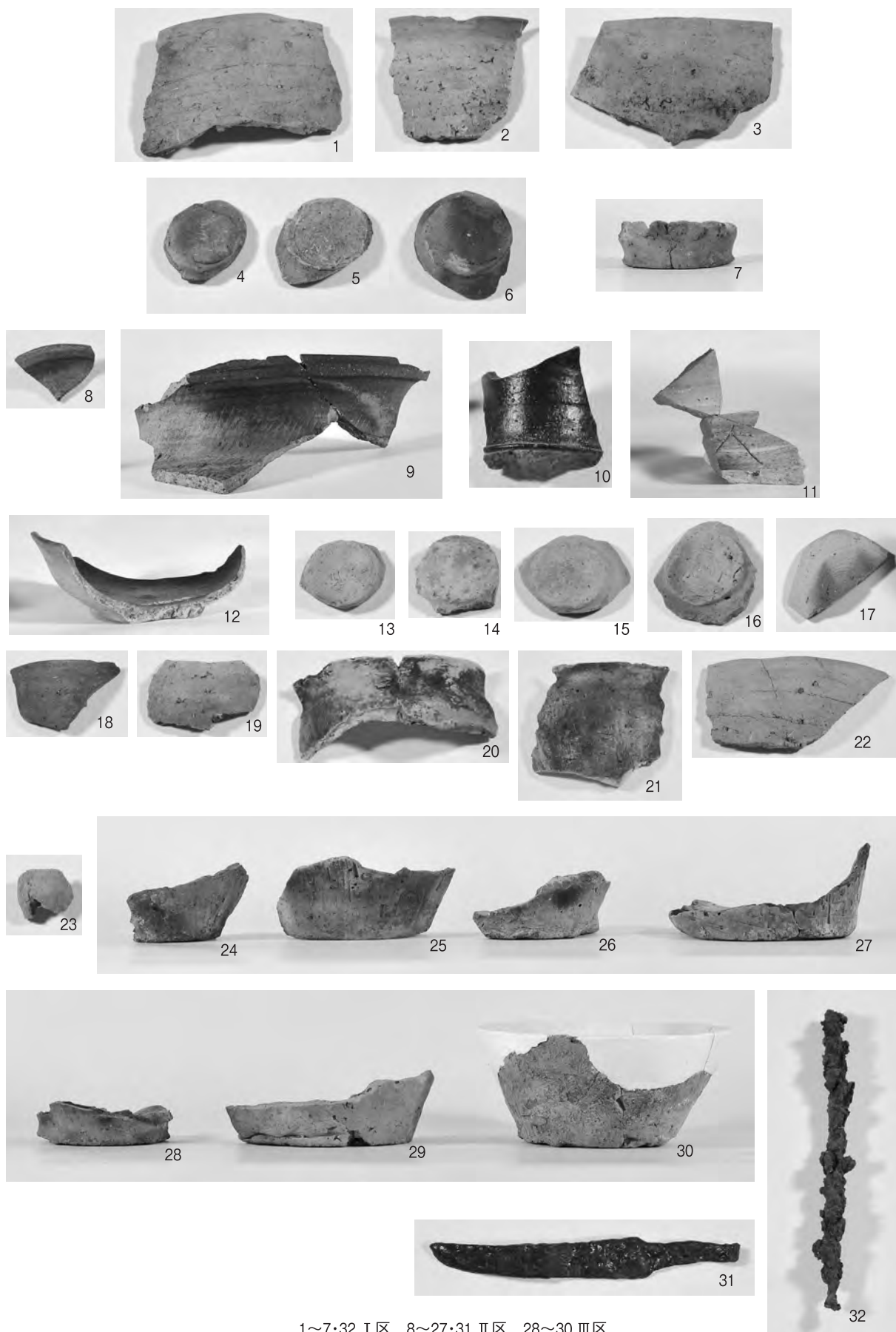


1~10.S I 66 11~14.S X 15

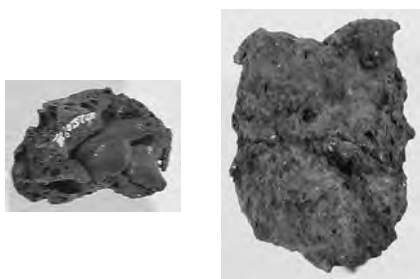
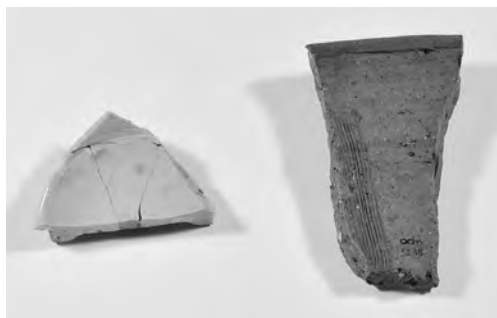


1.10 d 2~4.11 d (S I 33) 5~19.12 d

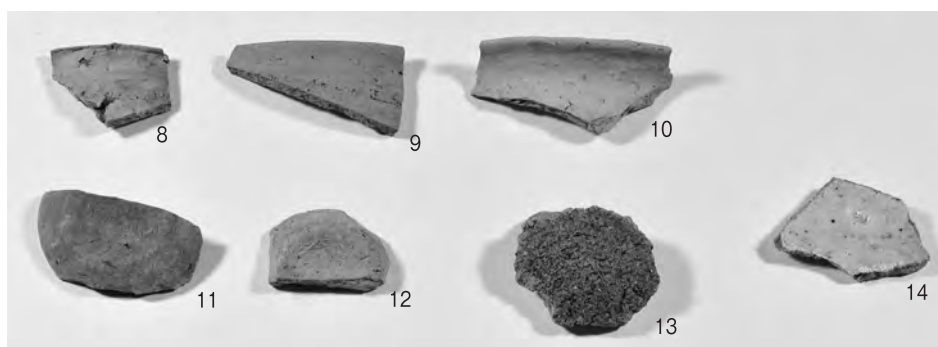
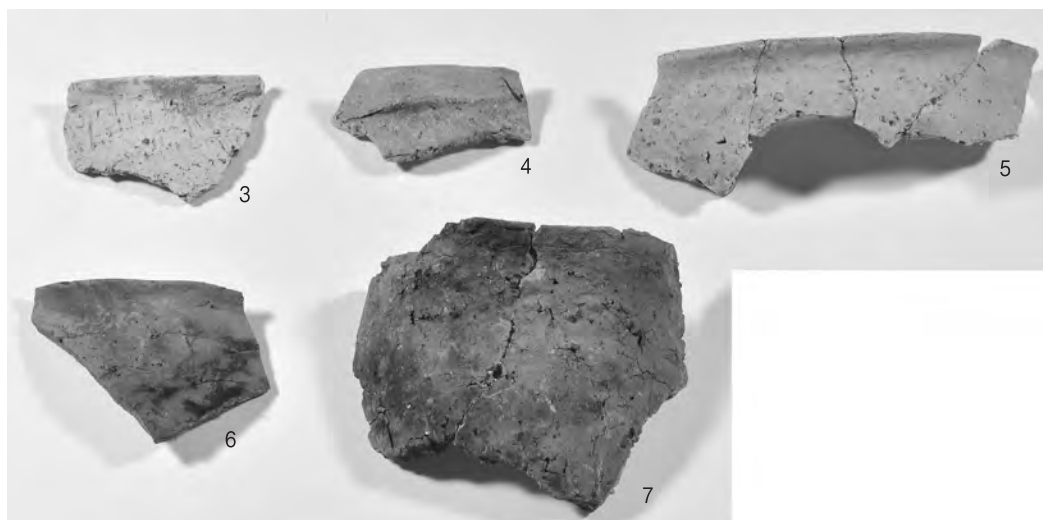
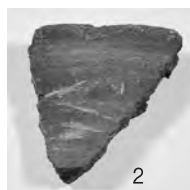
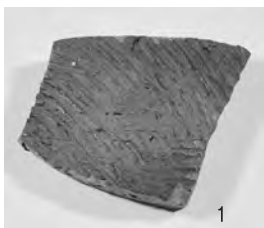
図版94 包含層出土遺物



1~7・32. I 区 8~27・31. II 区 28~30. III 区



図版96 S B 17・S X 9・S E 1・2 出土遺物



1.S B 17 2~7.S X 9 8~19.S E 1 20~22.S E 2

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおだてのいせきはつくつちょうさほうこくしよ
書 名	大館野遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	大館市文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編 著 者 名	板橋範芳・嶋影壮憲・内藤寿志子・三辻利一
編 集 機 関	大館郷土博物館
所 在 地	〒017-0012 秋田県大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地 TEL 0186-48-2119 FAX 0186-48-2512
発 行 機 関	大館市教育委員会
所 在 地	〒018-3595 秋田県大館市早口字上野43番地1 TEL 0186-43-7111 FAX 0186-54-6100
発行年月日	2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
おおだてのいせき 大館野遺跡	あきたけんおおだてししらすわ 秋田県大館市白沢	05204	4-5	40°20'35"	140°35'11"	19870629～19871031 19880509～19880930 19890410～19890708	7,790	学校・保 育所建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大館野遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 平安時代 中 世	落とし穴 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑・製鉄炉跡 炭窯跡・井戸跡 土師器焼成遺構、溝跡	縄文土器、石器 土師器、須恵器 鉄製品、鉄関連遺物 木製品、炭化糲 陶磁器	・平安時代の大 集落跡 ・製鉄炉3基を 検出

要 約	大館野遺跡は秋田県の北部、大館市に所在する。遺跡は大館市北部の丘陵上、標高約106mに立地する。古代にあっては出羽国に服属するも出羽国内には含まれない。 調査範囲は校舎及び保育所建設部分の幅約90m、長さ約170mである。遺跡の範囲は調査区外にかなり広がる。調査の結果、①縄文・弥生時代、②平安時代、③中世の遺構・遺物が検出された。縄文・弥生時代及び中世の遺構・遺物はごく少なく、主体は平安時代の集落跡である。縄文・弥生時代でもっとも古い土器は縄文中期初頭で、土器は縄文中期以降弥生時代中・後期まで断続的かつ散発的に存在する。 平安時代の遺構には竪穴住居跡約60軒、掘立柱建物跡20棟の他に、土坑・製鉄炉跡などがある集落の成立は10世紀前葉で、衰退は10世紀後半である。掘立柱建物跡には高床式倉庫と考えられる束柱をもつもの(総柱建物)がある。遺跡の性格は遺構や出土遺物からみて、王朝国家期の農耕集落と考えられるが、その成立背景には時期や立地条件からみて十和田火山噴火の災害復旧が想定される。
-----	--

大館野遺跡発掘調査報告書

発行日	平成24年3月31日
編集	大館郷土博物館 大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地
発行	大館市教育委員会 大館市早口字上野43番地1
印刷	株式会社 成文社 北秋田市鷹巣字上家下24番地
